



Sun™ Mainframe Transaction Processing ソフトウェア リファレンスマニュアル

Release 8.1.0

Sun Microsystems, Inc.
www.sun.com

Part No. 819-2519-10
2005 年 6 月, Revision A

コメントの送付: <http://www.sun.com/hwdocs/feedback>

Copyright 2005 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, California 95054, U.S.A. All rights reserved.

米国 Sun Microsystems, Inc. (以下、米国 Sun Microsystems 社とします)は、本書に記述されている技術に関する知的所有権を有しています。これら知的所有権には、<http://www.sun.com/patents>に掲載されているひとつまたは複数の米国特許、および米国ならびにその他の国におけるひとつまたは複数の特許または出願中の特許が含まれています。

本書およびそれに付属する製品は著作権法により保護されており、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。サン・マイクロシステムズ株式会社による事前の許可なく、本製品および本書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。

本製品のフォント技術を含む第三者のソフトウェアは、著作権法により保護されており、提供者からライセンスを受けているものです。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company Limited が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。

本製品は、株式会社モリサワからライセンス供与されたリュウミン L-KL (Ryumin-Light) および中ゴシック BBB (GothicBBB-Medium) のフォント・データを含んでいます。

本製品に含まれる HG 明朝 L と HG ゴシック B は、株式会社リコーがリョービマジクス株式会社からライセンス供与されたタイプフェースマスタをもとに作成されたものです。平成明朝体 W3 は、株式会社リコーが財団法人日本規格協会 文字フォント開発・普及センターからライセンス供与されたタイプフェースマスタをもとに作成されたものです。また、HG 明朝 L と HG ゴシック B の補助漢字部分は、平成明朝体 W3 の補助漢字を使用しています。なお、フォントとして無断複製することは禁止されています。

Sun, Sun Microsystems, Java, AnswerBook2, docs.sun.com, JVM は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems 社の商標もしくは登録商標です。サンのロゴマークおよび Solaris は、米国 Sun Microsystems 社の登録商標です。

すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャーに基づくものです。ORACLE は、Oracle 社の登録商標です。

OPENLOOK, OpenBoot, JLE は、サン・マイクロシステムズ株式会社の登録商標です。

ATOK は、株式会社ジャストシステムの登録商標です。ATOK8 は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、ATOK8 にかかる著作権その他の権利は、すべて株式会社ジャストシステムに帰属します。ATOK Server/ATOK12 は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、ATOK Server/ATOK12 にかかる著作権その他の権利は、株式会社ジャストシステムおよび各権利者に帰属します。

本書で参照されている製品やサービスに関しては、該当する会社または組織に直接お問い合わせください。

OPEN LOOK および Sun™ Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザーおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザー・インターフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

U.S. Government Rights—Commercial use. Government users are subject to the Sun Microsystems, Inc. standard license agreement and applicable provisions of the FAR and its supplements.

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われぬものとします。

本書には、技術的な誤りまたは誤植のある可能性があります。また、本書に記載された情報には、定期的に変更が行われ、かかる変更は本書の最新版に反映されず、さらに、米国サンまたは日本サンは、本書に記載された製品またはプログラムを、予告なく改良または変更することがあります。

本製品が、外国為替および外国貿易管理法(外為法)に定められる戦略物資等(貨物または役務)に該当する場合、本製品を輸出または日本国外へ持ち出す際には、サン・マイクロシステムズ株式会社の事前の書面による承諾を得ることのほか、外為法および関連法規に基づく輸出手続き、また場合によっては、米国商務省または米国所轄官庁の許可を得ることが必要です。

原典:	Sun™ Mainframe Transaction Processing Software Reference Guide Part No: 817-7436-10 Revision A
-----	--



目次

はじめに xv

1. 概要 1

Sun MTP ユーティリティ 1

Sun MTP テーブル 6

Sun MTP 標準規格 7

画面の形式 8

ファンクションキー 9

データ入力の検査 9

ファイル識別子 10

2. ユーティリティ 11

dfhusdup - リソースの定義およびレポート 11

INITIALIZE コマンド 13

DEFINE コマンド 13

MAPSET 属性 14

PROGRAM 属性 14

TRANSACTION 属性 16

DELETE コマンド 19

LIST コマンド 20

COPY コマンド	20
kixasm – Sun MTP アセンブラ	21
kixbms – BMS アセンブラ	22
▼ 7文字を超えるマップ変数名を処理する	24
kixbrw – ファイルの閲覧	24
kixcat – ファイルの連結	25
kixcisam – 外部 C プログラムの実行	25
kixclean – 領域のクリーンアップ	26
kixclt – 共通言語トランスレータ	27
kixcnvtbl81 – テーブルの変換	30
kixcnvtcat81 – VSAM カタログの変換	31
kixcob – Micro Focus コンパイラ	33
kixcontrol – ダンプファイルの生成	34
kixcopy – ファイルのコピー	35
kixdate – 日付および時刻の変更	35
kixdlt – ファイルの削除	36
kixdump – 領域情報の表示	37
kixecho – 端末へのメッセージの書き込み	40
kixed – ファイルの編集	40
kixetrace – トレース機能	41
kixexpcat – VSAM カタログのエクスポート	42
kixexptbl – テーブルのエクスポート	43
kixfile – データセットの状態変更	45
kixgrep – ファイルの検索	51
kiximpcat – ASCII カタログファイルのインポート	51
kiximptbl – テーブルのインポート	52
kixinstall – 構成ユーティリティー	53
kixjas – ジャーナルファイルからのデータの抽出	53

kixjob	– バッチキューへのジョブの移動	55
kixjournal	– ジャーナルファイルの処理	56
kixkeydef	– キーファイルの作成または編集	56
kixlog	– ログファイルへの文字列の書き込み	57
kixmakecnv	– 変換テーブルの作成	58
kixpl1	– PL/I コンパイラ	59
kixplt	– PL/I コマンド言語トランスレータ	60
kixprint	– ディスクへの印刷出力の収集	62
kixprntbl	– 印刷テーブルの表示	62
kixprt	– ファイルの印刷	64
kixrcvdmp	– 回復ファイルの表示	64
	概要情報の表示	65
	有効な回復情報の表示	66
	回復ファイルのダンプ	68
	未確定のリソースマネージャー情報の表示	68
	すべてのリソースマネージャーの情報の表示	69
kixrnm	– ファイル名の変更	70
kixsalvage	– VSAM データの修復	70
	コマンド行の例と生成される出力	72
	冗長な出力の例	74
kixsgu	– SGU の作成	74
kixsh	– シェルの起動	75
kixsnap	– システムスナップショットの取得	75
kixstart	– 領域の起動	77
kixstop	– 領域の停止	77
kixtran	– トランザクションの実行	78
kixupdateGCT	– GCT の更新	78
kixvalfle	– VSAM クラスタの検査	80

kixverify – アクティビティーカウントの表示およびリセット 81
kixview – ファイルの表示 82
unikix – ローカルクライアントプロセス 84
unikixbld – VSAM ファイルビルダー 86
 動作モード 92
 使用上の注意 93
 Update in Place 93
 大規模ファイル 93
unikixi – 3270 クライアントイニシエータプロセス 94
unikixmain – Sun MTP サーバープロセス 96
unikixvsam – COBOL 実行時システム 103
 使用上の注意 104
xxxstart – 起動キーボードの指定 105
xxxunikix – クライアントキーボードの指定 105

3. Sun MTP テーブル 107

Table Manager の起動 107
 ▼ Table Manager を起動する 107
Table Manager の規則 108
 テーブルのマージ方法 110
 テーブルのインポートおよびエクスポート 112
 テーブルエントリのグループ化 113
 テーブルの検索 114
 テーブルの変換 115
標準テーブル 115
 ▼ Standard Tables メニューを表示する 116
 システム初期化テーブル (SIT) 116
 宛先制御テーブル (DCT) 120
 Intrapartition Destinations 画面 121

▼ パーティション内の宛先を追加する	123
パーティション外の宛先画面	123
▼ パーティション外の宛先を追加する	125
遠隔宛先画面	126
▼ 遠隔宛先を追加する	127
ファイル制御テーブル (FCT)	127
ファイル制御テーブル–遠隔ファイルの特性	131
▼ ファイル制御テーブルにデータセットを追加する	132
ファイル制御テーブル–検索画面	133
プログラム制御テーブル (PCT)	134
プログラム制御テーブル–トランザクションクラス画面	137
▼ プログラム制御テーブルにトランザクションを追加する	137
プログラム制御テーブル–検索画面	138
処理プログラムテーブル (PPT)	139
処理プログラムテーブル–Java クラスの詳細画面	141
▼ 処理プログラムテーブルにエントリを追加する	142
処理プログラムテーブル–検索画面	143
端末制御テーブル (TCT)	144
端末制御テーブル–プリンタ	144
▼ 端末制御テーブルにプリンタを追加する	146
端末制御テーブル–3270 デバイス	146
端末制御テーブル–3270 デバイス、ホストおよびポート画面	148
▼ 端末制御テーブルに3270 デバイスを追加する	149
端末制御テーブル–システムエントリ	149
端末制御テーブル–システムエントリのホスト名	151
▼ 端末制御テーブルにシステムエントリを追加する	152
VSAM 構成テーブル (VCT)	153
拡張テーブル	155

- ▼ Extended Tables メニューを表示する 155
- トランザクションクラステーブル (TXC) 156
 - ▼ トランザクションクラステーブルにトランザクションクラスを追加する 157
- プログラムリストテーブル (PLT) 157
 - ▼ プログラムリストテーブルにプログラムを追加する 158
- サインオンテーブル (SNT) 158
 - サインオンテーブル – セキュリティーおよびアカウントリング情報 160
 - ▼ サインオンテーブルにユーザーを追加する 162
 - サインオンテーブル – 検索画面 163
- ジャーナル制御テーブル (JCT) 164
 - ▼ ジャーナル制御テーブルにエントリを追加する 165
- グループ制御テーブル (GCT) 166
 - ▼ グループ制御テーブルにグループを追加する 167
- モニター制御テーブル (MCT) 167
- データ変換テンプレートテーブル (CVT) 168
 - データ変換テンプレートテーブル – 詳細情報 171
 - ▼ データ変換テンプレートテーブルにテンプレートを追加する 174
- 一時記憶領域テーブル (TST) 175
 - ▼ 一時記憶領域テーブルにキューを追加する 176

用語集 177

索引 191

目次

図 1-1	Sun MTP 画面形式の例	8
図 2-1	日付/時刻の構成ユーティリティ (kixdate)	36
図 2-2	トレース管理ユーティリティーメニュー	41
図 2-3	kixkeydef 画面	57
図 3-1	Table Manager メインメニュー	108
図 3-2	テーブルのマージプロセス	111
図 3-3	テーブルのインポートおよびエクスポート	112
図 3-4	システム初期化テーブル	116
図 3-5	宛先制御テーブル	121
図 3-6	Intrapartition Destinations 画面	122
図 3-7	パーティション外の宛先画面	124
図 3-8	Remote Destinations 画面	126
図 3-9	ファイル制御テーブル	128
図 3-10	File Control Table – Remote File Characteristics	131
図 3-11	File Control Table – Lookup 画面	133
図 3-12	プログラム制御テーブル	134
図 3-13	プログラム制御テーブル – トランザクションクラス画面	137
図 3-14	Program Control Table – Lookup 画面	138
図 3-15	処理プログラムテーブル	139
図 3-16	Processing Program Table – Java Class Details 画面	141

図 3-17	Processing Program Table – Lookup 画面	143
図 3-18	Terminal Control Table メインメニュー	144
図 3-19	Terminal Control Table – Printers 画面	145
図 3-20	Terminal Control Table – 3270 Devices メイン画面	146
図 3-21	端末制御テーブル – 3270 デバイス、ホストおよびポート画面	148
図 3-22	Terminal Control Table – System Entries 画面	149
図 3-23	Terminal Control Table – System Entries Host Name 画面	151
図 3-24	VSAM Configuration Table	153
図 3-25	Transaction Class Table	156
図 3-26	Program List Table	157
図 3-27	Sign-On Table	159
図 3-28	Sign-On Table – Security/Accounting 画面	160
図 3-29	Sign-On Table – Lookup 画面	163
図 3-30	Journal Control Table	164
図 3-31	Group Control Table	166
図 3-32	Monitoring Control Table	167
図 3-33	Data Conversion Templates Table – 概要画面	170
図 3-34	Data Conversion Template Detail Table – デフォルト	171
図 3-35	Data Conversion Template Detail Table – キー	172
図 3-36	Temporary Storage Table	175

表目次

表 1-1	Sun MTP ユーティリティ	2
表 1-2	Sun MTP システムテーブル	6
表 2-1	BMS の言語オプション	23
表 3-1	Table Manager のファンクションキー	109
表 3-2	テーブルの検索基準の例	114
表 3-3	サポートされている BMS ページングコマンド	119
表 3-4	SIT のデフォルトのページングコマンド値	120
表 3-5	CVT テンプレート	169

コード例

コード例 2-1	<code>pct.prn</code> ファイルの例 63
コード例 2-2	<code>kixrcvdmp</code> の概要情報 65
コード例 2-3	<code>kixrcvdmp</code> 未確定 UOW の概要情報 65
コード例 2-4	<code>kixrcvdmp</code> 未確定 UOW の有効な回復情報 66
コード例 2-5	<code>kixrcvdmp</code> 未確定のリソースマネージャーの情報 68
コード例 2-6	<code>kixrcvdmp</code> すべてのリソースマネージャーの情報 69

はじめに

このマニュアルでは、次の事項について説明します。

- Sun™ Mainframe Transaction Processing ソフトウェア (Sun MTP) のユーティリティーおよびコマンド行オプション
- 画面例およびフィールドとファンクションキーの説明を含む、各 Sun MTP テーブル

マニュアルの構成

第 1 章では、Sun MTP ユーティリティーおよびテーブルの概要について説明します。

第 2 章では、ユーティリティーについて説明します。

第 3 章では、Sun MTP テーブルについて説明します。

UNIX コマンド

このマニュアルには、システムの停止、システムの起動、およびデバイスの構成などに使用する基本的な UNIX® コマンドと操作手順に関する説明は含まれていない可能性があります。これらについては、以下を参照してください。

- 使用しているシステムに付属のソフトウェアマニュアル
- 下記にある Solaris™ オペレーティングシステムのマニュアル

<http://docs.sun.com>

シェルプロンプトについて

シェル	プロンプト
UNIX の C シェル	<i>machine_name%</i>
UNIX の Bourne シェルと Korn シェル	\$
スーパーユーザー (シェルの種類を問わない)	#

書体と記号について

書体または記号*	意味	例
AaBbCc123	コマンド名、ファイル名、ディレクトリ名、画面上のコンピュータ出力、コード例。	.login ファイルを編集します。 ls -a を実行します。 % You have mail.
AaBbCc123	ユーザーが入力する文字を、画面上のコンピュータ出力と区別して表します。	% su Password:
<i>AaBbCc123</i>	コマンド行の可変部分。実際の名前や値と置き換えてください。	rm <i>filename</i> と入力します。
『 』	参照する書名を示します。	『Solaris ユーザーマニュアル』
[]	参照する章、節、または、強調する語を示します。	第 6 章「データの管理」を参照。 この操作ができるのは「スーパーユーザー」だけです。
\	枠で囲まれたコード例で、テキストがページ行幅を超える場合に、継続を示します。	% grep '^#define \ XV_VERSION_STRING'
[]	省略可能な項目を示します。	unikixmain [-Q]
{ }	垂直線で区切って、代替オプションを示します。	kixfile [-r{Y N}]
	区切り文字 (セパレータ) です。この文字で分割されている引数のうち 1 つだけを指定します。	EXEC CICS READ DATASET FILE

* 使用しているブラウザにより、これらの設定と異なって表示される場合があります。

このマニュアルでは、次の書式を使用してコマンドを表記します。

```
$ command required-argument [optional-argument]
```

コマンドに省略可能な引数が記述されていない場合は、そのコマンドを入力して Return キーを押します。

関連マニュアル

製品	タイトル	Part No.
Sun Mainframe Transaction Processing ソフトウェア	『Sun Mainframe Transaction Processing ソフトウェア 管理者ガイド』	819-2514-10
	『Sun Mainframe Transaction Processing ソフトウェア 構成ガイド』	819-2515-10
	『Sun Mainframe Transaction Processing ソフトウェア 開発者ガイド』	819-2516-10
	『Sun Mainframe Transaction Processing ソフトウェア インストールガイド』	819-2517-10
	『Sun Mainframe Transaction Processing ソフトウェア メッセージガイド』	819-2518-10
	『Sun Mainframe Transaction Processing ソフトウェア 障害追跡とチューニング』	819-2520-10
	『Sun Mainframe Transaction Processing ソフトウェア XA リソースマネージャーの使用』	819-2358-10
Sun Mainframe Batch Manager ソフトウェア	『Sun Mainframe Transaction Processing ソフトウェア ご使用にあたって (Solaris プラットフォーム用)』	819-2521-10
	『Sun Mainframe Batch Manager ソフトウェア 構成ガイド』	819-2505-10
	『Sun Mainframe Batch Manager ソフトウェア インストールガイド』	819-2506-10
	『Sun Mainframe Batch Manager ソフトウェア メッセージガイド』	819-2507-10
	『Sun Mainframe Batch Manager ソフトウェア 移行ガイド』	819-2508-10
	『Sun Mainframe Batch Manager ソフトウェア リファレンスマニュアル』	819-2360-10
	『Sun Mainframe Batch Manager ソフトウェア ユーザーズガイド』	819-2509-10
『Sun Mainframe Batch Manager ソフトウェア ご使用にあたって (Solaris プラットフォーム用)』	819-2510-10	
Sun Mainframe Administration Tool	Sun Mainframe Administration Tool ユーザーズガイド	819-2523-10

製品	タイトル	Part No.
高可用性 (HA) エージェント (Sun Cluster 用)	『Sun Mainframe Transaction Processing ソフトウェア 高可用性 (HA) データサービス (Sun Cluster 用)』	819-2522-10
	『Sun Mainframe Batch Manager ソフトウェア 高可用性 (HA) データサービス (Sun Cluster 用)』	819-2511-10
	『Sun Mainframe Security Facility 高可用性 (HA) データサービス (Sun Cluster 用)』	819-2512-10
Sun Mainframe Security Facility	『Sun Mainframe Security Facility 管理者ガイド』	819-2359-10
	『Sun Mainframe Security Facility ご使用にあたって (Solaris プラットフォーム用)』	819-2513-10
IBM CICS	『CICS アプリケーション・プログラミング・リファレンス』	SC33-1170
	『CICS アプリケーション・プログラミング・ガイド』	SC33-0674
	『CICS Master Index』	SC33-1074
	『CICS Supplied Transactions』	SC33-1686
	『CICS System Programming Reference』	SC33-1689
Server Express	Server Express のマニュアル	*
ACUCOBOL-GT	ACUCOBOL-GT のマニュアル	*
Open PL/I	『Liant Open PL/I User's Guide』	*
	『Liant Open PL/I Language Reference Manual』	*
	『Liant CodeWatch Reference Manual』	*
C	C コンパイラのマニュアル	*
C-ISAM	『C-ISAM Programmer's Manual』	*
	『System Performance Tuning』、Mike Loukides 著、砂原秀樹監訳、株式会社アスキー発行、1995	

* これらのマニュアルは、使用するプラットフォームによって異なります。プラットフォームに該当するマニュアルについては、ご購入先にお問い合わせください。

Sun のマニュアルの注文方法

日本語版を含め、Sun のマニュアルは次のサイトで、表示や印刷、または購入ができます。

<http://www.sun.com/documentation>

Sun の技術サポート

この製品に関して、このマニュアルでも解決しない技術的な質問がある場合は、次のサイトからお問い合わせください。

<http://www.sun.com/service/contacting>

コメントをお寄せください

マニュアルの品質改善のため、お客様からのご意見およびご要望をお待ちしております。コメントは下記よりお送りください。

<http://www.sun.com/hwdocs/feedback>

ご意見をお寄せいただく際には、下記のタイトルと Part No. を記載してください。

『Sun Mainframe Transaction Processing ソフトウェア リファレンスマニュアル』、
Part No. 819-2519-10

第1章

概要

この章では、Sun Mainframe Transaction Processing ソフトウェア (Sun MTP) ユーティリティおよび Sun MTP テーブルの概要について説明します。次のトピックがあります。

- 1 ページの「Sun MTP ユーティリティ」
 - 6 ページの「Sun MTP テーブル」
 - 7 ページの「Sun MTP 標準規格」
-

Sun MTP ユーティリティ

第2章では、Sun MTP ユーティリティおよびコマンド行オプションについて説明します。ユーティリティには、プログラムファンクション (PF) キーを押すなどユーザーの要求に応じて起動されるもの、およびユーザーによってコマンドプロンプトまたはシェルスクリプトから起動されるものがあります。本番稼働システムでは、承認されたユーザーのみが実行できるように、各ユーティリティへのアクセスを制限してください。次の表に、ユーティリティをアルファベット順に一覧表示します。

注 - これらのユーティリティを使用する前に、\$KIXSYS および \$UNIX など、領域の環境変数を設定する必要があります。領域環境の設定については、『Sun Mainframe Transaction Processing ソフトウェア 構成ガイド』を参照してください。

表 1-1 Sun MTP ユーティリティ

ユーティリティ	説明
11 ページの「dfhusdup - リソースの定義およびレポート」	DFHUSD ファイルの初期設定を含め、システム定義ファイル内のリソースを定義およびレポートするために使用されるバッチユーティリティ。
21 ページの「kixasm - Sun MTP アセンブラ」	「Set Assembler Options」画面で PF4 キーを押すと起動されます。「Compilation」メニューの詳細は、『Sun Mainframe Transaction Processing ソフトウェア 開発者ガイド』を参照してください。
22 ページの「kixbms - BMS アセンブラ」	「Set Assembler Options」画面で PF4 キーを押すか、「BMS Maintenance」画面で PF12 を押すと、kixasm ユーティリティおよび kixsgu ユーティリティによって起動されます。画面生成ユーティリティ (SGU) の詳細は、『Sun Mainframe Transaction Processing ソフトウェア 開発者ガイド』を参照してください。
24 ページの「kixbrw - ファイルの閲覧」	「File Utilities」メニューで、閲覧するファイルを 1 つ以上選択すると起動されます。詳細は、『Sun Mainframe Transaction Processing ソフトウェア 開発者ガイド』を参照してください。
25 ページの「kixcat - ファイルの連結」	「File Utilities」メニューで、連結するファイルを 1 つ以上選択すると起動されます。詳細は、『Sun Mainframe Transaction Processing ソフトウェア 開発者ガイド』を参照してください。
25 ページの「kixcisam - 外部 C プログラムの実行」	仮想記憶アクセス方式 (VSAM) ファイルにアクセスする、Sun MTP リソースとして定義されていない C プログラムを実行します。
26 ページの「kixclean - 領域のクリーンアップ」	正常に停止しない領域を停止してクリーンアップします。
27 ページの「kixclt - 共通言語トランスレータ」	COBOL、C、および PL/I 用の Sun MTP 共通言語トランスレータ。このユーティリティは、プログラムを変換する前にすべてのファイルを検出して組み込みます。kixclt はコマンド行から実行します。Server Express プログラムおよび PL/I プログラムの場合、「Compilation」メニューの「Set Compiler Options」画面で PF4 キーを押して kixclt を起動することもできます。C プログラムを変換するには、コマンド行インタフェースを使用する必要があります。詳細は、『Sun Mainframe Transaction Processing ソフトウェア 開発者ガイド』を参照してください。
30 ページの「kixcnvtb181 - テーブルの変換」	以前のバージョンの Sun MTP を使用して作成されたテーブルを Release 8.1.0 の形式に変換します。
31 ページの「kixcnvtcat81 - VSAM カタログの変換」	以前のバージョンのソフトウェアを使用して作成された VSAM カタログを Release 8.1.0 の形式に変換します。
33 ページの「kixcob - Micro Focus コンパイラ」	Server Express プログラムを選択して「Set Compiler Options」画面でコンパイルキー (PF4) を押すと起動されます。「Compilation」メニューの詳細は、『Sun Mainframe Transaction Processing ソフトウェア 開発者ガイド』を参照してください。

表 1-1 Sun MTP ユーティリティ (続き)

ユーティリティ	説明
34 ページの「kixcontrol - ダンプファイルの生成」	フォーマットされたアプリケーションダンプを有効または無効にします。
35 ページの「kixcopy - ファイルのコピー」	「File Utilities」メニューで、コピーするファイルを 1 つ以上選択すると起動されます。詳細は、『Sun Mainframe Transaction Processing ソフトウェア 開発者ガイド』を参照してください。
35 ページの「kixdate - 日付および時刻の変更」	Sun MTP および Sun Mainframe Batch Manager (Sun MBM) の日付および時刻を変更する方法を提供する日付/時刻の構成ユーティリティーメニュー。詳細は、『Sun Mainframe Transaction Processing ソフトウェア 管理者ガイド』を参照してください。
36 ページの「kixdlt - ファイルの削除」	「File Utilities」メニューで、削除するファイルを 1 つ以上選択すると起動されます。詳細は、『Sun Mainframe Transaction Processing ソフトウェア 開発者ガイド』を参照してください。
37 ページの「kixdump - 領域情報の表示」	特定の領域に関する情報を表示します。現在実行しているトランザクション、テーブルおよびファイルの情報、トレーステーブルの情報、または統計情報を表示できます。
40 ページの「kixecho - 端末へのメッセージの書き込み」	要求側の端末にメッセージを送信するために起動されるシェルプログラム。
40 ページの「kixed - ファイルの編集」	ファイルの編集が必要な場合に実行されます。このユーティリティを使用すると、コンパイル前にファイルを編集できます。また、領域には、コンパイルによって作成された一時ファイルが表示されます。
41 ページの「kixetrace - トレース機能」	領域の実行中にトレースオプションを変更できるようになります。必ずご購入先の指示のもとで使用してください。
42 ページの「kixexpcat - VSAM カタログのエクスポート」	VSAM カタログファイルを表示およびエクスポートします。
43 ページの「kixexptbl - テーブルのエクスポート」	領域のテーブルを .lst 形式にエクスポートします。
45 ページの「kixfile - データセットの状態変更」	Sun MTP の動作中に VSAM ファイルを操作します。詳細は、『Sun Mainframe Transaction Processing ソフトウェア 管理者ガイド』を参照してください。
51 ページの「kixgrep - ファイルの検索」	「File Utilities」メニューで、検索するファイルを 1 つ以上選択すると起動されます。詳細は、『Sun Mainframe Transaction Processing ソフトウェア 開発者ガイド』を参照してください。
51 ページの「kiximpcat - ASCII カタログファイルのインポート」	2 つのファイル (*.dta および *.idx) を指定した ASCII テキストファイルからインポートすることによって VSAM カタログを作成します。
52 ページの「kiximptbl - テーブルのインポート」	領域のテーブルを .lst ファイルからインポートします。

表 1-1 Sun MTP ユーティリティ (続き)

ユーティリティ	説明
53 ページの「kixinstall - 構成ユーティリティ」	各プラットフォームで Sun MTP 実行可能プログラムを構築するのに必要なアプリケーション言語、サン以外の製品、ユーザーオブジェクト、規則、およびコマンドを定義するために使用される構成ユーティリティ。
53 ページの「kixjas - ジャーナルファイルからのデータの抽出」	アカウントレコードを ASCII 形式レコードに変換します。詳細は、『Sun Mainframe Transaction Processing ソフトウェア 管理者ガイド』を参照してください。
55 ページの「kixjob - バッチキューへのジョブの移動」	タイプ JOB の一時データキュー (TDQ) に書き込まれたトランザクションが SYNCPOINT を実行するときに呼び出されます。KIXBTCH 環境変数が示すディレクトリに一時データをコピーできるようになります。
56 ページの「kixjournal - ジャーナルファイルの処理」	ジャーナルファイルが最大サイズに達すると、そのファイルを処理します。
56 ページの「kixkeydef - キーファイルの作成または編集」	キーファイルの作成または編集に使用されます。
57 ページの「kixlog - ログファイルへの文字列の書き込み」	3 つの領域ログファイルへのインタフェースを提供します。
58 ページの「kixmakecnv - 変換テーブルの作成」	変換テーブルファイルを作成します。
59 ページの「kixp11 - PL/I コンパイラ」	PL/I コンパイラ。PL/I プログラムを選択して、「Compilation」メニューの「Set Compiler Options」画面で PF4 キーを押すと起動されます。詳細は、『Sun Mainframe Transaction Processing ソフトウェア 開発者ガイド』を参照してください。
60 ページの「kixplt - PL/I コマンド言語トランスレータ」	PL/I 用の Sun MTP コマンド言語トランスレータ。*.plt プログラムを選択して、「Compilation」メニューの「Set Compiler Options」画面で PF4 キーを押すと起動されます。UNIX コマンド行から kixplt を実行することもできます。
62 ページの「kixprint - ディスクへの印刷出力の収集」	オンライントランザクションによって作成されたファイルを印刷するために起動されます。このシェルスクリプトは、ファイルを印刷するかディスクに保存するかを判定します。ファイルを印刷する場合、このプログラムは実際に印刷するプリンタを判定します。
62 ページの「kixprntbl - 印刷テーブルの表示」	領域のテーブルおよびその内容をリストするレポートを印刷します。
64 ページの「kixprt - ファイルの印刷」	「File Utilities」メニューで、印刷するファイルを 1 つ以上選択すると起動されます。詳細は、『Sun Mainframe Transaction Processing ソフトウェア 開発者ガイド』を参照してください。
64 ページの「kixrcvdmp - 回復ファイルの表示」	回復ファイルの内容を表示します。

表 1-1 Sun MTP ユーティリティ (続き)

ユーティリティ	説明
70 ページの「kixrnm - ファイル名の変更」	「File Utilities」メニューで、名前を変更するファイルを選択すると起動されます。詳細は、『Sun Mainframe Transaction Processing ソフトウェア 開発者ガイド』を参照してください。
70 ページの「kixsalvage - VSAM データの修復」	破壊された VSAM ファイルから新規ファイルに修復可能なすべてのデータを走査およびダンプします。
74 ページの「kixsgu - SGU の作成」	「BMS Maintenance」メニューで PF12 キーを押すと起動されます。詳細は、『Sun Mainframe Transaction Processing ソフトウェア 開発者ガイド』を参照してください。
75 ページの「kixsh - シェルの起動」	「Development System」メインメニューで PF10 キー (UNIX で実行) を押すと起動されます。詳細は、『Sun Mainframe Transaction Processing ソフトウェア 開発者ガイド』を参照してください。
75 ページの「kixsnap - システムスナップショットの取得」	異常停止時の領域のトランザクションサーバー、テーブル、システムプロセス、およびユーザーに関する情報を取得します。
77 ページの「kixstart - 領域の起動」	unikixmain プログラムを実行して、領域を開始します。特定の unikixmain オプションを使用すると、kixstart をサブミットできます。 このプログラムには、UNIX キーボードと X サーバーとの組み合わせによって、さまざまなバリエーションがあります。xxxstart の説明を参照してください。
77 ページの「kixstop - 領域の停止」	領域を順番に停止して、システムが終了する前に休止させます。
78 ページの「kixtran - トランザクションの実行」	トランザクションをバッチまたはプロンプトから開始します。
78 ページの「kixupdateGCT - GCT の更新」	グループ管理テーブル (GCT) をコマンド行から更新します。
80 ページの「kixvalfle - VSAM クラスタの検査」	VSAM クラスタを検査します。VSAM ファイルの構造が不確かな場合、このユーティリティを使用します。
81 ページの「kixverify - アクティビティカウンターの表示およびリセット」	VSAM データセットのアクティビティ カウンターを表示およびリセットします。
82 ページの「kixview - ファイルの表示」	ファイルの内容を表示します。
84 ページの「unikix - ローカルクライアントプロセス」	ローカル端末のクライアントプロセスを開始します。
86 ページの「unikixbld - VSAM ファイルビルダー」	VSAM ファイルをバッチジョブから操作します。
94 ページの「unikixi - 3270 クライアントイニシエータプロセス」	3270 クライアントイニシエータプロセスを開始します。

表 1-1 Sun MTP ユーティリティ (続き)

ユーティリティ	説明
96 ページの「unikixmain - Sun MTP サーバープロセス」	Sun MTP メインサーバープロセスを開始します。
103 ページの「unikixvsam - COBOL 実行時システム」	シェルスクリプト内から COBOL プログラムを実行する実行時システム。
105 ページの「xxxstart - 起動キーボードの指定」	特定の端末またはキーボードを使用して、X サーバー環境で領域を開始するシェルスクリプト。
105 ページの「xxxunikix - クライアントキーボードの指定」	特定のキーボードタイプの xterm クライアント内で Sun MTP 関連プロセスを開始するシェルスクリプト。詳細は、『Sun Mainframe Transaction Processing ソフトウェア 構成ガイド』を参照してください。

Sun MTP テーブル

Sun MTP テーブルの詳細は、第 3 章で説明します。次の表は、システムテーブルとその内容の一覧です。「Standard Tables」メニューと「Extended Tables」メニューのどちらからテーブルを開くかについても示します。

表 1-2 Sun MTP システムテーブル

テーブル	内容	メニュー
データ変換テンプレートテーブル (CVT)	システム間操作中にデータを変換する方法について記述します。	詳細
宛先制御テーブル (DCT)	一時データコマンドによって処理できる宛先名または宛先キュー。	標準
ファイル制御テーブル (FCT)	領域のアプリケーションプログラムによって使用される VSAM データファイルの情報。	標準
グループ管理テーブル (GCT)	テーブルの情報を含む追加ディレクトリを定義します。	詳細
ジャーナル管理テーブル (JCT)	ユーザージャーナルを定義します (SIT はシステムジャーナルを定義します)。	詳細
モニター管理テーブル (MCT)	トランザクションおよびユーザーログを制御する情報。	詳細
処理プログラムテーブル (PPT)	領域のトランザクションによって参照されるアプリケーションプログラム、テーブル、および BMS マップセット。	標準

表 1-2 Sun MTP システムテーブル (続き)

テーブル	内容	メニュー
プログラム制御テーブル (PCT)	トランザクションを特定および初期化するために領域によって使用される制御情報。	標準
プログラムリストテーブル (PLT)	システムの起動、ユーザーの起動、またはシステムのシャットダウン時に自動的に開始されるプログラム。	詳細
サインオンテーブル (SNT)	領域のトランザクションの使用を承認されたユーザーのリスト。	詳細
システム初期化テーブル (SIT)	領域名を識別するシステム開始情報。	標準
一時記憶領域テーブル (TST)	一時記憶領域コマンドによって処理できるキューを定義するために使用される情報。	詳細
端末制御テーブル (TCT)	端末、プリンタ、および遠隔システムの接続の識別情報。	標準
トランザクションクラステーブル (TXC)	ユーザー定義のトランザクションクラス	詳細
VSAM 構成テーブル (VCT)	領域の操作を制御するデータ。	標準

Sun MTP 標準規格

この節では、次の Sun MTP 標準規格について説明します。

- 8 ページの「画面の形式」
- 9 ページの「ファンクションキー」
- 9 ページの「データ入力の検査」
- 10 ページの「ファイル識別子」

ご使用のユーザーアプリケーションによって、標準規格が異なる場合があります。

画面の形式

すべてのデータエントリ画面は、4つの領域に分かれています。

画面の領域	説明
ヘッダー領域 (1 行目)	現在の画面名および現在の日付/時刻が示されます。
詳細領域 (2 ~ 20 行目)	メニュー、データエントリ画面、およびファイル選択領域が含まれます。
応答領域 (21 行目)	通常は、行全体に下線 () が引かれています。データをディスクに書き込む処理などの実行でエラーが発生すると、エラー条件を示すメッセージが強調表示されます。実行中の処理の状態が表示される場合もあります。
ファンクションキー 説明領域 (22 ~ 24 行目)	画面で使用可能なファンクションキーおよびそれを押したときに実行できる操作が表示されます。

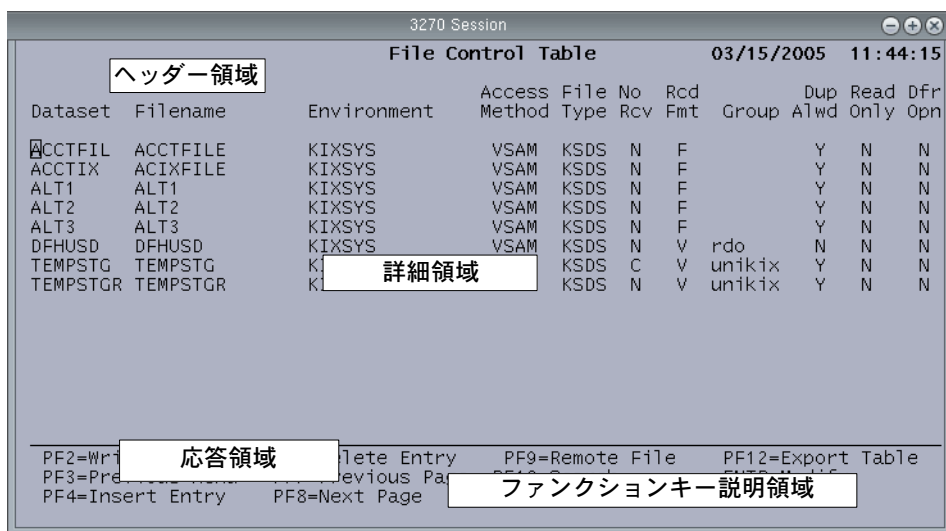


図 1-1 Sun MTP 画面形式の例

ファンクションキー

次のファンクションキーは、Sun MTP 画面で特定の操作を実行します。

ファンクションキー	アクション
PF3	前の画面に戻ります。画面でデータを変更してディスクにその変更を書き込まずにこのキーを押すと、次の警告が表示されます。 Table has been modified. Press PF3 if modification is only temporary. 変更を保存しない場合は PF3 を押すか、別の操作を実行する場合はその他のキーを押します。
Enter	現在表示されているエントリのデータを変更します。保護されていない値を上書きしてこのキーを押すと、画面の内容が変更されます。すべてのフィールドが関連の検証テストに通った場合だけデータが変更されます。
Clear	新しいトランザクションを入力できるように画面を消去します。
Reset	数値フィールドへのテキストの入力など、操作エラーのあとでシステムをリセットします。

キーボードの割り当てについては、『Sun Mainframe Transaction Processing ソフトウェア 構成ガイド』を参照してください。

データ入力の検査

データフィールドには大文字および小文字の両方を入力できます。ほとんどの場合、小文字は大文字に変換されます。一部のデータフィールドでは、小文字が有効なデータとして受け入れられます。通常、CICS コマンド関連のフィールドでは大文字に変換され、その他のフィールドでは入力されたままの状態になります。たとえば、データセットは大文字に変換され、ファイル名は入力されたままの状態になります。

データ入力の検査により、無効なデータが含まれるフィールドが強調表示されます。カーソルがエラーデータを含む最初のフィールドに移動し、応答領域に次のようなメッセージが表示されます。

```
Data in field invalid/required
```

ファイル識別子

ファイル識別子は、次の 2 つの要素で構成されます。

- ディレクトリ、または 1 つ以上のディレクトリを指定できる環境変数
- ファイル識別子の最後の部分を構成するファイル名

ファイル識別子を入力する場合は、次の表の説明に従う必要があります。

ファイル識別子	説明
ディレクトリ	Sun MTP で使用される絶対ディレクトリ名は、50 文字以内でなければなりません。パス名の任意の部分に代えて、先頭にドル符号 (\$) を付けた環境変数を使用できます。たとえば、次の 2 行はどちらも有効であり、同一のディレクトリ名を示します。 <ul style="list-style-type: none">• mtp/mtp8/finance/sys• \$KIXSYS \$ 符号は、KIXSYS 環境変数を完全な値に展開します。
環境変数	ディレクトリやファイルの名前、または値 (1 ~ 14 文字)。通常、環境変数はすべて大文字です。
ファイル名	拡張子も含む Sun MTP ファイル名 (1 ~ 14 文字)。

第2章

ユーティリティー

この章で説明するユーティリティーは、\$UNIX/bin ディレクトリにあります。名前はアルファベット順に並べられています。

dfhusdup – リソースの定義およびレポート

dfhusdup は、システム定義ファイルのリソースを定義およびレポートするために使用するバッチユーティリティーです。DFHUSD ファイルの初期化にも使用します。

必要なオプションとコマンドを使用して、このユーティリティーを Sun MTP 標準バッチにサブミットする必要があります。行の最初の列にアスタリスク (*) を入力することによって、コメントをバッチファイルに組み込みます。コマンド、属性、または属性タイプが次の行に続く場合は、72 列目にアスタリスクを入力する必要があります。

次の例は、バッチファイルでコメントを表すアスタリスクが使用され、コマンドが継続していることを示しています。

```
*Define a program
DEFINE PROGRAM(SAL001) GROUP(SALES1) DESCRIPTION(Daily sales*
program)
```

注 – ほとんどの属性値の場合、入力したテキストは大文字に変換されます。例外は、大文字と小文字の両方がサポートされる GROUP、DESCRIPTION、JVMCLASS、および SHLIB の値です。

形式:

```
dfhusdup CMDFILE=commands-filename|stdin [PRINTFIL=filename]  
[PAGESIZE=nnn] [USD=READWRITE|READONLY]
```

オプション	説明
CMDFILE	リソース定義コマンドを含むファイル名 <i>commands-filename</i> または <i>stdin</i> のどちらかを指定します。 <i>stdin</i> を指定する場合、コマンドは次のような形式に並べます。 dfhusdup CMDFILE= <i>stdin</i> <<! <dfhusdup <i>commands</i> > <dfhusdup <i>commands</i> > !
PRINTFIL	<i>filename</i> を指定した場合、レポートは指定したファイルに保存されます。デフォルトでは、標準出力 (<i>stdout</i>) に出力されます。
PAGESIZE	ページの行数を示します。デフォルトは 60 です。
USD	システム定義ファイルの操作を制御します。デフォルトは READWRITE です。 READWRITE: 更新コマンドを実行できます READONLY: 検索コマンドだけを実行できます

次の dfhusdup コマンドがサポートされています。

```
COPY  
DEFINE  
DELETE  
INITIALIZE  
LIST
```

関連項目

代替リソース定義の使用法については、『Sun Mainframe Transaction Processing ソフトウェア 構成ガイド』を参照してください。

dfhusdup の使用例、およびバッチ処理については、『Sun Mainframe Transaction Processing ソフトウェア 開発者ガイド』を参照してください。

シェルスクリプトの書き方については、ご使用の UNIX のマニュアルを参照してください。

INITIALIZE コマンド

INITIALIZE コマンドは、システム定義ファイル DFHUSD を初期化します。その他の dfhusdup コマンドまたは CEDA トランザクションを使用する前に、DFHUSD ファイルを初期化する必要があります。DFHUSD ファイルの初期化は 1 回だけです。

形式:

```
INITIALIZE
```

DEFINE コマンド

DEFINE コマンドは、リソースを定義します。サポートされているリソースタイプは、マップセット、プログラム、およびトランザクションです。

形式:

```
DEFINE [MAPSET(mapset-name) [attribute (value) ...] | |  
PROGRAM(program-name) [attribute (value) ...] |  
TRANSACTION(transaction-name) [attribute (value) ...]  
GROUP (group-name)
```

オプション	説明
MAPSET(<i>mapset-name</i>)	マップセットを指定します。スペースを含めず、8 文字まで使用できます。C で始まるシステム提供のプログラム名およびマップセット名は使用できません。小文字は大文字に変換されます。
PROGRAM(<i>program-name</i>)	プログラムを指定します。スペースを含めず、8 文字まで使用できます。C で始まるシステム提供のプログラム名およびマップセット名は使用できません。小文字は大文字に変換されます。
TRANSACTION(<i>transaction-name</i>)	トランザクションを指定します。スペースを含めず、4 文字まで使用できます。C で始まるシステム提供のプログラム名およびマップセット名は使用できません。小文字は大文字に変換されます。
GROUP (<i>group-name</i>)	リソースを追加するグループを指定します。スペースを含めず、8 文字まで使用できます。グループが存在しない場合は、作成されます。
<i>attribute (value) . . .</i>	リソースの属性。

MAPSET 属性

次の MAPSET 属性がサポートされています。

```
[DESCRIPTION (description) ]  
[STATUS (ENABLED | DISABLED) ]
```

オプション	説明
DESCRIPTION (<i>description</i>)	マップセットの説明。58 文字まで使用できます。
STATUS (ENABLED DISABLED)	マップセットの状態を指定します。ENABLED がデフォルトです。

PROGRAM 属性

次の PROGRAM 属性がサポートされています。

```
[DESCRIPTION (description) ]  
[LANGUAGE ( [ASSEMBLER | C | COBOL | PLI] ) ]  
[STATUS (ENABLED | DISABLED) ]
```

オプション	説明
DESCRIPTION (<i>description</i>)	プログラムの説明。58 文字まで使用できません。
LANGUAGE ([ASSEMBLER C COBOL PLI])	プログラミング言語を指定します。指定しない場合のデフォルトは COBOL です。 ASSEMBLER: CICS LOAD と CICS RELEASE コマンドを使用してアプリケーションプログラムによって参照されるテーブル C: C 言語 COBOL: COBOL 言語 PLI: PL/I 言語
STATUS (ENABLED DISABLED)	マップセットの状態を指定します。ENABLED がデフォルトです。

遠隔プログラム属性:

```
[ EXECUTIONSET ( FULLAPI | DPLSUBSET ) ]  
[ REMOTENAME ( program-name ) ]  
[ REMOTESYSTEM ( system-name ) ]  
[ TRANSID ( transid ) ]
```

オプション	説明
EXECUTIONSET (FULLAPI DPLSUBSET)	REMOTESYSTEM 名がローカルシステム名と同じ場合、DPL プログラムがローカルシステムで遠隔システムと同じように動作するように指定します。詳細は、『Sun Mainframe Transaction Processing ソフトウェア 管理者ガイド』を参照してください。 FULLAPI: プログラムは、すべての CICS API コマンドを使用できます。デフォルト値です。 DPLSUBSET: プログラムは DPL 制限 API を使用できません。
REMOTENAME (<i>program-name</i>)	遠隔 Sun MTP または CICS システムのプログラムを指定します。REMOTENAME を指定しないで REMOTESYSTEM を指定すると、Sun MTP は、PROGRAM (<i>program-name</i>) の名前を使用します。詳細は、『Sun Mainframe Transaction Processing ソフトウェア 管理者ガイド』を参照してください。
REMOTESYSTEM (<i>system-name</i>)	指定した場合、Sun MTP 領域による DPL 要求の送信先となる遠隔 Sun MTP または CICS システムを指定します。 <i>system-name</i> は、「TCT – System Entries」テーブルに存在する必要があります。
TRANSID (<i>transid</i>)	要求されたプログラムに遠隔システムが接続するトランザクションを指定します。詳細は、『Sun Mainframe Transaction Processing ソフトウェア 管理者ガイド』を参照してください。

Java™ 仮想マシン (JVM™) 属性:

```
[ JVMCLASS ( class-name ) ]
```

オプション	説明
JVMCLASS (<i>class-name</i>)	Java プログラムのメインクラスを特定します。クラス名は、大文字と小文字の両方がサポートされます。

Sun MTP 固有の拡張:

[PRELOAD (NO | YES)
[SHLIB (*shared-library-name*)]

オプション	説明
PRELOAD (NO YES)	トランザクションサーバーが起動時に共用ライブラリを開くかどうかを示します。
SHLIB(<i>shared-library-name</i>)	特定のプログラムを含む共用ライブラリを指定します (最大 16 文字)。KIXLIB 環境変数がパス名に設定されていない限り、すべてのエントリは \$KIXSYS を基準にした相対パスであるとみなされます。 これは、API に対する Sun MTP 独自の拡張機能です。

TRANSACTION 属性

次の TRANSACTION 属性がサポートされています。

[DESCRIPTION (*description*)]
[PROGRAM (*program-name*)]
[STATUS (ENABLED | DISABLED)]
[TASKREQ (*value*)]
[TWASIZE (0-32767)]

オプション	説明
DESCRIPTION (<i>description</i>)	トランザクションの説明 (最大 58 文字) です (オプション)。大文字と小文字の両方がサポートされます。
PROGRAM (<i>program-name</i>)	プログラム名を指定します。プログラム名は小文字です。
STATUS (ENABLED DISABLED)	トランザクションの状態を指定します。ENABLED がデフォルトです。
TASKREQ (<i>value</i>)	プログラムをトランザクションとして開始するキーを指定します。このフィールドが空白の場合、プログラムをトランザクションとして開始するキーはありません。有効な値は次のとおりです。 PF1 ~ PF24 PA1 ~ PA3
TWASIZE (0-32767)	トランザクション作業領域 (TWA) のサイズを指定します (バイト単位)。

遠隔属性:

[LOCALQ (NO | YES)]
[REMOTESYSTEM (*system-name*)]
[REMOTENAME (*program-name*)]

オプション	説明
LOCALQ (NO YES)	遠隔システムが使用できない場合、遠隔システムにシッ プされたトランザクションをローカルのキューに入れる かを指定します。デフォルトは NO です。
REMTENAME (<i>transaction-name</i>)	遠隔 Sun MTP または CICS 領域のトランザクションを 指定します。REMTENAME を指定しないで REMOTESYSTEM を指定すると、Sun MTP は、ローカル システムにあるトランザクション名を使用します。トラ ンザクション ID の長さは 1 ~ 4 文字です。
REMOTESYSTEM (<i>system-name</i>)	指定した場合、Sun MTP によるトランザクションの送信 先となる遠隔 Sun MTP または CICS システムを指定し ます。TCT のシステムエントリテーブルで、4 文字のシ ステム名を定義しておく必要があります。

スケジューリング属性:

[TRANCLASS (*transaction-class*)]

オプション	説明
TRANCLASS (<i>transaction-class</i>)	トランザクションが割り当てられるトランザクションク ラスを指定します。

回復属性:

[DUMP (YES | NO)]

オプション	説明
DUMP (YES NO)	トランザクションが異常終了した場合にトランザクションダンプを 生成するかどうかを指定します。デフォルトは YES です。

次の属性は、Sun MTP 固有のものであり、IBM CICS セットにはありません。

[SCREENSIZE (DEF | ALT)]
[ACCOUNTING (DEF | NO | YES)]
[FILEID (0-99)]
[APPC (YES | NO)]
[TRANSEC (1-64)]

オプション	説明
SCREENSIZE (DEF ALT)	<p>デフォルト画面サイズまたは代替画面サイズを指定します。</p> <p>DEF: デフォルト画面サイズ。24 行 × 80 列 (モデル 2 3270 端末タイプ用)。</p> <p>ALT: 代替画面サイズ。27 行 × 132 列 (モデル 5 3270 端末タイプ用)、または 43 行 × 80 列 (モデル 4 3270 端末タイプ用)。</p>
ACCOUNTING (DEF NO YES)	<p>トランザクションに対してアカウンティングがオンかオフかを示します。</p> <p>YES: SIT の「Accounting」フィールドが Y に設定されている場合、トランザクションに対するアカウンティングはオンになっています。</p> <p>NO: アカウンティングは、このトランザクションではオフになっています。</p> <p>DEF: (デフォルト) アカウンティングは SIT の「Accounting」フィールドおよび MCT によって制御されます。</p>
FILEID (0-99)	<p>トランザクションに対するジャーナルファイル識別子 (1 ~ 99) を指定します。アカウンティングが N に設定されている場合、このフィールドは無視されます。</p> <p>JCT で File ID が指定されていない場合、ジャーナルファイル名は JRNL と File ID 値を連結して作成されます (たとえば、JRNL05)。</p>
APPC (YES NO)	<p>トランザクションがバックエンド DTP トランザクションかどうかを指定します。</p> <p>YES: トランザクションは、バックエンドの DTP プログラムで、ISC 機能を実行します。</p> <p>NO: トランザクションは、バックエンドの DTP プログラムではありません。アウトバウンド ISC 機能を実行できませんが、遠隔 Sun MTP または CICS 領域によって開始された場合、想定どおりには実行されません。</p>

オプション	説明
TRANSEC (1-64)	<p>トランザクションのセキュリティーレベル (1 ~ 64) を指定します。この値は、トランザクションを入力した端末のユーザーに関連付けられた SNT のセキュリティーキー領域に設定されるビット値セットに対応します。</p> <p>外部セキュリティー管理が使用可能な場合 (KIXSEC=YES)、 「Trans Sec」 の値は無視されます。</p> <p>ユーザーが CSSN (CESN) を使用して明示的にサインオンするとき、あるいは Sun MTP が起動したときにユーザー ID と SNT のユーザー ID が一致した場合に暗黙的にサインオンするとき、セキュリティーキーが SNT によってユーザーに対して設定されます。デフォルトでは、各ユーザーはセキュリティーレベル 1 のときだけトランザクションをサブミットできます。すべてのシステム トランザクションは、最初にトランザクションセキュリティーレベル 1 に設定されるので、すべてのユーザーがアクセスできます。</p> <p>CSMT、CEMT など、Sun MTP 環境を構成するために使用されるクリティカルなトランザクションについては、セキュリティーレベルを上げる必要があります。Sun MTP のセキュリティーについては、『Sun Mainframe Transaction Processing ソフトウェア 管理者ガイド』のセキュリティーの章を参照してください。</p>

DELETE コマンド

DELETE コマンドは、リソースを削除するために使用します。複数のグループやリソースを削除できます。

形式:

```
DELETE [MAPSET (mapset-name) | PROGRAM (program-name) |
TRANSACTION (transaction-name) ] GROUP (group-name)
```

オプション	説明
GROUP (<i>group-name</i>)	<p>リソースを削除するグループを指定します。</p> <p>RESOURCE TYPE を指定しない場合は、GROUP 定義を含むグループ全体が削除されます。</p>
MAPSET (<i>mapset-name</i>) PROGRAM (<i>program-name</i>) TRANSACTION (<i>transaction-name</i>)	<p>削除するリソース (マップセット、プログラム、トランザクション) を指定します。汎用リソース名を指定できません。最後のリソースまたは最後のリソースのグループを指定した場合は、GROUP 定義も削除されます。</p>

LIST コマンド

LIST コマンドは、グループ、グループ内のリソース、および各リソースの属性をレポートするために使用します。

形式:

```
LIST GROUP (group-name) | ALL [OBJECTS]
```

オプション	説明
ALL	リソースファイル内のすべてのグループをレポートします。
GROUP (<i>group-name</i>)	レポートするグループを指定します。総称名を指定できません。
OBJECTS	レポートのレベルを指定します。指定した場合は、各リソースの属性がレポートされます。省略した場合は、リソース名を持つグループだけがレポートされます。

COPY コマンド

COPY コマンドは、グループのすべてのリソース定義を別のグループにコピーします。

形式:

```
COPY GROUP (group-name1) TO (group-name2) [MERGE | REPLACE]
```

オプション	説明
GROUP (<i>group-name1</i>)	リソースのコピー元のグループを指定します。総称名を指定できます。
TO (<i>group-name2</i>)	リソースのコピー先のグループを指定します。総称名を指定できます。GROUP パラメータに総称名を指定しない場合、TO パラメータに総称名を指定できません。GROUP パラメータと TO パラメータの両方に総称名を使用する場合、TO グループの文字数は、GROUP パラメータよりも少なくする必要があります。グループ定義が存在しない場合は作成されます。
MERGE	リソースが TO グループに存在する場合、TO グループのリソース定義を保持します。
REPLACE	リソースが TO グループに存在する場合、GROUP パラメータによって指定されたグループの定義に置き換えられます。

kixasm – Sun MTP アセンブラ

kixasm は、基本マッピングサポート (BMS) マップのアセンブルに使用します。
kixasm シェルスクリプトを起動するには、「Set Assembler Options」画面で PF4 (アセンブル) キーを押します。

形式

```
kixasm [-c] [-l] [-o] [-y] [-9] filename
```

オプション	説明
-c	コピーファイルを生成します。
-l	リストファイルを生成します。
-o	出力ファイルを <i>filename</i> で指定します。
-y	Sun MTP 端末プロセッサに接続される端末デバイスを示します。
-9	一時出力ファイル名を示します。
<i>filename</i>	「Set Assembler Options」画面に表示されるディレクトリおよびファイル名の連結を示します。

kixbms – BMS アセンブラ

「Set Assembler Options」画面で PF4 (アセンブル) キーを押したとき、あるいは「BMS Maintenance」メニューで PF12 (Create SGU) キーを押して COBOL または PL/I マップファイルを選択したとき、kixbms アセンブラが起動されます。

コマンドプロンプトから kixbms を実行することもできます。

形式:

```
kixbms [-a] [-A] [-c] [-m {i|o}] [-s] [-q] [-t n]
[-o output-filename] filename ...
```

オプション	説明
-a	ユーザープログラム用の出力データを位置合わせします。長さにかかわらず、すべてのフィールドが偶数バイト境界に位置合わせされます。デフォルトでは、すべてのフィールドがどこのバイト境界上からでも開始できます。SIT が ALIGNED マップを指定している場合だけ、このオプションを使用します。通常、このオプションは、メインフレームで使用されていない限り指定しません。
-A	ASCII コードの場合、DFHMDF マクロの XINIT オプションの値を保持します。通常、XINIT オプションには EBCDIC の 16 進数値が入り、その値が kixbms ユーティリティによって ASCII に変換されます。
-c	BMS ファイル (<i>filename</i>) の LANG の値に応じて、このオプションは、ユーザープログラムに組み込む必要がある COBOL コピーブック、C ヘッダーファイル、または PL/I インクルードファイルを作成します。詳細は、表 2-1 を参照してください。
-m [i o]	マップセット (DFHMSD) マクロの MODE オプションを上書きします。オプションに続けて次の i または o のどちらかを指定する必要があります。 i: MODE は IN o: MODE は OUT
-o <i>output-filename</i>	デフォルトの出力ファイル名を、指定した出力ファイル名で上書きします。デフォルトの出力ファイル名は、 <i>filename</i> と同じですが、拡張子 <i>.map</i> または <i>.sgu</i> が付けられます。2 つ以上の入力 <i>filename</i> を指定できますが、-o オプションは最初の入力 <i>filename</i> だけに適用されます。
-q	文字列を示すデフォルトの文字を上書きします。デフォルトは、アポストロフィ文字 (') です。-q を指定すると、引用符文字 (") が使用されます。

オプション	説明
-s	拡張子 <code>.sgu</code> を使用して出力ファイルを生成します。これは、フルスクリーンペイントの SGU に対する入力として使用されます。詳細は、『Sun Mainframe Transaction Processing ソフトウェア 開発者ガイド』を参照してください。
-t <i>n</i>	デフォルトのタブ設定 (8 文字) を上書きします。-t オプションを指定する場合、オプションに続けて 1～7 の数字を指定する必要があります。 入力ファイルにタブ文字が見つかったら、指定する数だけ空白文字に置き換えられます。
<i>filename ...</i>	アセンブルする BMS ファイルの名前を 1 つ以上指定します (必須)。このファイルの拡張子は <code>.bms</code> です。

次の表に、`kixbms` コマンドで `-c` オプションを使用した場合に各言語で作成されるファイルを示します。

表 2-1 BMS の言語オプション

言語	出力ファイル	使用法
COBOL	TSTMNU.map TSTMNU	\$KIXMAPS のマップ COBOL コピーブック (COPY TSTMNU.)
C	TESTMNU.map TSTMNU.h	\$KIXMAPS のマップ C ヘッダーファイル (#include "TSTMNU.h")
PLI	TSTMNU.map TSTMNU.inc	\$KIXMAPS のマップ PL/I インクルードファイル (%include 'TSTMNU.inc';)

注 - `kixbms` を実行する場合、ファイル名は必須であり、指定しないとエラーメッセージが発行されます。

▼ 7 文字を超えるマップ変数名を処理する

プログラムが7文字を超えるマップ変数名を参照している場合、kixbms ユーティリティーを実行する前にマップソースを変更する必要があります。

1. DFHMDF のラベルを FF00nnnn に変更します (nnnn は任意の数値)。
2. DFHMDF の上の行で、長い変数名を含むコメント行を次の形式で挿入します。

```
* 'variable-name'
```

次に例を示します。

```
* 'ACCTMENU1'  
F000001 DFHMDF POS=(5,16),ATTRB=(UNPROT,NORM),LENGTH=12
```

3. kixbms ユーティリティーを `-c` オプションを付けて実行し、マップをアSEMBルしてコピーブックを作成します。

次に例を示します。

```
$ kixbms -c map.bms
```

kixbrw – ファイルの閲覧

「File Utilities」メニューで閲覧するファイルを1つ以上選択すると、このシェルスク립トが起動されます。kixbrw ユーティリティーは、デフォルトのエディタを使用して閲覧専用でファイルを表示します。

形式:

```
kixbrwterminaldevice files
```

オプション	説明
<code>terminaldevice</code>	Sun MTP 端末プロセッサに接続される端末デバイスを示します。
<code>ファイル</code>	閲覧するファイルを指定します。

kixcat – ファイルの連結

「File Utilities」メニューで連結するファイルを1つ以上選択すると、kixcat シェルスクリプトが起動されます。

形式:

```
kixcat [-C filename] [-O terminaldevice] [-T filename]
```

オプション	説明
-C <i>filename</i>	連結するファイルを指定します。必要な数だけ -C オプションを指定できます。
-O <i>terminaldevice</i>	Sun MTP 端末プロセッサに接続される端末デバイスを示します。
-T <i>filename</i>	ターゲットファイル名を指定します。-C オプションで指定するすべてのファイルがこのファイルに連結されます。

kixcisam – 外部 C プログラムの実行

kixcisam ユーティリティは、Sun MTP にリソースとして定義されていなくても VSAM ファイルにアクセスする C プログラムを実行します。

形式:

```
kixcisam
```

kixcisam を実行する前に、次の操作を行う必要があります。

- C-ISAM ライブラリを使用した C プログラムのコンパイル。
- VCT の構成。
- KIXCISAM 環境変数の設定。

手順の詳細は、『Sun Mainframe Transaction Processing ソフトウェア 開発者ガイド』を参照してください。

kixclean – 領域のクリーンアップ

kixclean ユーティリティーは、通常の領域の停止方法が機能しない場合に、領域を停止してクリーンアップします。領域の停止の詳細は、『Sun Mainframe Transaction Processing ソフトウェア 構成ガイド』を参照してください。

kixclean ユーティリティーは、領域によって割り当てられたものの、領域が停止したときに自動的に解放されなかった IPC (プロセス間通信) 領域の割り当てを解除し、活動中の Sun MTP プロセスを削除します。

領域が強制的に中止されたら、kixsnap ユーティリティーを実行してから kixclean を実行します。

kixclean では、解放する領域のシステムテーブルを含むディレクトリを KIXSYS 環境変数に指定する必要があります。

形式:

```
kixclean [-a]
```

kixclean は、オプションなしで次の操作を実行します。

- 印刷待ち行列を除き、すべての IPC 領域を消去します。
- 印刷待ち行列に残っているすべてのメッセージを印刷プロセッサに出力させ、自動的に終了させます。

kixclean -a は、次の操作を実行します。

- すべての IPC 領域を消去します。
- 印刷プロセッサが動作している場合、印刷待ち行列が削除されます。印刷サーバーを待機しているすべてのメッセージは消失します。通常の停止が失敗した場合にだけ、このオプションを使用します。

kixclean を使用して停止した領域を再起動する前に、kixverify -rALL を実行し、領域の VSAM ファイルを閉じてリセットする必要があります。

注 – すべてまたは一部のリソースで回復が有効になっている場合、クラッシュ時に使用していた構成で領域が再起動されることを確認してください。

注意

このユーティリティーへのアクセスは制限してください。

関連項目

75 ページの「kixsnap – システムスナップショットの取得」

81 ページの「kixverify – アクティビティーカウントの表示およびリセット」

kixclt – 共通言語トランスレータ

kixclt ユーティリティーは、Sun MTP 共通言語トランスレータです。CICS COBOL プログラム、C プログラム、または PL/I プログラムを変換する前に、すべてのコピーファイル、ヘッダーファイル、またはインクルードファイルを検出して組み込みます。入力ファイルの名前には、次の拡張子のいずれかが含まれます。

.clt	OS/VS COBOL で記述されたプログラム
.cl2	COBOL II で記述されたプログラム
.ccs	EXEC CICS コマンドを使用した C プログラム
.pli、.p11	Open PL/I コマンドだけ
.plt	EXEC CICS コマンドの Open PL/I
.pp1	EXEC CICS コマンドおよびデータベース (Oracle®) コマンドの Open PL/I

kixclt ユーティリティーは、Server Express、ACUCOBOL-GT®、C、および PL/I の場合はコマンド行から実行します。kixclt ユーティリティーは、Sun MTP Development System for Server Express プログラムおよび PL/I プログラムからも実行されます。

Sun MTP から	「Set Compiler Options」メニューで COBOL または PL/I ファイルを選択し、コンパイルキー (PF4) を押します。
コマンド行から	この節で示す構文を必要なオプションとともに使用します。変換後に適切な言語コンパイラを使用します。

形式:

```
kixclt [-A] [-C] [-d oracle] [-E] [-e ex1,ex2,ex3,ex4]
[-f upper|lower] [-o filename] [-q] [-r] [-t n] [-u] program ...
```

オプション	説明
-A	Sun MTP による CICS API のサポート状況を表示する監査レポートを、検出されたエラーを含めて作成します。監査レポートファイルの拡張子は .audlst です。 このオプションは変換コードを生成しません。
-C	トランスレータが、LINKAGE SECTION および PROCEDURE DIVISION にある COPY 文だけを処理するようにします。WORKING-STORAGE SECTION の COPY 文は処理されません。LINKAGE SECTION 文および PROCEDURE DIVISION 文は、.clt または .cl2 ソースコードの一部である必要があります。つまり、これらの文を、COPY ファイル内に含めることはできません。 このオプションは、主として Micro Focus コンパイラの oldcopy オプションを使用するプログラムで必要です。C プログラムおよび PL/I プログラムでは無視されます。
-d oracle	プログラムに Oracle SQL 文が含まれることを示します。
-E	.audlst ファイルは削除されますが、拡張子 .err の概要監査レポートは保持されます。このオプションは、-A オプションとともに使用します。ともに使用しない場合、-E オプションは無視されます。
-e ex1,ex2,ex3,ex4	最大 4 つの追加のコピーブック拡張子を使用できます。ファイル拡張子は、空白文字を入れずにコンマで区切ります。
-f upper lower	コピーブック名に対する大文字小文字のインジケータとして使用します。
-o filename	デフォルトの出力ファイル名を、オプションで指定する出力ファイル名 filename で上書きします。2 つ以上の入力 program を指定できますが、-o オプションは、コマンド行上の最初の program だけに適用されます。
program ...	適切な拡張子を含むファイル名を示します。
-q	文字列を示すデフォルトの文字を上書きします。デフォルトは、アポストロフィ文字 (') です。-q を指定すると、引用符文字 (") が使用されます。
-r	コピーブックの拡張フェーズからの一時出力ファイルを保持します。 .err ファイルの警告メッセージおよびエラーメッセージは、この一時ファイルの行番号を使用します。

オプション	説明
-t <i>n</i>	デフォルトのタブ設定 (8 文字) を上書きします。-t オプションを指定する場合、オプションに続けて 1 ～ 7 の数字を指定する必要があります。入力ファイルにタブ文字が見つかったら、指定する数だけ空白文字に置き換えられます。
-u	<p>トランスレータが、LINKAGE SECTION のデータから PROCEDURE DIVISION USING を構築するのではなく、PROCEDURE DIVISION 文でユーザーが指定する PROCEDURE DIVISION USING 情報だけを組み込むようにします。</p> <p>トランスレータは、ユーザーが指定した情報の前に DFHEIBLK パラメータおよび DFHCOMMAREA パラメータを 1 番目および 2 番目の USING パラメータとして挿入します。次の例を参照してください。</p> <p>このオプションは、C プログラムおよび PL/I プログラムでは無視されます。</p>

たとえば、コードの次の行を変換した場合:

```
PROCEDURE DIVISION USING ABC_TABLE
```

プログラムの LINKAGE SECTION にある他の 01 データの内容にかかわらず、kixclt -u は次の行を表示します。

```
PROCEDURE DIVISION USING DFHEIBLK DFHCOMMAREA ABC_TABLE
```

注 - kixclt で変換エラーが発生した場合、ゼロ以外のリターンコードが発行されません。

kixcnvtbl81 – テーブルの変換

kixcnvtbl81 ユーティリティは、Release 7.x および Release 8.0.x で作成された Sun MTP テーブルを Release 8.1.0 の形式に変換します。テーブルのファイル名には .tbl という拡張子が必要です。

kixcnvtbl81 は、変換される前のファイルをファイル名に .old を追加してコピーします。このユーティリティが実行するときに、.tbl.old という拡張子を持つファイルが存在する場合は上書きされません。kixcnvtbl81 ユーティリティは、新しいテーブル形式で既存の .tbl ファイルを上書きします。

形式

```
kixcnvtbl81 -d directory
```

-d *directory* オプションは、変換するテーブルの位置を示します。*directory* には、絶対パス名、相対パス名、または \$KIXSYS などの環境変数を指定できます。グループ管理テーブル (GCT) を含むディレクトリを指定すると、kixcnvtbl81 は、GCT で定義された各グループディレクトリのすべてのテーブルを変換します。

注意

このユーティリティへのアクセスは制限してください。

同じディレクトリで 2 回以上 kixcnvtbl81 を使用しないでください。.tbl ファイルおよび .tbl.old ファイルが破壊される場合があります。ファイルが破壊された場合、可能であれば元のテーブルをバックアップから復元し、復元したファイルに対してこのユーティリティを実行します。

kixcnvtcat81 – VSAM カタログの変換

kixcnvtcat81 ユーティリティは、Release 7.x より前のリリースで作成された Sun MTP VSAM カタログを Release 8.1.0 の形式に変換します。

このユーティリティは、定義されている各データセットに対して有効なデフォルト値が変換された VSAM カタログに含まれていることを保証します。kixcnvtcat80 は、\$KIXSYS ディレクトリの指定された VSAM カタログ (カタログ名が指定されていない場合は、CATALOG) を使用します。最初に、kixexpcat ユーティリティが起動され、新しいカタログレコードフィールドを持つ ASCII テキストファイルが生成されます。次に、kiximpcat が起動され、その ASCII テキストファイルを使用して VSAM カタログを再構築します。詳細は、42 ページの「kixexpcat – VSAM カタログのエクスポート」および 51 ページの「kiximpcat – ASCII カタログファイルのインポート」を参照してください。

kixcnvtcat81 ユーティリティは、既存の VSAM カタログ .dta ファイルおよび .idx ファイルのコピーをファイル名に .old を追加して \$KIXSYS ディレクトリに作成します。これらのファイルがすでに \$KIXSYS ディレクトリに存在する場合、kixcnvtcat81 を実行すると上書きされます。既存の .dta ファイルおよび .idx ファイルは、新しいカタログ形式の .dta ファイルおよび .idx ファイルに置き換えられます。また、kixcnvtcat81 を起動するときカタログ名を指定していた場合、\$KIXSYS ディレクトリに作成された ASCII テキストファイルは CATALOG.lst または catalog.lst という名前で保存されます。このファイルは、別のディレクトリまたはバックアップ用の媒体にコピーし、必要に応じて kiximpcat を使用して VSAM カタログを再構築するために使用できます。

変換後の VSAM カタログに対して kixcnvtcat81 ユーティリティを使用しても効果がありません。変換されたカタログのフィールドの値を変更する必要がある場合は、File Manager を使用します。

なんらかの理由で以前のリリースバージョンの VSAM カタログが必要な場合、元の .dta ファイルおよび .idx ファイルをバックアップから復元するか、カタログを再構築する必要があります。再構築する前に、Release 8.1.0 バージョンのカタログを削除する必要があります。以前のリリースを再インストールしたあと、以前のリリースカタログの ASCII テキストファイルに対して kiximpcat ユーティリティを起動してカタログを再構築します。

形式:

```
kixcnvtcat81 -r {Y | N} [-c catalog-file]
```

オプション	説明
-r {Y N}	VSAM カタログのバッチ読み取りロックフィールドを Y または N に設定します。
-c <i>catalog-file</i>	VSAM カタログを特定します。このオプションを指定しない場合、VSAM カタログは CATALOG とみなされます。

注 - バッチ読み込みロックフィールドに加えて、VSAM カタログには、ファイルが再使用可能であることを示す再使用フィールドが含まれます。このフラグは、kixcnvtcat81 ユーティリティによって自動的に Y に設定されます (7.0 より前のリリースでは、再使用の許可がデフォルト)。ファイルごとに再使用フィールドの値を変更するには、File Manager を使用してください。

オプションを指定しないで kixcnvtcat81 ユーティリティを実行する場合、次のプロンプトが表示されます。

```
No batch read-locking option was specified for converting $KIXSYS/CATALOG;  
Do you want to continue with the batch read-locking option set to 'Y'?
```

このプロンプトに対して Y を入力すると、kixcnvtcat81 は、-r オプションに対する値として Y、-c オプションに対する値として CATALOG が指定されたものとみなします。N を入力すると、kixcnvtcat81 は終了して、次のメッセージを表示します。

```
構文 kixcnvtcat -r {Y|N} [-c catalog]  
      -r set read-locking flag  
      -c catalog name; CATALOG assumed if not specified  
Please retry with the required option
```

このメッセージは、コマンドオプションを指定して構文エラーが発生したときにも表示され、ユーティリティは終了します。

このユーティリティを実行する前に KIXSYS 環境変数を設定していない場合、kixcnvtcat81 はエラーメッセージを表示して終了します。

注意

このユーティリティへのアクセスは制限してください。

同じディレクトリで kixcnvtcat81 を 2 回以上使用すると、.dta.old および .idx.old バージョンの VSAM カタログは上書きされます。

VSAM カタログを再度変換する必要がある場合、.dta.old ファイルおよび .idx.old ファイルをそれぞれ .dta および .idx にコピーして、kixcnvtcat81 ユーティリティーを実行する必要があります。

関連項目

File Manager については、『Sun Mainframe Transaction Processing ソフトウェア 管理者ガイド』を参照してください。

バッチ読み込みロックおよび VSAM RC (読み取り一貫性) についての詳細は、『Sun Mainframe Transaction Processing ソフトウェア 開発者ガイド』を参照してください。

kixcob – Micro Focus コンパイラ

kixcob シェルスクリプトは、Micro Focus コンパイラを呼び出します。開発システムの COBOL の「Set Compiler Options」メニュー画面で PF4 (コンパイル) キーを押すと実行されます。

形式:

```
kixcob [-c] [-o] [-y] [-9] filename
```

オプション	説明
-c	COBCPY 環境変数を設定します。パラメータおよび \$COBCPY の既存の値が渡されます。
-o	出力ファイルを指定します。
-y	Sun MTP 端末プロセッサに接続される端末デバイスを示します。
-9	一時出力ファイル名を示します。

他のすべてのオプションは、そのままコンパイラに渡されます。

filename	「Set Compiler Options」メニュー画面に表示されるディレクトリおよびファイル名の連結を示します。
----------	---

kixcontrol – ダンプファイルの生成

kixcontrol ユーティリティーは、ダンプおよびトレースを動的にオンまたはオフにするために使用します。オプションを指定し、トレースの適用範囲をトランザクション、端末、プログラム、データセット、コマンドに制限することもできます。専用のトレースオプションは、サポート要員の指示に従って問題を診断するためのものです。

形式:

```
kixcontrol [-E] [-d {y|n}] [-D c] [-T transid] [-R termid]  
[-P program] [-F dataset] [-C command] [-A] [-N] [-S] [-h]
```

オプション	説明
-E	このオプションは、技術サポートの指示のもとでのみ使用します。
-d {y n}	書式付きアプリケーションダンプファイルの生成を有効あるいは無効にします。 y: 実行時システムがエラーを検出した場合、プログラムが CICS ABEND コマンドを HANDLE ABEND コマンドなしで使用した場合、または記憶領域不足などのエラーが発生した場合に、書式付きアプリケーションダンプファイルを生成します。これはデフォルトです。 n: 書式付きアプリケーションダンプファイルを生成しません。
-D c	unikixtran、unikixvsam、または rtsvsam プロセスがアプリケーションプログラムの実行中に中断された場合に、特定の状況下でコアファイルを生成します。たとえば、アプリケーションプログラムが無効なメモリー位置 (SIGSEGV) にアクセスしようとした場合、unikixtran プロセスが中断され、コアファイルが生成されません。unikixmain.err ファイル内のメッセージに、コアファイルが記述されたディレクトリが示されます。
-T <i>transid</i>	指定したトランザクションで実行されている CICS API コマンドのみをトレースします。
-R <i>termid</i>	指定した端末で実行されている CICS API コマンドのみをトレースします。
-P <i>program</i>	指定したプログラムで実行されている CICS API コマンドのみをトレースします。
-F <i>dataset</i>	指定したデータセットにアクセスしている CICS API コマンドのみをトレースします。
-C <i>command</i>	指定した CICS API コマンドのみをトレースします。
-A	デバッグファイルに対してすべての CICS API トレースを有効にします。

オプション	説明
-N	すべての CICS API トレースを無効にします。
-S	現在の API トレース設定を表示します。
-h	トレース可能なすべての CICS コマンドとともに詳細なヘルプ画面を表示します。

注意

このユーティリティーへのアクセスは制限してください。

kixcopy – ファイルのコピー

kixcopy シェルスクリプトは、「File Utilities」メニューでコピーするファイルを選択すると起動されます。

形式:

```
kixcopy file1 file2
```

オプション	説明
<i>file1</i>	コピー元ファイルを指定します。
<i>file2</i>	コピー先ファイルを指定します。

kixdate – 日付および時刻の変更

kixdate の日付/時刻の構成ユーティリティーでは、メニュー選択で Sun MTP システムおよび Sun MBM システムの日付および時刻を変更できます。デフォルトでは、コンピュータのシステム時間が Sun MTP と Sun MBM に適用されます。ログ、画面、トレース、ダンプ、およびレポートに Sun MTP が表示するすべての日付の年は 4 桁で表示されます (YYYY)。

コマンドプロンプトで kixdate と入力して、「Date/Time Configuration Utility」メニューを呼び出します。

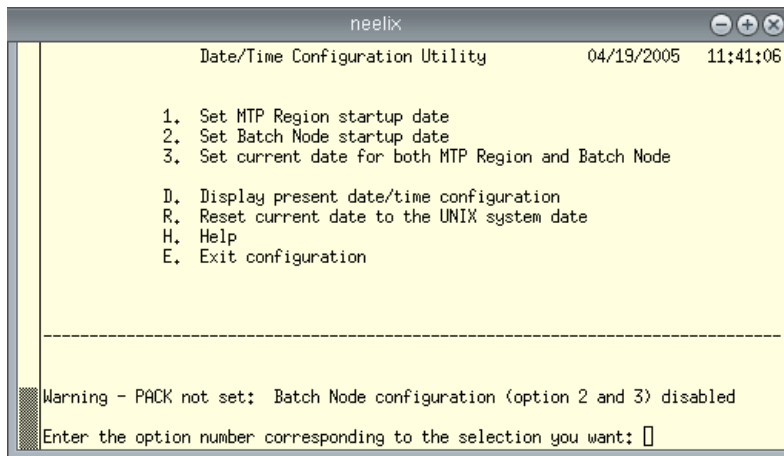


図 2-1 日付/時刻の構成ユーティリティー (kixdate)

注意

設定できる年は、1970 ~ 2030 年です。

関連項目

kixdate の使用法については、Sun MTP の『Sun Mainframe Transaction Processing ソフトウェア 管理者ガイド』を参照してください。

Sun MBM での日付/時刻構成ユーティリティーの使用法については、『Sun Mainframe Batch Manager ソフトウェア 構成ガイド』を参照してください。

kixdlt - ファイルの削除

kixdlt シェルスクリプトは、「File Utilities」メニューで削除するファイルを選択すると起動されます。

形式:

```
kixdlt files
```

files 変数は、削除するファイルのリストを示します。

kixdump – 領域情報の表示

kixdump ユーティリティーは、特定の領域の動作に関する情報を表示します。現在実行しているトランザクション、テーブル情報とファイル情報、トレーステーブル情報、および統計情報を表示できます。このプログラムは、領域の共用メモリー領域へリンクされ、これらの共用メモリー領域が存在する場合だけ実行できます。共用メモリーが破壊された場合、kixdump からの出力にはその原因に関する情報が含まれません。

形式:

```
kixdump [-A] [-a] [-G] [-g] [-M] [-P resource-name] [-q]
[-s [validate|dumplinks|address]]
[-S a|cefipqrstuv] [-T] [-u] [-v]
```

オプション	説明
-A	非同期 <i>START</i> キューエントリをダンプします。非同期 <i>START</i> キューエントリは、Sun MTP でメモリーに作成され、インターバル制御コマンドをサポートします。詳細は、『Sun Mainframe Transaction Processing ソフトウェア 障害追跡とチューニング』を参照してください。
-a	すべてのダンプオプションを設定します (<i>gmstTuv</i>)。領域が正常に機能している場合は、-a オプションを使用しないでください。
-G	TCT 内の端末エントリの書式付きダンプを表示します。
-g	TCT 内の端末エントリの生のダンプを表示します。端末の数は、VCT に設定された端末の最大数によって異なります。詳細は、第 3 章を参照してください。
-M	共用メモリー、最大コア、およびしきい値メモリーのアドレス値を表示します。しきい値メモリーの設定は、unikixmain コマンドの -M <i>t</i> および -M <i>c</i> オプションによって決定されます。
-P <i>resource-name</i>	メモリー内の PPT 構造の内容をレポートします。総称名を指定できます。 マップセット名が指定されている場合、マップセットのリソース名が、そのマップを使用するトランザクション処理プログラム名とともに表示されます。次に例を示します。 特定のリソースに関する情報を表示する場合。 \$ kixdump -P INVPGM1 INV で始まる名前のすべてのリソースに関する情報を表示する場合。 \$ kixdump -P 'INV*'

オプション	説明
-q	有効な一時記憶領域キューに関する基本情報 (キュー名、キュータイプ、現在のサイズ、項目数、およびキューから読み取られた最後の項目) を表示します。
-s validate dumplinks <i>address</i>	共有メモリー情報を表示します。このとき、ユーザーは次の操作のいずれかを実行できます。
	<p>validate</p> <ul style="list-style-type: none"> 共有メモリーの完全性をテストします。Sun MTP は、大きなブロックサイズで共有メモリーを割り当てます。共有メモリーブロックのサイズは、unikixmain コマンドの -s オプションの値によって設定されます。 一時記憶領域 (メイン)、VSAM ブラウズ制御領域、端末入出力領域などに共有メモリーが必要な場合、共有メモリーのこれらのブロックはより小さい領域に分割されます。 これらすべての割り当てられた小さい領域のヘッダーをチェックして、ヘッダーを上書きしたトランザクションがないことを確認します。
	<p>dumplinks</p> <ul style="list-style-type: none"> 共有メモリーから割り当てられたすべての領域のヘッダーをダンプします。表示される情報には、領域のタイプ、サイズ、およびその領域を割り当てたトランザクション処理プログラムが含まれます。
	<p><i>address</i></p> <ul style="list-style-type: none"> 共有メモリーの特定の領域を次の形式でダンプします。 -s "0x<hex address> by 0x<hex length>" <p>このオプションは、dumplinks オプションを使用して特定のアドレスおよび長さを決定したあとにのみ使用します。</p>

オプション	説明
-S a cefipqrstuv	<p>現在の領域に関するすべてのまたは選択した統計情報を表示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> a すべての統計情報を表示します。cefipqrstuv パラメータの設定と同じです。 c CICS コマンド統計情報 (実行された各 CICS コマンドに関する情報) を表示します。 e 環境変数 (領域が使用している環境変数に関する情報) を表示します。 f ファイル統計情報 (各ファイルの読み取りおよび書き込み数に関する情報) を表示します。 i 領域の IPC 利用状況 (共用メモリー、メッセージキュー、およびセマフォ) を表示します。 p アプリケーション統計情報 (実行中の各トランザクションに関する情報) を表示します。 q キュー統計情報 (領域によって使用される IPC キューの現在の状態に関する情報) を表示します。 r 変更前イメージの統計情報 (回復ファイルに対する変更前イメージの数およびフラッシュの数に関する情報) を表示します。 s 統計情報の概要 (システム全体に関する情報) を表示します。 t 領域中のすべてのトランザクションクラスに関する利用状況の統計情報を表示します。 u CICS トランザクション統計情報 (実行された各トランザクションに関する情報) を表示します。 v CICS プログラム統計情報 (実行された各プログラムに関する情報) を表示します。
-T	システムテーブルをダンプします。共用メモリーに読み込まれるすべてのテーブルの内部形式を表示します。
-u	ユーザー領域をダンプします。すべてのトランザクション処理プログラムに関する情報を提供します。
-v	VSAM データ領域の書式付きダンプを作成します。各バッファ、有効なエンキュー、有効な更新キュー項目、ファイル制御ブロック、アクセス制御ブロックなどに関する情報を表示します。

kixecho – 端末へのメッセージの書き込み

kixecho シェルスクリプトは、要求者の端末にメッセージを表示するために起動されます。メッセージには、コンパイルおよびアセンブルの処理中のファイル名が表示されます。

形式:

```
kixecho filename
```

filename 変数は、処理中のファイルを示します。

kixed – ファイルの編集

ファイルを編集する必要があるときに、たとえば、「File Utilities」メニュー、「Compilation」メニュー、または「BMS Maintenance」メニューでファイルを選択して PF2 キー (編集) を押すと、Sun MTP は kixed シェルスクリプトを実行します。また、kixcob、kixasm などのシェルスクリプトが終了したあとに一時出力ファイルを表示するためにも、kixed が呼び出されます。kixed は、デフォルトのエディタを使用してファイルを表示します。

形式:

```
kixed filename terminaldevice
```

オプション	説明
<i>filename</i>	編集するファイルをディレクトリパスを含めて指定します。
<i>terminaldevice</i>	Sun MTP クライアントに接続される端末を指定します。

kixetrace – トレース機能

kixetrace ユーティリティーは、領域の実行中に Sun MTP トレースオプションを変更するために使用します。このコマンドは引数を取りません。



注意 – このユーティリティーは、ご購入先の指示のもとでのみ使用してください。詳細は、『Sun Mainframe Transaction Processing ソフトウェア 障害追跡とチューニング』を参照してください。

形式:

```
kixetrace
```

コマンドを入力すると、「Trace Administration Utility」メニューが表示されます。

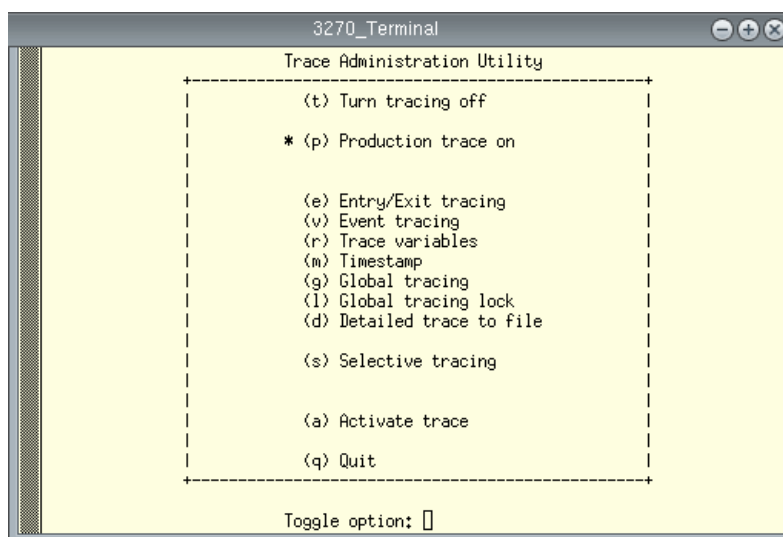


図 2-2 トレース管理ユーティリティーメニュー

kixexpcat – VSAM カタログのエクスポート

kixexpcat ユーティリティーは、次の 2 つの機能を実行します。

- VSAM カタログファイルを表示。
- VSAM カタログファイルをエクスポート (たとえば、\$KIXSYS/CATALOG.dta および \$KIXSYS/CATALOG.idx を 1 つの ASCII テキストファイルにエクスポート)。

形式:

```
kixexpcat -c catalog-file [-l ascii-file [-x {Y|N}]]
```

オプション	説明
-c <i>catalog-file</i>	標準出力に表示するカタログファイルまたは ASCII ファイルへエクスポートするカタログファイルを特定します (必須)。カタログファイル名を入力する際に、ファイル名拡張子は使用しません。たとえば、指定するカタログファイルが CATALOG (CATALOG.idx および CATALOG.dta で構成) の場合、CATALOG と入力します。 -l オプションとともに使用すると、指定したカタログファイルが ASCII テキストファイルにエクスポートされます。
-l <i>ascii-file</i>	<i>catalog-file</i> の ASCII テキストバージョンを指定したファイル形式で作成します。このテキストバージョンは、入力した <i>ascii-file</i> のとおりに名前が付けられます。たとえば、拡張子 .lst を付けるには、 <i>ascii-file</i> の一部として .lst を含めて指定してください。
-x {Y N}	エクスポートされた VSAM のプライマリクラスタ定義 (“P”) レコードに対して、「バッチ読み取りロック」フラグを Y (読み取りロック) または N (読み取りロックなし) に設定するように kixexpcat に指示します。このオプションは、空白文字以外の任意の値で更新されていない VSAM プライマリクラスタレコードにのみ有効です。VSAM カタログファイルが Release 8.0.0 以前のバージョンのソフトウェアに存在しない場合、このオプションは無効です。

次に示す行は、プライマリクラスタの ASCII レコードです。key-ofs フィールドのあとに、「バッチ読み取りロック」フィールドが続きます。

P, environment, filename, {E V}, file-type, rcd-len, key-len, key-ofs, {Y N}, {X N}, , ,
--

ASCII テキストバージョンの VSAM カタログを端末に表示するには、次のコマンドを入力します。

```
$ kixexpcat -c $KIXSYS/CATALOG
```

次のコマンドは、ASCII テキストバージョンのカタログを test.lst という名前で現在の作業用ディレクトリに作成します。

```
$ kixexpcat -c $KIXSYS/CATALOG -l test.lst
```

関連項目

ASCII テキストファイルの形式については、『Sun Mainframe Transaction Processing ソフトウェア 管理者ガイド』を参照してください。

kixexptbl – テーブルのエクスポート

kixexptbl ユーティリティは、テーブルをエクスポートします。このユーティリティを実行するには、\$KIXSYS ディレクトリに移動し、プロンプトに kixexptbl コマンドを入力します。kixexptbl は、\$KIXSYS/unikix.dir ディレクトリなどの \$KIXSYS ディレクトリにある各 .tbl ファイルから .lst ファイルを作成します。グループ管理テーブル (GCT) にグループを定義してある場合、kixexptbl が指定したグループディレクトリに .lst ファイルを書き込みます。DFHUSD ファイルにリソースを定義した場合、\$KIXSYS/rdo.dir ディレクトリのテーブルもエクスポートされます。このユーティリティにはオプションはありません。

形式:

```
kixexptbl
```

次の表は、kixexptbl ユーティリティーの実行によるネイティブテーブルファイルに対する影響を示します。

	KIXSYS	unikix.dir	rdo.dir	グループ 1	グループ 2
kixexptbl 実行前	fct.tbl	fct.tbl	fct.tbl	fct.tbl	fct.tbl
	pct.tbl	pct.tbl	pct.tbl	pct.tbl	pct.tbl
	ppt.tbl	ppt.tbl	ppt.tbl	ppt.tbl	ppt.tbl
	gct.tbl	txc.tbl		tct.tbl	tct.tbl
kixexptbl 実行後	fct.lst	fct.lst	fct.lst	fct.lst	fct.lst
	pct.lst	pct.lst	pct.lst	pct.lst	pct.lst
	ppt.lst	ppt.lst	ppt.lst	ppt.lst	ppt.lst
	gct.lst	txc.lst		tct.lst	tct.lst

注 – GCT は常に \$KIXSYS ディレクトリ中に存在します。

kixfile – データセットの状態変更

kixfile ユーティリティーを使用すると、指定した VSAM データセットおよび関連する代替データセットの状態を動的に変更できます。指定するオプションによって、指定したデータセットを使用不可にしたり、特定タイプのプロセスへのアクセスを制限できます。このユーティリティーは、領域の実行中にバッチジョブとして実行するシェルスクリプトからのみ起動できます。

形式:

```
kixfile {[{-b|-d|-f|-l|-o} Y|N [-r Y|N|C]] | [-c] | [-p]}  
[-X VSTIME] VSAM-dataset
```

オプション	説明
-b	バッチステータスを設定します。 Y: バッチアクセスのみ。バッチプロセスではファイルの読み取りまたは書き込みができますが、オンラインプロセスではどのデータセット名を介してもファイルの読み書きはできません。 N: バッチアクセスおよびオンラインアクセス。バッチプロセスとオンラインプロセスの両方でファイルの読み書きができます。
-d	ファイルのアクセス権を設定します。 Y: オンラインおよびバッチともに読み取り専用 N: システム起動時に読み書き権を再び有効にします たとえば、データセットに読み書き権 (rw) がある場合、kixfile -d Y を実行すると、データセットが読み取り専用になります。ファイルに対するすべてのデータセットの別名が読み取り専用の場合、unikixbld を使用して順編成ファイルを作成できます。そのあとで kixfile -d N を実行すると、データセットが読み書き可能な状態に戻ります。
-f	データセットを開いた状態または閉じた状態に設定します。 Y: 閉じた状態にします。ファイルに対するすべてのデータセットの別名が閉じられている場合、ファイルは物理的に閉じられ、保存または復元できます。 N: 開いた状態にします。関連付けられているデータセットのどちらかが開いている場合、ファイルは物理的に開かれます。
-l	ロック状態を設定します。 Y: 当該バッチジョブに対してファイルの排他的ロックを行います。他のバッチジョブまたはオンライントランザクションは、どのデータセット名を介してもファイルにアクセスできません。 N: ファイルのロックを解除します。

オプション	説明
-o	<p>データセットのオンライン状態を設定します。</p> <p>Y: このデータセットに対してオンライン読み取り専用。オンラインプロセスではこのデータセット名を介したデータセット経由でのファイルの読み取りしかできませんが、バッチプロセスではファイルの読み書きができます。</p> <p>N: このデータセットに対してオンライン読み書き可。オンラインプロセスで、このデータセット名を介したデータセット経由でのファイルの読み書きができます。</p>
-r	<p>ファイルの回復状態を設定します。</p> <p>Y: VSAM データセットに対する回復機能を有効にします。</p> <p>N: VSAM データセットに対する回復機能を無効にします。</p> <p>C: 回復機能を無効にするとともに、VSAM データセットに対するシステムキャッシュの使用を可能にします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ファイルの回復を行うには、領域全体の回復機能を VCT で設定しておく必要があります。 • -r オプションは、前述の <code>kixfile</code> オプションと組み合わせて使用します。単独では使用できません。-f Y (データセットを閉じる) とともに指定した場合も無視されます。回復機能が有効か無効かは、データセットを閉じるときには意味を持ちません。
-c	<p><code>kixfile -p dataset</code> コマンドによるレポートと同様に、指定したデータセットについてロック保留 (PEND) 状態を検査します。データセットが PEND 状態のとき、<code>kixfile</code> は、それが残留状態で正常にリセットできるかを判定します。そのデータセット上のすべてのアクティビティが休止中で要求プロセスがその時点で存在しない場合、データセットの PEND フラグはリセットされます。これ以外の場合、<code>kixfile</code> は PEND 状態を保持し、データセットのアクティビティ状態をエラーメッセージでレポートします。</p>
-p	現在のデータセットの状態を出力します。
-X VSTIME	VSAM コードの実行時間を表示します。バッチ統計情報の表示については、『Sun Mainframe Transaction Processing ソフトウェア 開発者ガイド』を参照してください。
VSAM-dataset	操作するデータセットを示します。これは、FCT で指定した一次データセットと同じ名前です。

複数のデータセットが同じ物理ファイルを参照する場合、以下の追加規則が適用されます。

- データセットが参照する物理ファイルがすでに他のデータセット名で開かれている場合には、-f N (データセットを開く) で -r オプションは無視されます。物理ファイルが他のデータセットパスを介してすでに使用されている可能性がある場合、回復機能の有効/無効の設定は不適當です。
- -r オプションは、他の `kixfile` オプションでは有効です。物理ファイルへのすべてのアクセスが休止されます。既存のトランザクションおよびバッチアクセスは完了できますが、新しいトランザクションまたはバッチアクセスは、要求した

オプションが機能できるようになるまで休止されます。進行中のアクセスは、その物理ファイルに対するすべてのデータセットパスの既存の回復オプションを使用して完了します。

ファイルには、同時に 2 つ以上のロックを指定できますが、指定されたロックのうち、最も制限が厳しいものが適用されます。たとえば、同じファイルに `-o` と `-b` のロックを指定した場合、`-b` オプションが `-o` オプションより優先されます。

データセットを開く前に、`-o`、`-b`、`-d`、および `-l` ロックを実行できます。これを実行すると、データセットはそのオプションに基づいて開かれます。たとえば、`kixfile -o Y dataset` のあとに `kixfile -f N dataset` を指定すると、そのデータセットはオンライン読み取り専用で開かれます。

バッチプログラムによって出力用にファイルが開かれている場合、データセットの状態を出力する `-p` オプションのみをオンラインで使用できます。

プロセスが `kixfile` によってロックされているファイルにアクセスする場合、そのロックに応じて、オンライントランザクションは `DISABLED (84)`、バッチプログラムは `DISABLED (35)` のエラーステータスを受け取ります。

次に、ロックオプションの例を示します。

■ `kixfile -f Y dataset1`

`dataset1` を閉じます。

データセット名 `dataset1` を使用してファイルのアクセスを試行すると、オンライントランザクションでは `NOTOPEN (19)` 状態が発生し、バッチプログラムでは `(35)` 状態が発生します。

■ `kixfile -o Y dataset2`

`dataset2` はオンラインアクセスの場合に読み取り専用です。

`dataset2` を使用した更新、書き込み、削除、または書き換え要求のための読み取りに対して、オンライントランザクションで `DISABLED (84)` 状態が発生します。

■ `kixfile -b Y dataset3`

`dataset3` はバッチシステムで排他的にロックされます。

そのファイルのデータセットを使用したすべての要求に対して、オンライントランザクションで `DISABLED (84)` 状態が発生します。

■ `kixfile -l Y -r N dataset4`

`dataset4` はバッチジョブで排他的にロックされ、`dataset4` に対して回復機能を無効にします。

そのファイルのデータセットを使用したすべての要求に対して、オンライントランザクションで `DISABLED (84)` 状態が発生します。このバッチジョブのプログラム以外のバッチプログラムでは、`(35)` 状態が発生します。

このバッチジョブに対する更新は回復できません。

■ kixfile -d Y dataset5

dataset5 は、オンラインおよびバッチともに読み取り専用です。

dataset5 を使用した更新、書き込み、削除、または書き換え要求のための読み取りに対して、オンライントランザクションで DISABLED (84) 状態が発生します。

バッチプログラムで入出力のためにデータセットを使用してファイルを開こうとした場合、(35) 状態が発生します。このファイルのすべてのデータセット別名をシステム全体で読み取り専用モードにすると、ファイルを読み取り可能にしたまま、unikixbld を実行して順編成ファイルを作成できます。

複数のデータセットを同じファイルに関連付けて用いる場合、データセットの状態を変更したときの kixfile の動作を理解する必要があります。ファイルに関連付けられたデータセットで -b または -l ロックのどちらかが要求されると、kixfile は、その状態を設定するために、ファイルに関連付けられたすべてのデータセットのアクティビティを休止します。この休止アクティビティによってその時点のデータセットのアクティビティが影響を受けるときには、kixfile は次のメッセージを表示します。

```
kixfile:dataset-name access is also being quiesced
```

ロックのどちらかを設定すると、そのファイルに対するデータセットを介したアクティビティが同様に影響を受けます。ロックをリセットすると、そのファイルに対するすべてのデータセットへのロックの影響がなくなります。

-f オプションを使用してデータセットを閉じるか、-o または -d オプションを使用してデータセットを読み取り専用に設定した場合、kixfile は、要求されたデータセットが閉じられるか、読み取り専用に設定されるまで、そのファイルに関連付けられたすべてのデータセットのアクティビティも休止します。kixfile は、その時点のデータセットのアクティビティが影響を受けると、同じメッセージを表示します。ただし、そのデータセットの閉じた状態および読み取り専用状態は、そのデータセットを使用した要求にだけ影響します。

複数のデータセットがあるファイル (バックアップを実行する場合などに) 物理的に閉じるには、kixfile を使用してすべてのデータセットを閉じる必要があります。任意のデータセット名を使用して kixfile -p を実行し、PHY_CLSD のステータスレポートを確認します。

また、同じ物理ファイルに関連付けられたすべてのデータセットで kixfile -o/-d を実行して、読み取り専用アクセスがファイルに許可されているか確認する必要があります。これを検査するには、ファイルに関連付けられたすべてのデータセットで kixfile -p を実行して、読み取り専用状態を確認します。

-p オプションを使用して kixfile を実行すると、メッセージが表示されます。

メッセージの形式:

Dataset *dataset-name* [PHY_OK|PHY_NOTOK], [PHY_CLSD|PHY_OPND],
[RDONLY], [PEND], [RECOVOFF|RECOVON], [BTCH_OUTPUT],
[JOB], [UBLD], [BTCH_ONLY], [OPEN_ONL|CLSD_ONL],
[ENBLD_ONL|DSBLD_ONL], [ONL_RDONLY], [OPEN_BCH|CLSD_BCH],
[ENBLD_BCH|DSBLD_BCH], [BCH_RDONLY]

メッセージの キーワード	説明
PHY_NOTOK	データセットのファイルを開くときに、ファイルアクセスが許可されていない、ファイルが存在しないなどのエラーが発生したことを示します。
PHY_OK	システムがデータセットのファイルと属性を認識していることを示します。次のオプションによって現在アクセス可能かどうかを示されます。
PHY_OPND	データセットのファイルが開いており、アクセス可能であることを示します。
PHY_CLSD	データセットのファイルが閉じられていることを示します。
RDONLY	データセットのファイルがファイルアクセス権によって読み取り専用で開かれていることを示します。
PEND	ファイルが排他的ロックを保留していることを示します。たとえば、他のプロセスがファイルの排他的使用を要求した、またはいずれかのデータセットの状態を変更しているなどの原因が考えられます。このロックが有効な場合は、データセットによってすでにアクセスされているトランザクションプログラムまたはバッチプログラムのみが許可されます。
RECOVON	データセットのファイルの回復機能がオンであることを示します。
RECOVOFF	データセットのファイルの回復機能がオフであることを示します。
BTCH_OUTPUT	データセットのファイルがバッチプログラムまたは unikixbld によって出力用に開かれていることを示します。
JOB	データセットのファイルが unikixbld やバッチジョブストリームなどのプロセスによる排他的な使用のためにロックされていることを示します。バッチジョブまたはシェルスクリプトの終了時に、ロックは自動的に解除されます。
UBLD	unikixbld によってデータセットのファイルがロックされていることを示します。詳細は、86 ページの「unikixbld - VSAM ファイルビルダー」を参照してください。
BTCH_ONLY	バッチプログラムだけがデータセットのファイルにアクセスできることを示します。
OPEN_ONL	データセットが開かれていて、オンライントランザクションによってアクセス可能であることを示します。

メッセージの キーワード	説明
CLSD_ONL	データセットがオンラインランザクションに対して閉じられていることを示します。
ENBLD_ONL	データセットがオンラインランザクションに対して有効であることを示します。
DSBLD_ONL	データセットがオンラインランザクションに対して無効であることを示します。
ONL_RDONLY	オンラインランザクションはデータセットの読み取りだけ可能で、書き込みはできないことを示します。
OPEN_BCH	データセットが開かれていて、バッチジョブによってアクセス可能であることを示します。
CLSD_BCH	データセットが閉じられていて、バッチジョブがアクセスできないことを示します。
ENBLD_BCH	データセットがバッチジョブに対して有効であることを示します。
CLSD_BCH	データセットがバッチジョブに対して無効であることを示します。
BCH_RDONLY	バッチジョブはデータセットの読み取りだけ可能で、書き込みはできないことを示します。

オプションが設定されていない場合、キーワードの代わりに空のフィールドが表示されます。たとえば、データセットがバッチに対してだけ開かれていて回復機能がオンの場合、次のようなメッセージが表示されます。

```
Dataset AABBC PHY_OK,PHY_OPND,,,RECOV_ON,,,,
BTCH_ONLY,, CLSD_ONL,ENBLD_ONL,,,OPEN_BCH,ENBLD_BCH,
```

注意

VSAM ファイルを回復可能として定義していて、kixfile バッチシェルスクリプトを使用するときに次の制限事項に従わない場合、データが破壊されてファイルを回復できなくなることがあります。

- 同じジョブ内で VSAM ファイルにアクセスする複数のバックグラウンドプロセスは使用できません。たとえば、バックグラウンドでステップを起動するためにコマンド行でアンパサンド (&) を指定しないでください。
- kixfile プロセス ID に対して kill -9 または SIGKILL を実行しないでください。

kixgrep – ファイルの検索

「File Utilities」メニューで、検索するファイルを1つ以上選択すると、kixgrep シェルスクリプトが起動されます。kixgrep は、デフォルトのエディタを使用して結果を閲覧専用で表示します。

形式:

```
kixgrep (pattern) temporaryfile terminaldevice files
```

オプション	説明
(<i>pattern</i>)	検索文字列を指定します。括弧で囲みます。
<i>temporaryfile</i>	検索操作の結果を書き込むファイルを指定します。
<i>terminaldevice</i>	出力端末の <i>ttyname</i> を指定します。
<i>files</i>	検索するファイルを1つ以上指定します。

kiximpcat – ASCII カタログファイルのインポート

kiximpcat ユーティリティーは、2つのファイル (*.dta および *.idx) を指定された ASCII テキストファイルから作成します。この2つのファイルは VSAM カタログとして使用できます。ASCII テキストファイルの形式については、『Sun Mainframe Transaction Processing ソフトウェア 管理者ガイド』を参照してください。

形式:

```
kiximpcat -c catalog-file -l ascii-file
```

オプション	説明
-c <i>catalog-file</i>	VSAM カタログを指定します。このカタログは、 <i>catalog-file</i> をベース名とする、拡張子 <i>.dta</i> および <i>.idx</i> の VSAM カタログ形式の2つのファイルで構成されます。
-l <i>ascii-file</i>	<i>.dta</i> ファイルおよび <i>.idx</i> ファイルを作成するための入力として使用する ASCII テキストファイルを指定します。レコードはソート済みのレコードを指定してください。また、ブロックサイズレコード (たとえば B, 4K または B, 8K) を、ファイルの最初のレコードにする必要があります。

インポートおよびエクスポートされたファイルには任意の名前を指定できます。ただし、インポートしたファイルを領域の VSAM カタログとして使用する場合、領域を起動する前に、そのファイル名を CATALOG.idx および CATALOG.dta に変更する必要があります。

次のコマンドは、ASCII テキストファイル CATALOG.lst から \$KIXSYS/CATALOG.dta ファイルおよび \$KIXSYS/CATALOG.idx ファイルを作成します。

```
$ kiximpcat -l /tmp/CATALOG.lst -c $KIXSYS/CATALOG
```

次のコマンドは、ASCII テキストファイル /tmp/fred から /tmp/TESTCAT.dta ファイルおよび /tmp/TESTCAT.idx ファイルを作成します。

```
$ kiximpcat -l /tmp/fred -c /tmp/TESTCAT
```

注意

このユーティリティーを実行する前に、領域を停止する必要があります。

kiximptbl – テーブルのインポート

このユーティリティーは、kixexptbl とともに使用すると、kixbtchtbl と同様の機能を提供します。このユーティリティーを実行するには、\$KIXSYS ディレクトリに移動し、プロンプトに kiximptbl コマンドを入力します。kiximptbl は、\$KIXSYS にある各 .lst ファイルから .tbl ファイルを作成します。グループ管理テーブル (GCT) にグループを定義してある場合、指定したグループディレクトリに kiximptbl が .tbl ファイルを書き込みます。

このユーティリティーにはオプションはありません。

注意

このユーティリティーを実行する前に、領域を停止する必要があります。

kixinstall – 構成ユーティリティー

kixinstall ユーティリティーは、Sun MTP の実行可能プログラムを構築するのに必要なアプリケーション言語、ユーザーオブジェクト、規則、およびコマンドを定義するために使用します。

kixinstall ユーティリティーは、1 つ以上のリレーショナルデータベース管理システム (RDBMS) 製品またはサン以外の製品をトランザクションサーバー、バッチサーバー、およびメインサーバーに統合する場合にも使用します。選択に基づいて、実行可能ファイルを作成する makefile が更新されます。また、kixinstall は、make プロセスも実行できます。

kixinstall の使用法については、『Sun Mainframe Transaction Processing ソフトウェア インストールガイド』を参照してください。Sun MTP の実行可能ファイルを作成するための make プロセスについては、『Sun Mainframe Transaction Processing ソフトウェア 管理者ガイド』を参照してください。

kixjas – ジャーナルファイルからのデータの抽出

kixjas シェルスクリプトは、ジャーナルファイル中のアカウントレコードのアカウントデータ部分を抽出します。変換プログラムの kixjas は、領域のジャーナルファイルを読み取り、同じ情報を含む ASCII ファイルを作成しますが、アカウントジャーナルヘッダー情報は取り除かれます。このプログラムは、特定タイプのアカウントレコード、具体的にはトランザクション ID レコード (レコードタイプ 0001) またはユーザーレコード (レコードタイプ 0002) のどちらかを抽出できます。

注 – これは、SIT、SNT、および PCT のオプションによって生成されるアカウントレコードにだけ使用でき、アプリケーションプログラムによって生成されるアカウントレコードには使用できません。

形式:

```
kixjas -o outputfile [-c [nn]] [-t [trandid|userid]]  
-i inputfile1[, inputfile2, ...]
```

オプション	説明
-o <i>outputfile</i>	ASCII レコードを書き出す場合に使用するファイルを指定します。
-c [<i>nn</i>]	<i>nn</i> 番目のクラッシュレコード (タイプ 0006) が検出されるまでファイル (複数可) の処理を続けます。 <i>nn</i> を指定しない場合、値は 1 とみなされます。
-t <i>trandid</i> <i>userid</i>	入力ファイルから抽出するレコードのタイプ (トランザクション ID レコードか、ユーザー ID レコードか) を指定します。指定しない場合、両方のタイプが処理されます。
-i <i>inputfile1</i> , <i>inputfile2</i> , ...	処理するジャーナルファイル (複数可) を指定します。

次のコマンドは、ASCII レコード形式を *out1* ファイルに書き込み、4 つのアカウントिंगジャーナルファイルを処理して、*report* という名前のファイルのレポートを作成します。

```
$ kixjas -o out1 -i JRNL02.jnl JRNL05.jnl JRNL11.jnl JRNL22.jnl 1>report
```

注意

指定された順序でコマンドの引数を入力する必要があります。そうでない場合、コマンドは失敗します。

関連項目

アカウントिंगジャーナルファイルの形式については、『Sun Mainframe Transaction Processing ソフトウェア 管理者ガイド』を参照してください。

kixjob – バッチキューへのジョブの移動

タイプ JOB の領域のパーティション外一時データキューに対してトランザクションが EXEC CICS WRITEQ TD コマンドを実行すると、`xxxxnnnn.job` というファイル名でディスク内に出力が収集されます。

説明

`xxxx` 一時データキューを示します。
`nnnn` 出力または JOB ファイルごとに増分される一意のシーケンシャル番号を示します。

同期点が (SYNCPOINT コマンドによって明示的に、またはトランザクションの終了によって暗黙的に) 実行されると、ファイルは閉じられます。この時点で `kixjob` シェルスクリプトが開始され、ファイルのモードを実行可能に変更して、ジョブを `KIXBTCH` 環境変数で指定された最初のディレクトリに移動します。`$KIXBTCH` が設定されていない場合、シェルスクリプトはジョブを `$KIXSYS` ディレクトリに配置したままにします。

形式:

```
kixjob filename
```

filename 変数は、一時データ出力の収集に使用する一時ファイルを示します。

たとえば、BTCH という名前のジョブキューがある場合、`kixjob` を次のように実行します。

```
$ kixjob BTCH0001.job
```

この例では、`BTCH0001.job` は、一時データ出力の収集に使用される一時ファイルです。ファイル名の最初の 4 文字 (BTCH) は、書き込みに使用されるキュー名です。次の 4 文字はシーケンシャル番号です。最後の 4 文字は、拡張子 `.job` です。

注意

このユーティリティへのアクセスは制限してください。

kixjournal – ジャーナルファイルの処理

kixjournal シェルスクリプトは、現在のジャーナルファイルをリフレッシュします。ジャーナルファイルが最大のサイズになると、kixjournal が呼び出されます。ジャーナルファイルがリフレッシュされると、元のジャーナルファイルは、同じ名前で .jnl という接尾辞が付いた代替ファイルに移動されます。

デフォルトでは、kixjournal は、ジャーナルファイルが処理されたことを示すメッセージを unikixmain.log ファイルに書き込みます。テープへのファイルのコピーなど、追加の処理が必要な場合には、シェルスクリプトを変更する必要があります。

形式:

```
kixjournal
```

アカウントिंगジャーナルの使用法についての詳細は、『Sun Mainframe Transaction Processing ソフトウェア 管理者ガイド』を参照してください。

kixkeydef – キーファイルの作成 または編集

kixkeydef ユーティリティーは、キーファイルを作成または編集するために使用します。キーファイル中のキー定義は、アプリケーションまたはエミュレーションのキー定義と一致する必要があります。このユーティリティーを使用して、キーボード上にないキーの定義を作成します。たとえば、リセットキーのないキーボードで作業している場合、リセット機能を実行するように、ファンクションキーまたはキーシーケンスを定義できます。

注 – キーボードによっては、F1 ~ F5 のファンクションキーを再定義できません。他のキーシーケンスを定義して、必要な機能を提供する必要があります。

形式:

```
kixkeydef keyfile
```

keyfile 変数は、作成するキーファイルを示します。*keyfile* が存在しない場合は作成されません。

既存の key ファイルを編集するか、新しい key ファイルを作成するかどうかにかかわらず、kixkeydef はセット形式で key ファイルを生成します。既存の key ファイルのすべてのコメントは失われます。

図 2-3 は、kixkeydef 画面の例です。kixkeydef ユーティリティの使用法については、『Sun Mainframe Transaction Processing ソフトウェア 構成ガイド』を参照してください。

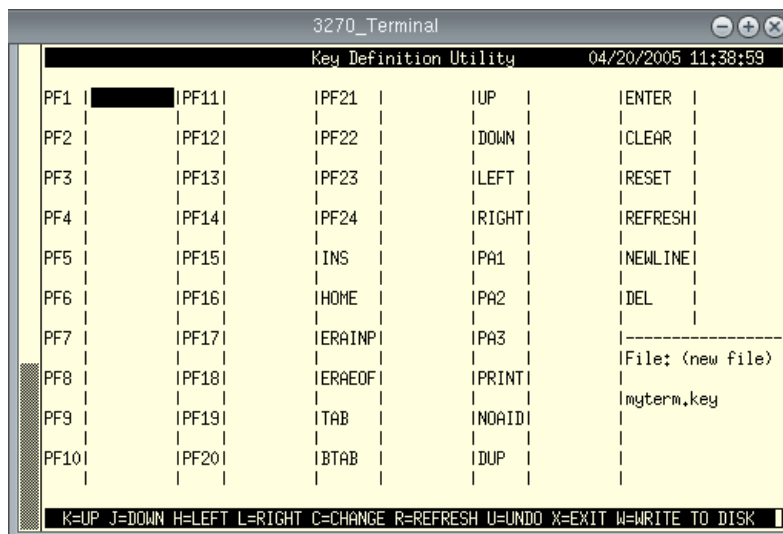


図 2-3 kixkeydef 画面

kixlog – ログファイルへの文字列の書き込み

kixlog ユーティリティは、Sun MTP のシェルスクリプトとログファイル (unikixmain.log、unikixmain.err、および unikixmain.dbg) 間のインタフェースを提供します。このユーティリティによって、選択したログファイルに文字列を書き込むことができます。たとえば、kixjournal シェルスクリプトは、kixlog を使用してメッセージを unikixmain.log に書き込みます。

このプログラムは、Sun MTP によって実行されたシェルスクリプトでのみ実行できます。シェルスクリプトで実行する Sun MTP 起動のバッチプログラムも、kixlog ユーティリティを使用できます。

形式:

```
kixlog [-d|-e|-l] string
```

オプション	説明
-d	<i>string</i> を unikixmain.dbg ファイルに書き込みます。
-e	<i>string</i> を unikixmain.err ファイルに書き込みます。
-l	<i>string</i> を unikixmain.log ファイルに書き込みます。
<i>string</i>	ログファイルに書き込むメッセージを指定します。メッセージに空白文字を含める場合、引用符が必要です。デフォルトでは、 <i>string</i> は unikixmain.log ファイルに書き込まれます。

たとえば、次のコマンドは、メッセージを unikixmain.log ファイルに書き込みます。

```
$ kixlog -l "Accounting file JRNL05.jnl being processed"
```

unikixmain.log ファイルのエントリは、次のとおりです。

```
date time kixlog: Accounting file JRNL05.jnl being processed
```

date および *time* は、kixlog が実行された日付および時刻で置き換えられます。

kixmakecnv – 変換テーブルの作成

kixmakecnv ユーティリティーは、Sun MTP とともに使用する変換テーブルファイルを作成します。変換テーブルファイルは、\$UNIKIX/lib/cnvtbl に作成されます。

形式:

```
kixmakecnv
```

オプションはありません。

関連項目

アメリカ英語以外の言語の変換テーブルをカスタマイズする方法については、『Sun Mainframe Transaction Processing ソフトウェア 管理者ガイド』を参照してください。

kixpl1 – PL/I コンパイラ

kixpl1 シェルスクリプトは、PL/I プログラムの「Set Compiler Options」画面でコンパイルキー (PF4) を押すと実行されます。これにより、以下のコマンドを呼び出す kixpl1 シェルスクリプトが実行されます。

プログラム/ ユーティリティ	説明	ファイルタイプ
lppip	PL/I プリコンパイラ	すべての場合
propli	Oracle プリプロセッサ	.ppl
kixplt	CICS トランスレータ	.plt
lpipl1	PL/I コンパイラ	.p11、.pli

複数のファイルを選択した場合、ファイルは逆順でコンパイルされます (選択された最後のファイルが最初にコンパイルされる)。

コンパイルの最後に、デフォルトのエディタが呼び出され、コンパイルおよび変換の結果が表示されます。kixpl1 を変更することによって、エディタを変更できます。

形式:

```
kixpl1 -9 vi-file [-c include-dirpath] -e suffix  
-o output-file input-file.xxx -L -n -O -N -7 -A -E -X [-y terminal-dev]
```

オプション	説明
-9 vi-file	スクリプトの結果を追跡するためのファイルを示します。
-c include-dirpath	include ファイルがあるディレクトリパス。複数の -c include-dirpath の組み合わせを指定できます (オプション)。
-e suffix	接尾辞を示します。次のいずれかを選択してください。 .pli、.p11: Open PL/I コマンドのみ。 .plt: EXEC CICS コマンドの Open PL/I .ppl: EXEC CICS コマンドおよびデータベース (Oracle) コマンドの Open PL/I
-o output-file	出力オブジェクトファイルを指定します。このファイル名には接尾辞を付けません。
input-file.xxx	入力ソースファイルを指定します。xxx は -e suffix に示す接尾辞のうちの 1 つです。

オプション	説明
単一文字引数	PL/I の「Set Compiler Options」画面上の Y/N の指定によって、これらの引数は省略できます。これらの引数の説明については、『Liant Open PL/I User's Guide』を参照してください。
-A	位置独立コード。
-E	CodeWatch による EXEC CICS プリコンパイラ生成コードのデバッグを許可します。
-L	CodeWatch を使用したデバッグに使用されます。
-N	記憶領域の割り当てマップをリスト形式で生成します。
-n	拡張されたリストを生成します。
-O	最適化のレベルを示します。
-X	位置合せされないレベル 1 の PL/I 構造体を示します。
-7	CodeWatch の使用を指定します。
-y <i>terminal-dev</i>	Sun MTP 端末プロセッサに接続される端末デバイスを指定します。コマンド行ではこのパラメータを省略してください。

kixplt – PL/I コマンド言語トランスレータ

kixplt は、PL/I の Sun MTP コマンド言語トランスレータです。CICS 文を PL/I 文に変換する前に、すべてのコピーファイルを検出して組み込みます。入力ファイル名には、次の拡張子のいずれかが含まれます。

.pli、.pl1	Liant Open PL/I コマンドだけを使用したプログラム。
.plt	EXEC CICS コマンドを使用した Liant Open PL/I。
.ppl	EXEC CICS コマンドおよびデータベース (Oracle) コマンドを使用した Liant Open PL/I。

このユーティリティーは、開発システムまたはコマンド行から実行します。

Sun MTP から	PL/I の「Set Compiler Options」画面でコンパイルキー (PF4) を押します。詳細は、『Sun Mainframe Transaction Processing ソフトウェア 開発者ガイド』を参照してください。 これにより、kixpl1 シェルスクリプトが実行されます。このシェルスクリプトは、ソースファイルのファイル名拡張子に応じて、Liant Open PL/I コンパイラ、Oracle プリコンパイラ (拡張子 .pp1)、またはプリプロセストランスレータを呼び出します。 複数のファイルを選択した場合、ファイルは逆順でコンパイルされます (選択された最後のファイルが最初にコンパイルされ、選択された最初のファイルが最後にコンパイルされる)。
コマンド行から	変換されたソースコードをコンパイルするには、kixplt を呼び出したあと、lpip11 を呼び出します。このコマンドに対する引数の説明は、『Liant Open PL/I User's Guide』を参照してください。

形式:

```
kixplt -i filename.ext -o outfile.pli
```

オプション	説明
-i filename.ext	変換されていない入力ソースを指定します。
-o outfile.pli	lpip11 への入力として使用できる、変換された出力 PL/I ソースを指定します。

kixclt を使用する代わりに、コマンド行からこのユーティリティーを使用できます。

注 - 変換は、入力ファイルの拡張子に基づいているので、PL/I ソースプログラムに対して正しい拡張子を使用する必要があります。

kixprint – ディスクへの印刷出力の収集

トランザクションの実行中、Sun MTP はディスクに印刷出力を収集します。(SYNCPOINT コマンドによって明示的に、またはトランザクションの終了によって暗黙的に) 同期点が実行されると、スプールされているすべての出力が印刷されます。

形式:

```
kixprint -p printerid filename
```

オプション	説明
-p <i>printerid</i>	TCT の「Printer ID」フィールドの値 (最大 14 文字) を示します。
<i>filename</i>	印刷出力を蓄積するために使用する一時ファイルを指定します。

kixprint シェルスクリプト内で使用されるデフォルトの印刷コマンドは、`lp -s` です。SPOOLER 環境変数を設定して、このコマンドを上書きできます。プリンタ識別子が指定されている場合、`-d printerid` または `-P printerid` を AT&T または BSD スプーラのコマンドにそれぞれ追加します。

関連項目

ご使用のサイトに合わせた変更方法など、kixprint シェルスクリプトについては、『Sun Mainframe Transaction Processing ソフトウェア 構成ガイド』を参照してください。

kixprntbl – 印刷テーブルの表示

このユーティリティーは、領域の各テーブルに関してフォーマットされたレポートを書き込みます。レポートはテーブル名を取って名前が付けられ、`pct.prn` のように拡張子 `.prn` を含んでいます。各レポートには、グループごとに編成されているテーブルに関して領域の全エントリのリストが含まれます。このユーティリティーを実行するには、`$KIXSYS` ディレクトリに移動し、プロンプトに `kixprntbl` コマンドを入力します。

形式:

```
kixprntbl
```

コード例 2-1 は、pct.prn ファイルの一部を示します。ACCT および BCCT で開始するエントリの最初のグループは、どのグループにも関連付けられていません。このグループは、\$KIXSYS ディレクトリのプログラム制御テーブル (PCT) からのものです。PAYR で開始するエントリのグループは、GCT の従業員名簿のグループに対して定義されたディレクトリの PCT からのものです。unikix グループのエントリは、\$KIXSYS/unikix.dir ディレクトリの PCT からのものです。

コード例 2-1 pct.prn ファイルの例

Sun MTP	Program Control Table	05/09/2005 10:35:06
ACCT01	,,AC01,0,1,DEF,D,0,,,Y,,KIXDFLT	
ACCT02	,,AC02,0,1,DEF,D,0,,,Y,,KIXDFLT	
ACCT03	,,AC03,0,1,DEF,D,0,,,Y,,KIXDFLT	
ACCT03	,,AC05,0,1,DEF,D,0,,,Y,,KIXDFLT	
ACCT00	,PA1 ,ACCT,0,1,DEF,D,0,,,Y,,KIXDFLT	
ACCT03	,,ACLG,0,1,DEF,D,0,,,Y,,KIXDFLT	
BCCT01	,,BC01,0,1,DEF,D,0,,,Y,Y,KIXDFLT	
BCCT02	,,BC02,0,1,DEF,D,0,,,Y,N,KIXDFLT	
BCCT03	,,BC03,0,1,DEF,D,0,,,Y,Y,KIXDFLT	
BCCT03	,,BC05,0,1,DEF,D,0,,,Y,B,KIXDFLT	
BCCT00	,,BCCT,0,1,DEF,D,0,,,Y,Y,KIXDFLT	
BCCT03	,,BCLG,0,1,DEF,D,0,,,Y,N,KIXDFLT	
PAYR01	,,PY01,0,1,DEF,D,0,,,payroll ,Y,,PAYROLL	
PAYR02	,,PY02,0,1,DEF,D,0,,,payroll ,Y,,PAYROLL	
PAYR03	,,PY03,0,1,DEF,D,0,,,payroll ,Y,,PAYROLL	
BATCH000	,,CBCH,0,1,DEF,N,0,,,unikix ,Y,,KIXDFLT	
KXCCIN	,,CCIN,0,1,DEF,D,0,,,unikix ,N,Y,KIXDFLT	
CEBR	,,CEBR,0,1,DEF,N,0,,,unikix ,Y,,KIXDFLT	
CECI	,,CECI,0,1,DEF,D,0,,,unikix ,N,,KIXDFLT	
CEDF	,,CEDF,0,1,DEF,N,0,,,unikix ,Y,,KIXDFLT	
CEMT	,,CEMT,0,1,DEF,N,0,,,unikix ,Y,,KIXADMIN	
CESF	,,CESF,0,1,DEF,N,0,,,unikix ,Y,,KIXDFLT	
CSSNCESN	,,CESN,0,1,DEF,N,0,,,unikix ,Y,,KIXDFLT	
...		
...		

kixprt – ファイルの印刷

kixprt シェルスクリプトは、「File Utilities」メニューで印刷するファイルを選択すると起動されます。

形式:

```
kixprt filename(s)
```

filename(s) 変数は、印刷するファイルの名前 (複数可) を示します。

kixrcvdmp – 回復ファイルの表示

kixrcvdmp ユーティリティーは、Sun MTP 回復ファイルの内容を表示します。回復ファイルには、回復可能なリソースの状態に関する情報が格納されています。この情報は、領域 (システム) で障害が発生したときに特に重要です。

kixrcvdmp コマンドをオプションなしで実行すると、各オプションの簡単な説明とともにコマンドの使用法に関するメッセージが表示されます。

形式:

```
kixrcvdmp -f filename [-b blocksize] [-v] [-d] [-i] [-I]
```

オプション	説明
-f <i>filename</i>	回復ファイルを指定します。これは、VCT の「Filename」フィールドの値です (必須)。
-b <i>blocksize</i>	回復ファイルのブロックサイズ (バイト) を示します。この値は、領域用に指定した VSAM ブロックサイズと一致している必要があります。デフォルトは 4,096 バイトです。
-v	有効な回復レコードを表示します。
-d	完了した回復ファイルを指定します。
-i	未確定トランザクションの有効なリソースマネージャー (RM) の情報を表示します。未確定トランザクションについては、『Sun Mainframe Transaction Processing ソフトウェア XA リソースマネージャーの使用』を参照してください。
-I	未確定トランザクションの全 RM の情報を表示します。未確定トランザクションについては、『Sun Mainframe Transaction Processing ソフトウェア XA リソースマネージャーの使用』を参照してください。

概要情報の表示

kixrcvdmp ユーティリティーの実行時に回復ファイル名のみを指定した場合は、ファイルの状態の概要が表示されます。次に例を示します。

コード例 2-2 kixrcvdmp の概要情報

```
$ kixrcvdmp -f RECOVFILE

===== Recovery file summary =====
Total # blocks read to logical EOF is n
There is/are x active UOW
```

n の値は、回復ファイルの論理終端を特定する際に読み取られた回復ファイルブロックの合計数です。領域の再起動時にこれと同じ処理を実行する必要があるため、この値は、可能なバックアウト処理の準備に必要なディスクの入出力の規模を示します。

次の行は、領域の再起動時に実行する必要があるバックアウト処理の範囲を示します。「There are no active UOW」という行は、領域が失敗したときに実行中のトランザクションはなかったため、領域の再起動時にバックアウトされるものがないことを示します。回復ファイルに1つ以上の有効な作業単位 (UOW) がある場合、Sun MTP は回復処理を実行して有効な UOW を完了します。回復ファイルに有効な UOW がある場合は、追加情報が表示されます。次に例を示します。

コード例 2-3 kixrcvdmp 未確定 UOW の概要情報

```
$ kixrcvdmp -f RECOVFILE

===== Recovery file summary =====
Total # blocks read to logical EOF is 159
There are 2 active UOW
There are n in-doubt UOW
Total # records ignored is x
Total # before images pending is y
First record timestamp Tue May 10 08:18:12 2005
Final record timestamp Tue May 10 08:18:12 2005
```

この例では、回復ファイルに有効な UOW が2つあります。次の行は、領域が失敗したときに、有効な UOW のうち未確定のものがいくつあったかを示します。未確定の UOW は、領域がサン以外の XA リソースマネージャーで実行されるように構成されているか、他の領域に対してセッションが保護されるように構成されている場合のみ存在します。詳細は、『Sun Mainframe Transaction Processing ソフトウェア XA リソースマネージャーの使用』を参照してください。

無視されたレコードの値 *x* は、有効な UOW に無関係な回復レコードの数を表します。

変換前イメージ保留の値 y は、領域の再起動を処理している際に適用する必要のある変換前イメージのレコードの数を表します。これは、更新されたものの、まだコミットされていない VSAM データレコードの数です。これらのレコードは、領域の再起動時にバックアウトされる可能性があります。

有効な回復情報の表示

冗長 (-v) オプションは、有効な UOW の一部である各回復レコードの詳細を表示するように `kixrcvdmp` に指示します。出力は、BEFORE_IMAGE レコードの内容を含む、各回復レコードをフォーマットして表したものです。この情報は、VSAM データセットにまだコミットされていない変更内容を分析する際に役立ちます。情報のユーザーデータブロックは、実際のデータレコードの内容を含んでいます。このデータはアプリケーションによって異なります。次の冗長ダンプは未確定 UOW を表します。

コード例 2-4 `kixrcvdmp` 未確定 UOW の有効な回復情報

```
$ kixrcvdmp -f RECOVFILE -v
Header block is SYSTEM_START

Block 1 [ 1], offset 943 [ 3af] Type [TM_STATE] Timestamp:[405B2C8A] Tue May 10 10:23:22
2005
  unikixtran10, Dataset [ ], Update Type [ ], Length [ 59]
  User Mask 1 [00040000] [00000000] [00000000] [00000000]
             5 [00000000] [00000000] [00000000] [00000000]
  User data [000000075900000000001303036320000000A000FA886000106E97B9E8FDC4E0200000007
             075653414D2054D000000070A5374617469635520524D]

Block 1 [ 1], offset 561 [ 231] Type [BEFORE_IMAGE ] Timestamp:[405B2C8A] Tue May 10
10:23:22 2005
  unikixtran10, Dataset [STOCK ], Update Type [U], Length [ 320]
  User Mask 1 [00040000] [00000000] [00000000] [00000000]
             5 [00000000] [00000000] [00000000] [00000000]
  User data [30303031303037303031303033315A533374493661426134474F365476674D63533644345
             86F6B7337585243786A68594734587664514253394944415A544643494D54413161495A4C
             32756B3961694549366A4843495A626877775532786D49495078444776B786965495761375
             26858796470446A6458353736585474754A6A4F7142787076315A6B55324C7062366C5444
             526457435651724169666C595A527A7A6F516E7873545A33746D77345250454739577A474
             1707A3157716A426A465343396156315658466C55637456536551476F69533457526B576C
             71304C5A72654B46703844443452665A73493655706758667A6C653331643946627838303
             030303330303030303030303067326B666B4964314937784F575265706A74507A6367
             516E51687A69642020202020202020202020202020202020202020202020202020202020]

Block 1 [ 1], offset 427 [ 1ab] Type [BEFORE_IMAGE ] Timestamp:[405B2C8A] Tue May 10
10:23:22 2005
  unikixtran10, Dataset [ORDERLIN], Update Type [A], Length [ 72]
  User Mask 1 [00040000] [00000000] [00000000] [00000000]
             5 [00000000] [00000000] [00000000] [00000000]
```

コード例 2-4 kixrcvdmp 未確定 UOW の有効な回復情報 (続き)

```

User data [3030303130313030303033303430303130303730303130303031000000000000000000000000
0000000 30313030333434385A533374493661426134474F365476674D6353364434586F]

Block 1 [ 1], offset 327 [ 147] Type [BEFORE_IMAGE ] Timestamp:[405B2C8A] Tue May 10
10:23:22 2005
  unikixtran10, Dataset [ORDER ], Update Type [A], Length [ 38]
  User Mask 1 [00040000] [00000000] [00000000] [00000000]
    5 [00000000] [00000000] [00000000] [00000000]
  User data [3030303031303030313031303030303330343030333139323030343130323332323030303
131]

Block 1 [ 1], offset 251 [ fb] Type [BEFORE_IMAGE ] Timestamp:[405B2C8A] Tue May 10
10:23:22 2005
  unikixtran10, Dataset [NEWORDER], Update Type [A], Length [ 14]
  User Mask 1 [00040000] [00000000] [00000000] [00000000]
    5 [00000000] [00000000] [00000000] [00000000]
  User data [3030303130313030303033303430]

Block 1 [ 1], offset 78 [ 4e] Type [BEFORE_IMAGE ] Timestamp:[405B2C8A] Tue May 10 10:23:22
2005
  unikixtran10, Dataset [DISTRICT], Update Type [U], Length [ 111]
  User Mask 1 [00040000] [00000000] [00000000] [00000000]
    5 [00000000] [00000000] [00000000] [00000000]
  User data [303030313031514E786E4E516B4A2020766D6E624370646D4B4C746545202020202020206
842504D75337877315A20202020202020202020202020202035705A66765A575A6678773150566D734F
202020636733313434313131313130383932303030303030353737373530303030303033303
430]

Block 1 [ 1], offset 16 [ 10] Type [START_TRANX ] Timestamp:[405B2C8A] Tue May 10 10:23:22
2005
  unikixtran10, Dataset [ ], Update Type [ ], Length [ 0]
  User Mask 1 [00000000] [00000000] [00000000] [00000000]
    5 [00000000] [00000000] [00000000] [00000000]
  -- Transaction break of [START_TRANX ] reached for user [10 ]
  --- End of unrecovered data reached

===== Recovery file summary =====
Total # blocks read to logical EOF is 1
There is 1 active UOW
There is 1 in-doubt UOW
Total # records ignored is 0
Total # before images pending is 5
First record timestamp Tue May 10 10:23:22 2005
Final record timestamp Tue May 10 10:23:22 2005

```

回復ファイルのダンプ

ダンプ (-d) オプションは、最後に記録された回復レコードから始まる完全な回復ファイルを表示するように `kixrcvdmp` に指示します。レコードが有効な UOW に属しているものに制限されないため、ダンプは非常に大きくなる場合があります。各レコードはフォーマットされて表示されます。回復ファイルに有効な UOW がない場合でも、回復レコードを分析する必要があるときにダンプオプションを使用します。

未確定のリソースマネージャー情報の表示

未確定のトランザクションが回復ファイルに記録されている場合、`kixrcvdmp` の `-i` オプションを使用すると、このトランザクションで未確定の可能性のある各リソースマネージャーの情報を表示できます。この情報を使用して、TM による再同期にどのリソースマネージャーを使用するかを決定します。トランザクションで有効でない (つまり未確定ではない) リソースマネージャーは表示されません。

コード例 2-5 `kixrcvdmp` 未確定のリソースマネージャーの情報

```
$ kixrcvdmp -f RECOVFILE -i

===== Recovery file summary =====
Total # blocks read to logical EOF is 1
There is 1 active UOW
There is 1 in-doubt UOW
    unikixtran7 has TM information
    - TM state is PENDING
      GTRID is 3|XA01|7|7035|187114
    - it is not in-doubt with a superior
    - total RM associations is 2
      (1) VSAM RM
      (2) Third Party RM
Total # records ignored is 0
Total # before images pending is 5
First record timestamp Tue May 10 13:47:38 2005
Final record timestamp Tue May 10 13:47:38 2005
```

コード例 2-5 は、未確定トランザクションが `unikixtran7` に属していることを示しています。TM には、トランザクションの結果がまだ解決されていないことを示す `PENDING` というトランザクション状態が記録されています。したがって、領域の再起動時に、TM は未確定のリソースマネージャーをロールバックします。「`it is not in-doubt with a superior`」という状態メッセージは、未確定のトランザクションが、この領域で開始されており、トランザクション判定用に上位領域に依存していないことを示します。このトランザクションに現在関連付けられているリソースマネー

ジャーが2つ (Sun MTP VSAM リソースマネージャーと STATIC RM というサン以外のリソースマネージャー) あります。2つのリソースマネージャーは、トランザクションの状態を再起動時にバックアウト (ロールバック) するように指示されます。

すべてのリソースマネージャーの情報の表示

kixrcvdmp の -I オプションを使用すると、未確定のトランザクションで有効でないリソースマネージャーも含め、構成されているすべてのリソースマネージャーを表示できます。

コード例 2-6 kixrcvdmp すべてのリソースマネージャーの情報

```
machine1% kixrcvdmp -f RECOVFILE -I

===== Recovery file summary =====
Total # blocks read to logical EOF is 1
There is 1 active UOW
There is 1 in-doubt UOW
      unikixtran7 has TM information
      - TX state is PENDING
        GTRID is 3|XA01|7|7035|187114
      - it is not in-doubt with a superior
      - total RM associations is 4
          (1) [A] VSAM RM
          (2)   IBTCP RM
          (3)   SYSB CRM
          (4) [A] Third Party RM
Total # records ignored is 0
Total # before images pending is 5
First record timestamp Tue May 10 13:47:38 2005
Final record timestamp Tue May 10 13:47:38 2005
```

コード例 2-6 とコード例 2-5 の情報の違いに注意してください。リソースマネージャーの関連付けを一覧表示すると、4つあります。これは、この領域で構成されたリソースマネージャーの総数です。現在、IBTCP および SYSB CRM というリソースマネージャーがリソースマネージャーのセットに含まれていますが、それぞれの名前の前には [A] タグが付いていません。[A] タグは、リソースマネージャーが未確定のトランザクションにアクティブに関連付けられているので、再起動時の再同期に使用される可能性があることを示しています。

kixrnm – ファイル名の変更

kixrnm シェルスクリプトは、「File Utilities」メニューで名前を変更するファイルを選択すると起動されます。

形式:

```
kixrnm file1 file2
```

オプション	説明
<i>file1</i>	変更前のファイルを指定します。
<i>file2</i>	変更後のファイルを指定します。

kixsalvage – VSAM データの修復

kixsalvage ユーティリティーは、破壊された VSAM ファイルから新規ファイルへ修復可能なすべてのデータを走査およびダンプします。デフォルトでは、Sun MTP recordv 形式でデータが書き出されます。recordv 形式の定義については、『Sun Mainframe Transaction Processing ソフトウェア 管理者ガイド』を参照してください。破壊されたデータセットを修復する方法の例については、『Sun Mainframe Transaction Processing ソフトウェア 管理者ガイド』を参照してください。

形式:

データセットを走査する場合:

```
kixsalvage -s [-v] datasetname
```

データセットを修復する場合:

```
kixsalvage [-2|-c] [-T|-l size] [-v] [-r] [[-o outputfile]...] datasetname
```

オプション	説明
-2	デフォルトの 4 バイトレコードヘッダーの代わりに、2 バイトレコードヘッダーを書き込みます。このオプションは、-c オプションと同時に指定できません。
-c	出力ファイルを Micro Focus COBOL 変数レコード形式で書き込みます。

オプション	説明
-l size	出力ファイルの最大長 (バイト単位) を示します。size には、G、K、および M を付けて、それぞれ GB、KB、および MB 単位に変更できます。指定した値が小さすぎる場合、出力ファイル数が多くなりすぎるか、許可された出力ファイル数の上限を超える場合があります。 注: -T オプションを使用した場合、-l オプションは無視されます。
-s	修復可能なブロックおよびレコード数を表示するただけに走査を実行します。これによって、必要な出力ファイルの数およびサイズを判定できます。この情報によって、ファイルを修復するべきかどうかを判定します。
-v	冗長フラグを有効にします。冗長フラグを設定すると、kixsalvage ユーティリティーは、修復されるレコードごとに 1 行のデータを画面に表示します。出力の形式は、74 ページの「冗長な出力の例」で示します。
-r	データをマシン形式に変換します。逆バイトシステムでのみ使用します。
-T	ファイルの全データセグメントを並行してダンプします。-T オプションを使用する場合は、スパンファイルのセグメントごとに出力ファイル (-o オプション) を指定する必要があります。出力ファイル数が正しくない場合、kixsalvage はエラーによって終了します。「例 4」を参照してください。 注: -T オプションを -l オプションと一緒に使用しないでください。
-o outputfile	出力ファイル名 (最大 8 個) を示します。 <ul style="list-style-type: none"> • コマンド行に出力ファイル名が指定されていない場合、kixsalvage は、入力データセット名を使用し、接尾辞に .slvgnnn を付けます。「例 1」を参照してください。 • コマンド行で出力ファイル名が指定されている場合、kixsalvage はその名前を使用します。 • kixsalvage で追加の出力ファイルを生成する場合、そのファイルの末尾に .slvgnnn 接尾辞が付けられます。「例 2」を参照してください。 • -l オプションを使用しているときに、コマンド行で指定した出力ファイル数では、修復されるデータを保持できない場合、kixsalvage は、最後の出力ファイル名に .slvgnnn 接尾辞を付けた追加ファイルを生成します。「例 3」を参照してください。 注: 接尾辞の形式は .slvgnnn です。nnn は、000 ~ 999 の 3 桁の数値です。
datasetname	修復するデータセットのファイル名を示します。このパラメータは必須です。

コマンド行の例と生成される出力

次に、kixsalvage が出力ファイルを生成する方法の例を示します。

例 1: このコマンドでは、-o オプションも -l オプションも使用しません。

```
$ kixsalvage ACCTFIL
```

kixsalvage ユーティリティーは、ACCTFIL.slv000 という出力ファイルを生成します。

例 2: このコマンドでは、-o オプションを使用しません。

```
$ kixsalvage -l1M ACCTFIL
```

kixsalvage ユーティリティーは、データセット全体をダンプするのに必要な 1M バイトのファイルの数を保持するために次の出力ファイルを生成します。

```
ACCTFIL.slv000  
ACCTFIL.slv001  
ACCTFIL.slv002  
ACCTFIL.slv003
```

例 3: 次のコマンドでは、ユーザー定義のファイルが十分ないので、データセット全体をダンプするのに必要な 1M バイトのファイルの数を提供できません。

```
$ kixsalvage -l1M -oacctfil1 -oacctfil2 ACCTFIL
```

したがって、kixsalvage は次の出力ファイルを生成します。

```
acctfil1  
acctfil2  
acctfil2.slv000  
acctfil2.slv001
```

例 4: 次のコマンドでは、`-T` オプションの使用方法を示します。

```
$ kixsalvage -T -o /p1/acctfil -o /p2/acctfil \  
              -o /p3/acctfil -o /p4/acctfil \  
              -o /p5/acctfil -o /p6/acctfil \  
              -o /p7/acctfil -o /p8/acctfil \  
ACCTFIL
```

この例では、ACCTFIL データセットは、非常に大きな 8 セグメントのスパンファイルです。各出力ファイル (acctfil) は、次のように別のディレクトリに送信されます。ディレクトリは、別のディスクまたはファイルシステム上にあるものでもかまいません。

```
/p1/acctfil  
/p2/acctfil  
/p3/acctfil  
/p4/acctfil  
/p5/acctfil  
/p6/acctfil  
/p7/acctfil  
/p8/acctfil
```

`-T` オプションを使用すると、スパンファイルの各セグメントは個別のプロセスで処理されるので、パフォーマンスが向上します。

冗長な出力の例

次の例は、`-v` オプションを使用したときの `kixsalvage` の出力形式です。

```
Key of record 1:
43464544 46494c45 20202020 20204b49      *CFEDFILE      KI*
58535953 20202020 20202020 20          *XSYS          *
Key of record 2:
43464544 46494c45 20202020 20204b49      *CFEDFILE      KI*
58535953 20202020 20202020 31          *XSYS          1  *
Key of record 3:
43464544 4c4f4720 20202020 20204b49      *CFEDLOG       KI*
58535953 20202020 20202020 20          *XSYS          *
Key of record 4:
43464544 52524453 20202020 20204b49      *CFEDRRDS      KI*
58535953 20202020 20202020 20          *XSYS          *
Key of record 5:
4b4b2020 20202020 20202020 20204b49      *KK            KI*
58535953 20202020 20202020 20          *XSYS          *
Key of record 6:
4b585446 494c4520 20202020 20204b49      *KXTFILE       KI*
58535953 20202020 20202020 20          *XSYS          *
processed          1 valid blocks
salvaged           6 records
```

注意

このユーティリティーへのアクセスは制限してください。

kixsgu – SGU の作成

`kixsgu` シェルスクリプトは、「BMS Maintenance」メニューで SGU 作成 (PF12) キーを押すと起動されます。

「Development System」メインメニューで PF9 (画面作成ユーティリティー) を押し、
て「BMS Maintenance」メニューを開き、「Maps Maintenance」メニューで PF5
(BMS 一覧) を押します。

形式:

```
kixsgu [-o filename] [-y device] [-9 tempfile]
```

オプション	説明
-o filename	出力ファイルを指定します。
-y device	Sun MTP 端末プロセッサに接続される端末デバイスを指定します。
-9 tempfile	一時出力ファイルを指定します。

kixsh – シェルの起動

kixsh シェルスクリプトは、「Development System」メインメニューで UNIX で実行 (PF10) キーを押すと起動されます。

このシェルスクリプトに渡されるパラメータはありません。SHELL 環境変数が別のシェルに設定されない限り、シェルはデフォルトで Bourne シェルに設定されます。

形式:

```
kixsh
```

kixsnap – システムスナップショットの取得

kixsnap スクリプトは、異常終了時に、領域のトランザクション処理プログラムとテーブル、システムプロセス、およびユーザーに関する情報を取得します。

kixsnap は、システムにある圧縮ユーティリティに従って、次の形式のいずれかでファイルを作成します。

- snapshot.mmdd_hhmmss.zip
- snapshot.mmdd_hhmmss.tar.gz
- snapshot.mmdd_hhmmss.tar.Z

参考 – kixsnap コマンドの出力に、領域に関連するすべての情報が含まれるようにするには、領域を起動したユーザーのユーザー ID で kixsnap コマンドを実行します。

形式:

```
kixsnap [-d pathname]
```

-d *pathname* オプションは、ファイルが書き込まれるディレクトリを示します。

kixsnap は、次の順序でファイルを書き込むディレクトリを検索します。kixsnap が書き込むことのできるディレクトリのうち、検索順序で最初にあるものが選択されます。

1. -d オプションで指定されたディレクトリ。
2. KIXSNAPDIR 環境変数 (設定されている場合) によって指定されたディレクトリ。
3. \$KIXSYS/debugkix。ディレクトリが -d または \$KIXSNAPDIR によって指定されていない場合、kixsnap はこのディレクトリにファイルを書き込みます。このディレクトリが存在しない場合は、kixsnap によって作成されます。
4. \$KIXSYS.debugkix ディレクトリが \$KIXSYS に存在しないために作成できない場合、kixsnap はファイルを \$KIXSYS に書き込みます。

ユーティリティーが処理を完了し、ディスクにファイルを書き込んだことを示す次のようなメッセージが表示されます。

```
$ kixsnap
Writing snapshot to /users/payroll/sys/debugkix/snapshot.0226_083312.zip
```

システムクラッシュが発生すると、kixsnap ユーティリティーが自動的に実行されます。ただし、ディレクトリとファイル名を表示できない可能性があります。\$KIXSYS/debugkix ディレクトリ、\$KIXSYS ディレクトリ、または KIXSNAPDIR 環境変数 (領域用に設定した場合) で指定したディレクトリ内のファイルを検索できません。また、unikixmain.log ファイルで、kixsnap が実行されたことを示すメッセージを確認することもできます。

注 - 領域がバッチモードに関連付けられている場合、kixsnap ユーティリティーは Sun MBM ebmsnap ユーティリティーも実行します。ebmsnap ユーティリティーについては、『Sun Mainframe Batch Manager ソフトウェア ユーザーズガイド』を参照してください。

分析のために、スナップショットファイルを必ずご購入先に送ってください。

関連項目

『Sun Mainframe Transaction Processing ソフトウェア 障害追跡とチューニング』

kixstart – 領域の起動

kixstart シェルスクリプトは、Sun MTP メインサーバプロセス unikixmain を開始します。kixstart を実行したときに unikixmain サーバプロセスが実行中の場合、一連のエラーメッセージが表示されます。

形式:

```
kixstart [options]
```

96 ページの「unikixmain – Sun MTP サーバプロセス」で説明されているすべてのオプションは、kixstart シェルスクリプトで使用できます。kixstart を実行すると、オプションが unikixmain 実行可能ファイルに渡され、領域が起動します。

注意

このユーティリティへのアクセスは制限してください。

kixstop – 領域の停止

デフォルトでは、kixstop ユーティリティは CEMT PERFORM SHUTDOWN トランザクションを実行します。これは、領域を順番に停止し、終了する前に領域を休止させます。

形式:

```
kixstop [-i]
```

-i オプションは、即時停止を行う CSMT SHUT, YES トランザクションを実行します。即時停止を行うと、トランザクションが正常に終了できなくなり、ロールバックが行われます。

注意

このユーティリティへのアクセスは制限してください。

関連項目

CEMT および CSMT トランザクションについては、『Sun Mainframe Transaction Processing ソフトウェア 管理者ガイド』を参照してください。

kixtran – トランザクションの実行

kixtran コマンドは、バッチスクリプトまたはシェルプロンプトからトランザクションを開始します。このユーティリティーは、プロンプトでサブミットするスクリプト、または UNIX `at` コマンドおよび `cron` コマンドで使用できます。

形式:

```
kixtran -t "tranid [data]"
```

`-t "tranid [data]"` オプションは、要求されたトランザクションを示します。トランザクションに 2 つ以上のワードが含まれる場合、次のように引用符で囲みます。

```
$ kixtran -t "CSMT SHUT,YES"
```

kixtran ユーティリティーは、`unikixepi.err.pid` というエラーファイルを `$/KIXSYS/mtp_runtime` ディレクトリに作成します。`pid` は、kixtran プロセスのプロセス ID です。ユーザーが実行する kixtran ユーティリティーに `$/KIXSYS/mtp_runtime` への書き込み権がない場合、ユーティリティーは、ユーザーの現在のディレクトリにファイルを作成しようとします。ファイルを作成できなかった場合、エラーは標準エラー (`stderr`) に送信されます。

注意

このコマンドは、会話型トランザクションやマップ入力が必要とするトランザクションには使用できません。トランザクションは出力を表示できますが、表示内容に対して応答できません。

kixupdateGCT – GCT の更新

kixupdateGCT コマンドを使用すると、グループ管理テーブル (GCT) をコマンド行から更新できます。GCT に対する変更は、領域を再開するまで有効になりません。

注 – `gct.tbl` が配置されているディレクトリ、または新しい `gct.tbl` が作成されるディレクトリからコマンドを実行してください。

形式:

```
kixupdateGCT -I | -M | -D -g groupname [-r Y | N] [-d directory]
```

オプション	説明
-d <i>directory</i>	グループ名が存在するディレクトリを示します。パス名は最大 50 文字です。
-D	エントリを削除します。エントリを削除するには、-g <i>groupname</i> オプションを指定する必要があります。その他の引数は無視されません。
-g <i>groupname</i>	アクションの対象となるグループを指定します。 <i>groupname</i> は最大 8 文字です。
-I	エントリを挿入します。エントリを挿入するには、-r 以外のすべての引数を指定する必要があります。-r を指定しない場合のデフォルトは Y (エントリは読み取り専用) です。 gct.tbl が存在しない場合、挿入アクションによって新しいファイルが作成されます。アクションが「挿入」で、 <i>groupname</i> がすでにテーブルに存在する場合、重複した <i>groupname</i> は挿入できないので、アクションは「変更」になります。
-M	エントリを変更します。エントリを変更するには、-g <i>groupname</i> オプション、および -r または -d のどちらか、あるいはその両方を指定する必要があります。
-r Y N	<i>groupname</i> が読み取り専用 (Y) であるか、読み取り権と書き込み権 (N) を所有していることを示します。

kixupdateGCT コマンドは、次のエラーメッセージおよび情報メッセージを生成します。

メッセージ	原因
GROUP name too long	<i>groupname</i> に 9 文字以上が指定されています。
GROUP directory name too long	<i>directory</i> に 51 文字以上が指定されています。
RDONLY option must be Y or N	Y または N 以外の値が -r オプションに対する引数として指定されています。
No Action specified:Must be -M, -I, or -D	アクションが指定されていません。
No Group specified:Must be -g dddddd	<i>groupname</i> が指定されていません。
No Group Directory specified	<i>groupname</i> の場所としてディレクトリが指定されていません。

メッセージ	原因
Group already present -- Modify done	すでに存在する <i>groupname</i> が挿入アクションに対して指定されています。
gct.tbl not present:No action taken	GCT を変更または削除するように要求されましたが、GCT が存在しません。
No gct.tbl found -- Insert created gct.tbl	挿入要求に有効な引数が指定されていると、gct.tbl が存在しない場合は作成されます。

関連項目

113 ページの「テーブルエントリのグループ化」

166 ページの「グループ制御テーブル (GCT)」

kixvalfle – VSAM クラスタの検査

kixvalfle ユーティリティーは、VSAM クラスタを検査します。VSAM ファイルの構造が不確かな場合、このユーティリティーを使用します。このファイルがキーシーケンスデータセット (KSDS) または代替索引ファイルである場合、kixvalfle は索引ファイルのブロック間のリンクも確認します。

オプションなし (デフォルト) の kixvalfle は、索引ファイルが存在する場合、データファイルおよび索引ファイルのブロック間のリンクを検査します。

形式:

```
kixvalfle [ -i -k -v ] datasetname
```

オプション	説明
-i	索引エントリがデータファイルの有効なブロックを指していることを確認します。これは最も厳密なチェックです。
-k	索引ファイルの各キーを検査して、すべてのレコードが昇順のキー順序であることを確認します。
-v	処理されるブロックごとに 1 行のデータを出力します。
<i>datasetname</i>	関連付けられている VSAM クラスタにアクセスするために、kixvalfle によって使用されるデータセットを指定します。このパラメータは必須です。

kixverify – アクティビティー カウントの表示およびリセット

kixverify プログラムは、VSAM クラスタのアクティビティー カウントを表示およびリセットします。

データセット名の代わりに ALL を指定すると、kixverify は、領域の VSAM カタログに定義されているすべてのファイルに対して動作します。

形式:

```
kixverify [-v | -r [ALL | datasetname]]
```

オプション	説明
ALL	すべてのデータセットのアクティビティーカウントをリセットまたは表示します。
-r	指定した VSAM データセットまたはすべてのデータセットの全コンポーネントのアクティビティーカウントをリセットします。
-v	指定した VSAM データセットまたはすべてのデータセットの全コンポーネントのアクティビティーカウントを冗長モードで表示します。
<i>datasetname</i>	検査する一次データセットを指定します。ファイル制御テーブル (FCT) に存在する必要があります。

kixclean の実行後に、kixverify -rALL を実行する必要があります。

注意

このユーティリティーへのアクセスは制限してください。

kixview - ファイルの表示

kixview プログラムは、ファイルの内容をダンプ形式で表示します。ディスプレイの左側は 16 進表記、右側はテキストです。kixview は、ASCII と EBCDIC ファイルのどちらも表示できます。EBCDIC ファイルの場合、kixview はファイルを表示する前にバイトを ASCII に変換します。

形式:

```
kixview [-e|-E] [-A conversion-table] file1, file2, ... fileN
```

オプション	説明
-e -E	入力ファイルが EBCDIC ファイルであることを指定します。
-A <i>conversion-table</i>	EBCDIC から ASCII コードページへの変換に使用する変換テーブルを指定します。EBCDIC ファイルの表示で変換テーブルを指定しない場合、デフォルトの変換テーブル (IBM-1047 から ISO8859-1) が使用されます。
<i>file1 ... fileN</i>	ファイルの名前またはフルパス名を指定します。 複数のファイル名を指定しているときに、ファイル名を間違えて入力したか、存在しないファイル名を入力した場合、kixview はエラーメッセージを発行し、一覧内の次のファイルを表示します。

ファイル内をナビゲートするには、16 進数値またはテキストのどちらかの表示領域にカーソルを配置し、次のキーでカーソルを移動します。

キー	アクション
j	カーソルを 1 行下に移動します。
k	カーソルを 1 行上に移動します。
l	カーソルを右に 1 文字移動します。
h	カーソルを左に 1 文字移動します。
Ctrl + f	1 画面ずつ下にスクロールします。
Ctrl + b	1 画面ずつ上にスクロールします。
Ctrl + d	1 画面の半分ずつ下にスクロールします。
Ctrl + u	1 画面の半分ずつ上にスクロールします。
L	画面の最後の行の先頭にカーソルを移動します。
H	画面の最初の行の先頭にカーソルを移動します。
^	現在の行の先頭にカーソルを移動します。
\$	現在の行の末尾にカーソルを移動します。

キー	アクション
#	もう一方の画面領域の先頭にカーソルを移動します。たとえば、カーソルが 16 進数値の領域にある場合は、テキスト領域の先頭に移動します。
%	もう一方の画面領域の末尾にカーソルを移動します。たとえば、カーソルが 16 進数値の領域にある場合は、テキスト領域の末尾に移動します。
B	ファイルの最初の位置にカーソルを移動します。
G	ファイルの最後の位置にカーソルを移動します。
g	File Position (hex) プロンプトを表示します。ファイル位置の 16 進数値を入力し、Return キーを押します。その値を含む行が画面の一番上に表示されます。
/	(A)scii or (H)ex プロンプトを表示します。検索パターンを入力し、Return キーを押します。kixview は、ファイルを前方検索し、検索値の最も近いインスタンスを含む行を画面上部に移動します。
?	(A)scii or (H)ex プロンプトを表示します。検索パターンを入力し、Return キーを押します。kixview は、ファイルを後方検索し、検索値の最も近いインスタンスを含む行を画面上部に移動します。
n	検索パターンの最も近いインスタンスを前方検索します。
N	検索パターンの最も近いインスタンスを後方検索します。
Ctrl + L	画面を再表示します。
e	Edit File プロンプトを表示します。表示する別のファイルの名前を入力し、Return キーを押します。指定できるファイル名は 1 つだけです。
q	kixview を終了して、コマンドプロンプトに戻ります。

注 - EBCDIC ファイルの場合、kixview は、ファイルで文字を検索する前に入力 ASCII パターンを EBCDIC に変換します。

unikix – ローカルクライアントプロセス

unikix プログラムは、ローカルクライアントプロセス unikix1 を開始します。

形式:

```
unikix [-4] [-5] [-a] [-A] [-B] [-c] [-C] [-d transid]  
[-f script-file] [-J] [-k keyfile] [-L filename] [-m filename] [-n]  
[-t string] [-T termid] [-x suffix]
```

オプション	説明
-4	通常の画面サイズの選択を無効にします。このパラメータを指定すると、クライアントは、画面サイズにかかわらず、3270 モデル 4 のシミュレーションを試みます。画面サイズが 43 行 x 80 列よりも小さい場合、エラーが生成されます。このパラメータを指定しない場合、クライアントは、画面が十分な大きさの場合だけモデル 4 のシミュレーションを行います。
-5	-4 オプションと同様の機能を 3270 モデル 5 でサポートします (27 行 x 132 列)。
-a	マップ画面のオートタブを無効にして、カーソルが自動的に次のフィールドにジャンプしないようにします。
-A	端末を AS IS モードに設定して、端末から入力される文字の大文字小文字を保持します。
-B	空白文字、ドル符号 (\$)、および左角括弧 (l) を、保護されていない数値フィールドの有効な入力として受け入れます。このオプションによって、ユーザーは数値フィールドを編集できます。
-c	マップ上の数値フィールドで少数点をコンマとしてフォーマットし、各国の標準規格に適応させます。
-C	ASCII 端末上で色を使用可能にします。
-d <i>transid</i>	デフォルトのトランザクション。ユーザーが Sun MTP 画面上で Enter キーを押してトランザクションの起動を試行すると、指定したトランザクションが行われます。 デフォルトのトランザクションが、ユーザーが入力するトランザクション ID よりも優先されます。このため、ユーザーは、メニューシステム内または指定されたトランザクションで作業する必要があります。

オプション	説明
-f <i>script-file</i>	<p>端末から読み取る前にスクリプトファイルを読み取ります。 次のコマンドで <code>unikix</code> を実行すると、<i>script-file</i> が作成されます。 <code>tee script-file unikix</code></p> <p>これにより、<i>script-file</i> ファイルにすべてのキーストロークが保存されます。 -f オプションは <i>script-file</i> を再実行します。 このオプションを動作させるには、スクリプトの作成に使用したものと 同じ端末タイプを使用してスクリプトを再実行する必要があります。</p>
-J	<p>EXEC CICS RECEIVE BUFFER コマンドによって返されるデータに拡張属性を含めることを示します。後続の EXEC CICS SEND を実行して受信バッファを端末に送信すると、拡張属性が再表示されます。 EXEC CICS RECEIVE BUFFER を処理するとき、デフォルト (-J オプションなし) では拡張属性を無視します。</p>
-k <i>keyfile</i>	<p>通常のキーボード定義ファイルを上書きします。このファイルは、標準の 3270 キーボードをシミュレートするために使用するキーを定義します。 このオプションは、ローカルクライアントに使用する複数の端末タイプで、同じ TERM 変数を使用するものの、キーボード構成が異なる場合に役立ちます。 このオプションを省略すると、unikix は、キー定義ファイルとして TERM および UNIKIX 環境変数によって定義されたファイルを使用します。デフォルトのファイルは、<code>\$UNIKIX/lib/\$TERM.key</code> です。 指定するファイルが絶対パス (スラッシュ / で始まるパス) の場合、そのまま使用されます。相対パスの場合、unikix は、<code>\$UNIKIX/local/lib/keyfile</code> のファイルを検索します。このファイルが見つからないと、<code>\$UNIKIX/lib/keyfile</code> を検索します。</p>
-L <i>filename</i>	<p>出力画面のロギングを許可します。指定したファイルには、ユーザーがアクセスした画面のテキストコピーが書き込まれます。これは診断ツールなので、通常の動作状態では使用しません。</p>
-m <i>filename</i>	<p>入力および出力メッセージのロギングを許可します。指定したファイルには、ユーザーからの入力のテキストが書き込まれます。これは診断ツールなので、通常の動作状態では使用しません。</p>
-n	<p>ユーザーが保護されていない数値フィールドに数値以外のデータを入力できるようにします。キーボードの数値ロック機能がインストールされていない 3270 端末の動作がエミュレートされます。</p>
-t <i>string</i>	<p>トランザクションが画面の左上に入力された場合と同様に、指定された文字列を実行します。 パラメータが必要な場合、<i>string</i> はトランザクションコードよりも長くなる場合があります。空白文字または特殊文字が含まれている場合、文字列を引用符で囲む必要があります。トランザクションを入力すると、Sun MTP の著作権の表示およびユーザーの PLT 処理は省略されます。</p>

オプション	説明
-T <i>termid</i>	Sun MTP への接続用端末 ID を指定します。通常、端末 ID は起動するたびに自動的に生成されます。このパラメータによって、必要に応じて端末 ID を設定できます。
-x <i>suffix</i>	1 文字の接尾辞の指定を可能にします。これは、BMS コマンドで指定されるマップセットに追加されます。

関連項目

ローカルクライアントの起動については、『Sun Mainframe Transaction Processing ソフトウェア 構成ガイド』を参照してください。

BMS サポートについては、『Sun Mainframe Transaction Processing ソフトウェア 開発者ガイド』を参照してください。

キーファイルの形式については、『Sun Mainframe Transaction Processing ソフトウェア 構成ガイド』を参照してください。

unikixbld – VSAM ファイルビルダー

unikixbld コーティリティーは、VSAM データセットをバッチジョブから操作するために使用します。unikixbld は、次の機能を実行します。

- 順編成ファイルから VSAM データセットを構築する。
- VSAM データセットから順編成ファイルを構築する。
- ユーザープログラムからのレコードを受け取って VSAM データセットを構築する。
- ユーザープログラムにレコードを提供してユーザーファイルを構築する。
- VSAM データセットを初期化する。
- VSAM データセットから索引ファイルを再構築する。
- ベース VSAM データセットから代替索引ファイルを再構築する。
- 複数の順編成ファイルから 1 つの VSAM データセットにマージする。
- 順編成ファイルから VSAM データセットを更新するための即時更新機能を提供する。

unikixbld コマンドの使用例は、『Sun Mainframe Transaction Processing ソフトウェア 開発者ガイド』を参照してください。

形式:

- データセットを初期化する場合:

```
unikixbld -d VSAM-dataset -i
```

- 順編成ファイルをエクスポートする場合:

```
unikixbld -d VSAM-dataset -2 -l bytes -r format -s filename ...-t s  
-v n-rec
```

- VSAM 以外のファイルから VSAM データセットを構築する場合:

```
unikixbld -d VSAM-dataset -2 -f percent -m -r format -s filename ...-t v
```

- 代替索引を再構築する場合:

```
unikixbld -d VSAM-dataset -f percent -t a [-M altkey-mem]
```

- VSAM データセットの索引部分を再構築する場合:

```
unikixbld -d VSAM-dataset -t x:
```

- VSAM データセットを更新する場合:

```
unikixbld -d VSAM-dataset -p [reuse|noreuse]  
[-k {replace|noreplace}]  
-W mmm -V
```

- すべての統計情報を表示する場合。次の例には、VSAM データセットの索引部分の再構築も含まれます。

```
unikixbld -d VSAM-dataset -t x -X ALL
```

オプション	説明
-2	レコード形式が可変長 (-r recordv) の場合、ヘッダーレコードがデフォルトの 4 バイトではなく 2 バイトになることを示します。これは、ファイルのエクスポートおよびインポートの両方に適用されます。レコードヘッダーには、レコード長が入ります。
-a	レコードを対象の ESDS ファイルに追加します。 このリリースでは、下位互換性のためにこのオプションが保持されています。同じ機能として -p reuse オプションを使用してください。
-d VSAM-dataset	処理するデータセットを示します。VSAM-dataset は FCT で定義されたデータセットを示します。このパラメータは必須です。 VSAM-dataset が指定されておらず、-t s オプションが設定されている場合、指定した順編成ファイルが空で作成されます。

オプション	説明
-f <i>percent</i>	<p>各 VSAM ブロックに残す空き領域の割合を示す充てん率をパーセントで指定します。<i>percent</i> は 0 ~ 99 の任意の数です。</p> <p>このパラメータを使用しない場合、充てん率はデフォルトの 0 に設定されます。</p> <p>このパラメータは、VSAM KSDS ファイルにのみ有効です。</p>
-i	<p>VSAM データセットを初期化します。</p> <p>unikixbld は、初期化する前にファイルが閉じられることを前提にしていません。オンラインまたはバッチ、あるいはその両方によってファイルがアクセスされている場合、unikixbld はファイルの休止、ロック、初期化を行い、続きの処理のために解放します。</p> <p>reuse が VSAM カタログで指定されている場合、または noreuse が指定されてファイルにレコードが含まれていない場合、そのファイルは初期化されます。</p> <p>-i パラメータと -t パラメータは同時に指定できません。</p>
-k [replace noreplace]	<p>ソースファイルレコードによって対象の VSAM ファイルレコードを置き換えるかを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • replace は、対象の VSAM ファイルとソースファイルの両方に同じキー値のレコード (KSDS 用) が存在する場合、ソースファイルレコードによって対象の VSAM ファイルレコードを置き換えることを示します。ソースファイルレコードと一致するレコードが対象の VSAM ファイルに存在しない場合、ソースファイルレコードが対象の VSAM ファイルに挿入されます。 • noreplace は、対象の VSAM ファイルとソースファイルの両方に同じキー値のレコード (KSDS 用) が存在する場合、ソースファイルレコードは無視されて VSAM ファイルレコードが変更されないことを示します。レコードキーが一致すると、冗長モードが設定されている場合は、「重複レコード」状態を表すメッセージが出力されて対象のレコードは変更されません。ソースファイルレコードと一致するレコードが対象の VSAM ファイルに存在しない場合、ソースファイルレコードが対象の VSAM ファイルに追加されます。この動作はデフォルトです。 <p>-k 引数は、-p noreuse 引数が指定されている場合にのみ機能します。-k 引数を -p reuse 引数とともに使用すると、-k 引数は無視されて警告メッセージが表示されます。</p> <p>相対レコードデータセット (RRDS) ファイルは、現在サポートされていません。</p>

オプション	説明
-l <i>bytes</i>	<p>VSAM データセットから順編成ファイルを作成します。<i>bytes</i> は、順編成ファイルの最大バイト数を指定します。このバイト数に達すると、次の順編成ファイルが使用されず、順編成ファイルに十分なバイト数を指定しないと、最後のファイルでこの値を超える場合があります。</p> <p>この値は、K、M、または G の接尾辞を付けて、KB、MB、または GB 単位で指定できます。使用可能なディスク装置よりも大きい順編成ファイル (スパンファイル) を作成する場合に、このパラメータを使用します。</p>
-m	<p>複数の順編成ファイルをマージします。複数の順編成ファイルから VSAM データセットを作成する際、キーがファイル間で昇順になっていない場合に、このオプションを使用します。</p> <p>このオプションは、<i>mfrcd</i> 形式などのカスタマイズされたレコード処理形式には適用されません。詳細は、『Sun Mainframe Transaction Processing ソフトウェア 管理者ガイド』を参照してください。</p>
-M <i>altkey-mem</i>	<p>代替キーがソートされるときに内部ソートユーティリティによって割り当てられる容量 (MB 単位) を指定します。</p> <p>VSAM 出力ファイルに代替キーがない場合、この引数は無視されます。</p>
-p [<i>reuse noreuse</i>]	<p>対象の VSAM データセットを再初期化するかどうかを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • <i>reuse</i> は、対象の VSAM データセットが再初期化され、ソースファイルのレコードから完全に再構築されることを示します。容量はすべて論理的に再利用されます。<i>reuse</i> は、標準のバッチのデフォルトです。メインフレームデフォルトの <i>NOREUSE</i> を適用するように Sun MBM サブシステムを設定することもできます。 • <i>noreuse</i> は、対象の VSAM (KSDS) データセットが再初期化されず、更新規則が <i>-k replace noreplace</i> 引数から与えられることを示します。対象の VSAM ファイルが <i>ESDS</i> ファイルの場合、ソースファイルからの連続したすべての入力 VSAM ファイルの最後に追加されます。 <p>現在、RRDS ファイルは、<i>-p</i> 引数と <i>-k</i> 引数の組み合わせをサポートしていません。</p>

オプション**説明**

-r *format*

順編成ファイルを作成またはアクセスする場合に使用するレコード形式を指定します。*format* は、Sun MTP サポートのレコード形式のいずれかが、『Sun Mainframe Transaction Processing ソフトウェア 管理者ガイド』に示す手順で作成するカスタムレコード形式です。このパラメータを使用しない場合、形式はデフォルトの *record* に設定されます。

サポートされているレコード形式は、次のとおりです。

- *line*。行形式 (区切り記号として改行文字を使用)。
- *record*。固定長レコード形式。
- *recordv*。可変長レコード形式。
- *mfrcdv*。Micro Focus 可変長レコード形式。最小レコードサイズがキーのサイズ、最大レコードサイズが VSAM カタログで定義されているレコードサイズです。

Sun MTP 提供のカスタマイズレコード形式:

- *mfrcd*。Micro Focus 固定長レコード形式。詳細は、93 ページの「大規模ファイル」を参照してください。

レコード処理ルーチンのカスタマイズについては、『Sun Mainframe Transaction Processing ソフトウェア 管理者ガイド』を参照してください。

-s *filename*

順編成ファイルに使用するためのファイル名をフルパス名または相対パス名で指定します。相対パス名は、KIXSYS 環境変数によって指定されたディレクトリを基準にします。

VSAM 以外のファイルにエクスポートする場合、*filename* は、VSAM レコードが **-r** オプションで指定した形式で書き込まれるファイルです。

VSAM データセットを構築する場合、*filename* は、**-r** オプションで指定した形式で読み込まれるレコードのファイルです。VSAM データセットを構築する場合、次の点にも注意が必要です。

- 順編成ファイルのレコードをソートする必要があります。
- 複数の順編成ファイルをコマンド行で指定する場合、レコードが昇順になるようにファイルを並べ、各ファイルのキーも昇順値とする必要があります。**-m** オプションを使用する場合、これは必要ありません。

最大 50 までの順編成ファイル名を指定できます。

入力 *dataset* が空白で、**-t v** オプションが設定されている場合、**-i** パラメータが設定されている場合と同様に *filename* が初期化されます。

オプション	説明
-t [a s v x]	<p>出力ファイルタイプを指定します。</p> <p>a: 代替索引ファイルを再構築します。</p> <p>s: 順編成ファイルを VSAM データセットから作成します (-d オプションを参照)。</p> <p>v: VSAM データセットを順編成ファイルから作成します (-s オプションを参照)。</p> <p>x: 索引ファイルを再構築します。</p> <p>-t パラメータと -i パラメータは同時に指定できません。</p>
-v <i>n-rec</i>	<p><i>n_rec</i> レコードが処理されたあと、情報メッセージを表示します。これにより、unikixbld の進行状況を確認できます。</p> <p>-v パラメータと -i パラメータは同時に指定できません。</p>
-V	<p>冗長オプションを示します。指定すると、「重複レコード」キーがログファイルに書き込まれます。-k noreplace の説明を参照してください。指定しない場合、「重複レコード」キーがログに書き込まれません。</p> <p>ログ情報は、次のように 2 行のエントリで、重複したキーを含む入力レコードのレコード番号とともに 16 進数と英数字の両方で表されたキーを示します。</p> <pre data-bbox="696 812 1300 869">Duplicate Key:Input Record 456 30313730313841 *017018A</pre>
-W <i>nnn</i>	<p>対象の VSAM ファイルの回復機能の指定にかかわらず各同期点に渡される入力レコードの数を指定します。デフォルトでは (-w を指定しない場合)、ジョブの終了まで同期点は実行されません。<i>nnn</i> は 1 より大きな値でなければなりません。</p> <p>-p noreuse を指定した場合にのみ、この引数が適用されます。</p> <p>回復可能なファイルを使用する場合、<i>nnn</i> だけ入力レコードが渡されるたびに同期点が行われるようにするために、-w <i>nnn</i> 引数を指定します。</p>
-X [ALL PIO WTIME]	<p>統計情報を表示します。有効な引数は、次のとおりです。</p> <p>ALL: 両方の統計情報を表示します。</p> <p>PIO: 物理入出力統計情報を表示します。</p> <p>WTIME: 待機時間を表示します。</p>

動作モード

順編成から VSAM ファイルの処理では、unikixbld は読み込みと更新の 2 つのモードで動作します。

読み込みモードで、unikixbld は次のアクションを実行します。

1. 排他的制御のためにファイルをロックします。
2. VSAM データセット用に一時データファイルおよび索引ファイルを作成します。
3. 一時データファイルにレコードを読み込みます。
4. 一時データファイルから一時索引ファイルを作成します。
5. 既存の各代替ファイルを手順 3 および手順 4 を繰り返して構築します。
6. 一時ファイルを VSAM ファイルにコピーします。
7. ファイルのロックを解除します。

unikixbld が正常に完了できない場合、一時ファイルが破棄され、VSAM データセットは読み込み処理の開始時と同じ状態のままです。

更新モードでは、unikixbld はトランザクションと同様に動作します。unikixbld がソースの順編成ファイルのレコードを置き換えたり追加しているときでも、VSAM データセットへのオンラインおよびバッチユーティリティーのアクセスが可能です。VSAM データセットの回復機能の指定が有効な場合、unikixbld がレコードをコミットするまで、そのレコードは更新できません。このため、unikixbld がデッドロック状態の原因になることがあります。unikixbld が完了できない場合、最後の同期点以降に追加または更新されたレコードは復元されません。更新モードでファイルの排他制御が必要な場合、kixfile を使用してデータセットをロックする必要があります。

更新モードで実行する unikixbld に適用される引数は、-k、-p、-w、および -v です。

使用上の注意

この節では、unikixbld を使用するときの注意すべき点について説明します。

Update in Place

unikixbld バッチシェルスクリプトを使用する場合、次の制限事項に注意してください。

- 同じジョブ内で複数のバックグラウンドプロセスが VSAM データセットにアクセスすることはできません。たとえば、バックグラウンドでステップを起動するためにコマンド行でアンパサンド (&) を指定しないでください。
- unikixbld プロセス ID に対して `kill -9` または `SIGKILL` を実行しないでください。プロセスを手動で終了する場合は、`kill pid#` コマンドを使用します。

VSAM データセットを回復可能として定義してこれらの制限事項に従わない場合、手動で非同期の終了を実行すると、データが破壊されてファイルを回復できなくなることがあります。

-k 引数および -p 引数は、unikixbld による順編成ファイルと VSAM データセット間の処理用です。VSAM どうしの処理はサポートされていません。

-k 引数および -p 引数は、KSDS および ESDS VSAM のファイルタイプにだけ有効です。これらを RRDS ファイルとともに使用すると、unikixbld は処理を終了してエラーメッセージを出力します。

大規模ファイル

unikixbld で入力または出力として mfrcd レコード形式を使用するときに、ファイルサイズが 2G バイトを超える場合は、この節を参照して必要な設定をしてください。

- 大規模ファイルを使用する場合は、Server Express を使用します。
- Server Express の『Programmer's Guide for File Handling』の「File Handler Configuration」の節を参照し、ハンドラの構成ファイルについて理解してください。構成ファイルには、少なくとも次の文が必要です。

```
[XFH-DEFAULT]
FILEMAXSIZE=8
```

使用するアプリケーションにより、このファイルには他の文も必要になります。

- 領域設定ファイルに、ハンドラ構成ファイルの位置を指定する `EXTFH` 環境変数を定義します。

unikixi - 3270 クライアントイニシエータプロセス

unikixi ユーティリティーは、3270 クライアントイニシエータプロセスを開始します。unikixi を起動する前に、KIXHOST 環境変数を Sun MTP ホストとクライアントイニシエータシステムの両方で設定します。クライアントイニシエータシステムでは、\$KIXHOST は、Sun MTP 領域を実行するホストを指定します。Sun MTP 領域を実行するホストでは、\$KIXHOST は自身を指定して、領域に遠隔クライアントを想定するよう通知します。ホストおよびクライアントイニシエータは、物理マシンが同じでも異なっても構成できます。

形式:

```
unikixi [-b SNA-server-host-name]  
        [-c P[rinter]|D[isplay]|B[oth]] [-i] [-L filename] [-m filename]  
        [-o port] [-p filename] [-s port] [-t string] [-u application-name] [-w| -W]
```

オプション	説明
-b <i>SNA-server-host-name</i>	SNA サーバーとして動作するホストを特定します。SNA サーバーは、3270 クライアントイニシエータと同じホスト上で実行する必要はありません。指定しない場合、このオプションはデフォルトで unikixi の呼び出し元のマシンの名前に指定されます。
-c P[rinter] D[isplay] B[oth]	端末に送信されるメッセージに対する終端間の肯定応答を指定します。このオプションは、unikixi によって管理される、指定されたタイプのすべてのデバイス (プリンタ、またはディスプレイ、あるいはその両方) に適用されます。このオプションを指定すると、端末にメッセージを正しく配信できない障害が発生した場合、現在のトランザクションが強制的に中止されます。
-i	SNA 3270 端末でセッション切り換えソフトウェアをサポートします。
-L <i>filename</i>	画面のロギングを有効にします。指定したファイルには、接続された端末からアクセスされたすべての画面のテキストコピーが書き込まれます。これは診断ツールなので、通常の動作状態では使用しません。
-m <i>filename</i>	入力メッセージのロギングを有効にします。指定したファイルには、接続された端末から転送されるすべてのメッセージの完全なテキストが書き込まれます。これは診断ツールなので、通常の動作状態では使用しません。

オプション	説明
-o <i>port</i>	3270 クライアントイニシエータが待機するポート番号またはポート名を指定します。このポート番号またはポート名は、「TCT-3270 Devices, Host & Port」画面の値と一致する必要があります。このオプションを指定する場合、小文字または大文字の <i>o</i> のどちらかを使用できます。
-p <i>filename</i>	3270 クライアントイニシエータの性能追跡を有効にします。
-s <i>port</i>	3270 クライアントイニシエータが接続するポート番号またはポート名を指定します。特定の領域に接続するためにこのオプションを使用します。値を指定しないと、デフォルト値の 2001 が使用されます。 この値は、unikixmain (kixstart) に -s オプションを指定して開始する Sun MTP サーバーに割り当てられる値と一致する必要があります。複数の領域を起動する場合、各領域に一意のポート番号またはポート名が必要です。
-t <i>string</i>	トランザクションが画面の左上に入力された場合と同様に、指定された文字列を実行します。 パラメータが必要な場合、 <i>string</i> はトランザクションコードよりも長くなる場合があります。空白文字または特殊文字が含まれている場合、文字列を引用符で囲む必要があります。トランザクションを入力すると、Sun MTP の著作権の表示およびユーザーの PLT 処理は省略されます。
-u <i>application-name</i>	3270 クライアントイニシエータの一意のアプリケーション名を指定します。このアプリケーション名は、3270 ログイン画面に示される SNA サーバーアプリケーション名の 1 つに一致する必要があります。 複数のアプリケーションを実行する場合、このオプションを設定して、ユーザーが正しいアプリケーションに接続されるようにします。アプリケーション名を指定しないと、イニシエータはデフォルトで、SNA サーバーに対して構成された最初のアプリケーション名に設定します。
-w -W	LU1 および LU2 端末タイプのログインシーケンスを示します。w/W は「初期入力の待機」を表し、Sun MTP ソフトウェアが端末からの入力を待機する必要があることを示します。この 2 つのオプションは、入力の内容を示します。 w: ログインシーケンスは、二次 LU からの最初の入力プロンプトによって開始されます。 W: ログインシーケンスは省略され、最初のトランザクションが二次 LU からの初期入力に指定されます。

各 SNA サーバーのアプリケーションごとに、1 つずつ 3270 クライアントイニシエータが実行される必要があります。-u オプション、-s オプション、および KIXHOST 環境変数によって、SNA サーバーアプリケーション名と実行されるホストおよび Sun MTP アプリケーション間がリンクされます。

注意

- 他の TCP/IP アプリケーションと重複しないポート番号を使用し、5000 より大きいポート番号を選択する必要があります。
- 3270 デバイスには .key ファイルは存在しません。
- SNA 論理ユニット名は、Sun MTP に対して 3270 デバイスを指定するために使用される名前です。この名前をすべての 3270 デバイスの TCT で入力する必要があります。

関連項目

3270 デバイス接続の設定手順については、『Sun Mainframe Transaction Processing ソフトウェア 構成ガイド』を参照してください。

unikixmain – Sun MTP サーバー プロセス

Sun MTP サーバーは、unikixmain コマンド、または処理のために引数を unikixmain に渡す kixstart シェルスクリプトを使用して起動します。詳細は、77 ページの「kixstart – 領域の起動」を参照してください。

サーバーの開始後、unikixmain は次の 3 つのログファイルを管理します。

ログファイル	説明
unikixmain.log	プロセッサの開始および終了に関する情報とともに、異常な状態に関する情報が含まれます。
unikixmain.err	異常な状態に関する情報が含まれます。
unikixmain.dbg	デバッグに使用されます。

ログファイルが存在しない場合は、\$KIXSYS ディレクトリに作成されます。ファイルが存在する場合、unikixmain は情報を各ファイルの最後に追加します。

unikixmain が開始されると、これを開始した端末から切り離されるので、その端末は他の用途に使用できます。

形式:

```
unikixmain [-a pnnn|tnnn] [-A conversion-table | -B conversion-table]
[-b blksize] [-d] [-D string] [-E] [-f] [-G filename]
[-h [name|IP address|any|loopback]] [-i #] [-I #] [-l directory]
[-L descriptor#] [-M tvalue] [-M cvalue] [-n] [-N dumps]
[-O TDINTRA=[NOEMPTY|EMPTY]] [-p port] [-P port] [-qvalue] [-Q]
[-R size] [-s port] [-S size] [-t filename] [-T A|M] [-x #] [-X port]
[-Z]
```

オプション	説明
-a pnnn tnnn	リソーステーブルに動的に追加できるエントリ数を指定します。 <ul style="list-style-type: none">• p は、処理プログラムテーブル (PPT) を指定します。nnn は、領域の実行中に追加できる PPT エントリ数を指定します。デフォルト値は 200 です。• t は、プログラム制御テーブル (PCT) を指定します。nnn は、領域の実行中に追加できる PCT エントリ数を指定します。デフォルト値は 100 です。
-A conversion-table	各国語サポートに使用するシングルバイトのコードページ変換テーブルを指定します。変換テーブルは、文字 0x00 ~ 0xff の EBCDIC/ASCII 間変換を表す 256 バイトファイルです。テーブルは、\$UNIKIX/lib ディレクトリに配置する必要があります。 -A オプションと -B オプションは同時に指定できません。 これらのテーブルの使用に関するガイドラインは、『Sun Mainframe Transaction Processing ソフトウェア 構成ガイド』を参照してください。 提供されるテーブルのリストについては、『Sun Mainframe Transaction Processing ソフトウェア ご使用にあたって』を参照してください。
-b blksize	システム全体の VSAM ブロックサイズ (KB 単位) を指定します。有効な値は、4K、8K、16K、または 32K です。デフォルトは 4K です。このオプションは、VSAM カタログがない場合にのみ適用されます。カタログが存在する場合、VSAM ブロックサイズは自動的にカタログのブロックサイズに等しくなります。ブロックサイズの変更については、『Sun Mainframe Transaction Processing ソフトウェア 管理者ガイド』を参照してください。 ファイルのブロックサイズは、カタログのブロックサイズと等しくする必要があります。等しくない場合、ファイルを開くことはできません。

オプション	説明
-B <i>conversion-table</i>	<p>3270 データストリームでダブルバイト文字セットのサポートを有効にします。</p> <p>各国語サポートに使用するダブルバイトのコードページ変換テーブルを指定します。変換テーブルは、文字 0x00 0x00 ~ 0xff 0xff の EBCDIC/ASCII 間変換を表す 131,072 バイトのファイルです。</p> <p>-A オプションと -B オプションは同時に指定できません。</p> <p>DBCS の使用方法の詳細は、『Sun Mainframe Transaction Processing ソフトウェア 構成ガイド』を参照してください。</p> <p>提供されるテーブルのリストについては、『Sun Mainframe Transaction Processing ソフトウェア ご使用にあたって』マニュアルを参照してください。</p>
-d	<p>特定のシステムデバッグオプションを設定します。COBOL デバッグまたは CEDF などのデバッグオプションには影響しません。ご購入先から指示があった場合にのみ使用します。</p>
-D <i>string</i>	<p>システムデバッグオプションを示します。使用可能な <i>string</i> の値は、次のとおりです。</p> <p>a: 各トランザクションに対する CEDF 出力を \$UNIKIX/unikixmain.dbg に書き込みます。</p> <p>c: unikixtran, unikixvsam, または rtsvsam プロセスがアプリケーションプログラムの実行中に中断された場合に、特定の状況下でコアファイルを生成します。たとえば、アプリケーションプログラムが無効なメモリー位置 (SIGSEGV) にアクセスしようとした場合、unikixtran プロセスが中断され、コアファイルが生成されません。unikixmain.err ファイル内のメッセージに、コアファイルが記述されたディレクトリが示されます。</p> <p>dy: 実行時エラーが検出された場合、アプリケーションプログラムが CICS の ABEND コマンドを HANDLE ABEND コマンドなしで使用した場合、あるいは記憶領域不足の状態などのエラーが発生した場合に、アプリケーションダンプファイルを生成します。これはデフォルトです。</p> <p>dn: アプリケーションダンプファイルを生成しません。</p>
-E	<p>領域でデフォルトの相互排他/スピンロックゲート機構を上書きして、セマフォアを使用できるようにします。Sun MTP 8.1.0 より前のリリースでは、セマフォアゲート機構がデフォルトの動作でした。</p>
-f	<p>3 つのログファイル (unikixmain.log, unikixmain.err, unikixmain.dbg) の内容を、領域を起動した端末に書き出します。</p>
-G <i>filename</i>	<p>システムリソース定義ファイルのリソースを追加する必要があることを指定します。このオプションを使用して指定されたファイルの内容は、空白文字または改行で区切られたグループ名のリストです。このグループは、起動時に追加される必要のあるリソースを含むグループです。</p>

オプション	説明
-h <i>string</i>	<p>unikixsock が待機ソケットにバインドするアドレスを指定します。-p オプションを使用してポート番号を指定する必要があります。-h オプションを省略すると、ソケットは INADDR_ANY にバインドされます。ほとんどの場合、デフォルトが推奨されます。<i>string</i> の値は、次のとおりです。</p> <p><i>name</i>: ホストの名前を示します。</p> <p><i>IP address</i>: ホストの数値 IP アドレス。</p> <p><i>any</i>: ホストの任意の IP アドレス (INADDR_ANY)。デフォルト値です。</p> <p><i>loopback</i>: ローカルホストのみ (INADDR_LOOPBACK)。</p> <p><i>loopback</i> 引数 (アドレス) は、ソケットリスナーをローカルホストからのクライアント接続の受け入れだけに制限します。</p>
-i #	<p>統計情報確認の間隔を指定します。この数値が、統計情報の生成の間隔 (秒単位) を指定します。デフォルト値は 60 秒です。</p> <p>この統計情報は kixdump とともに使用されて、指定した間隔に発生する 1 秒単位のトランザクション数を計算したり、トランザクションクラスを使用して実行中の場合は最大のキューの深さを追跡したりします。</p>
-I #	<p>索引ブロックを保持する VSAM バッファの割合を指定します。これにより、VSAM バッファの管理方法を変更できます。値は 25 ~ 75 です。</p> <p>デフォルトでは、VSAM 索引ブロックにバッファの半分が予約されます。残りの半分は VSAM データブロックに使用されます。</p>
-l <i>directory</i>	<p>unikixtran などのカスタマイズされた実行可能ファイルの位置を指定します。このパラメータがない場合、unikixmain は、最初に \$UNIKIX/local/bin ディレクトリで実行可能ファイルを検索し、次に \$UNIKIX/bin ディレクトリを検索します。このオプションを指定した場合、unikixmain は、指定されたディレクトリを最初に検索し、次に \$UNIKIX/local/bin、\$UNIKIX/bin の順に検索します。</p> <p>引数は、環境変数ではなくフルパス名で指定します。このオプションを -t オプションとともに使用すると、-t オプションが -l オプションよりも優先されます。</p>
-L <i>descriptor#</i>	<p>Sun MTP サーバーが TCP/IP 接続に対してサポートできるソケット接続の数を指定します。この数は、1 つのプロセスで開くことのできるファイル記述子の最大数を表します。接続できる TCP クライアントの数を制限するために数を削減したり、クライアントが拒否される場合に数を増加させたりします。</p> <p>デフォルトは、ファイル記述子に対する現在のシステムの弱い制限値です。</p>

オプション	説明
-M <i>tvalue</i> -M <i>cvalue</i>	トランザクション処理プログラム (unikixtran プロセス) で使用可能なローカルプロセスメモリーまたはヒープ領域のサイズを制御します。これらのオプションの使用の詳細は、『Sun Mainframe Transaction Processing ソフトウェア 構成ガイド』を参照してください。
-n	COMP-3 変数としてではなく、COBOL COMP 変数として ABSTIME を操作するために変換された COBOL プログラムを、変更しないで実行できるようにします。ABSTIME は、ASKTIME コマンドおよび FORMATTIME コマンドのオプションです。詳細は、『Sun Mainframe Transaction Processing ソフトウェア 開発者ガイド』を参照してください。
-N <i>dumps</i>	作成されるダンプファイルの最大数を指定します。この数に達すると、Sun MTP はダンプを抑制します。デフォルトのダンプファイル数は 20 です。20 未満の値に設定しても、20 の値が強制されます。 unikixmain -Dy を使用してダンプを有効にしない限り、このオプションは無効です。kixcontrol -dy オプションを使用してアプリケーションダンプを有効にすることも可能です。
-O TDINTRA= [NOEMPTY EMPTY]	回復可能なパーティション内一時データキューを領域の起動時に破棄するかどうかを指定します。有効なオプションは、次のとおりです。 EMPTY: キューを破棄します。 NOEMPTY: キューを破棄しません。デフォルト値です。
-p <i>port</i>	ソケットクライアントの待機ポートとして使用する Sun MTP サーバーのポート番号またはポート名を示します。デフォルトのポートがないので、ポートを提供する必要があります。ポート番号またはポート名は一意的なものにする必要があります。
-P <i>port</i>	TCP/IP 接続を介して ECI および EPI アプリケーションを実行している CICS クライアントまたは TCP/IP 接続を介して ISC を実行している遠隔 CICS クライアントの待機ポートとして使用する、TCP サーバー (unikixtcp) のポート番号またはポート名を示します。このオプションを使用すると、unikixmain は unikixtcp サーバーを起動します。デフォルトのポート番号またはポート名がないので、次のように名前または番号のどちらかを提供する必要があります。 -P <i>cicstcp</i> -P 5100 ポート番号またはポート名は一意的なものにする必要があります。

オプション	説明
-qvalue	<p>メモリーに書き込まれる一時記憶領域キューのブロックサイズを指定します。この値は、デフォルトのブロックサイズ (512 バイト) を上書きします。このオプションで有効な値は、次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> -q1: 1K バイトのブロック -q2: 2K バイトのブロック -q4: 4K バイトのブロック -q8: 8K バイトのブロック -q16: 16K バイトのブロック -q32: 32K バイトのブロック <p>性能向上のために一時記憶領域キューを管理する方法については、『Sun Mainframe Transaction Processing ソフトウェア 障害追跡とチューニング』を参照してください。</p>
-Q	<p>領域がプロセス間通信に端末キューを使用する必要があることを示します。領域を起動したユーザー ID とは異なるユーザー ID からのローカルクライアントを使用している場合に必要です。特定の Sun MTP モジュールのアクセス権が正しく設定されていることを確認する必要もあります。それらのモジュールのアクセス権の設定については、『Sun Mainframe Transaction Processing ソフトウェア インストールガイド』を参照してください。</p>
-R size	<p>要求を回復サーバーに送信する前のパーセント値を指定します。このオプションは、回復処理アルゴリズムの動作に直接影響しません。Sun MTP は、現在ビジー状態のトランザクションサーバー数を確認し、未処理の要求数を判断することによって、複数の更新前イメージの書き込み要求をまとめて 1 つの要求として回復サーバーに送信しようと試みます。</p> <p>たとえば、デフォルトの割合が 50% で、5 つの要求および 10 のビジー状態のトランザクションが存在する場合、更新前イメージのバッファがフラッシュされます。更新前イメージのバッファがフラッシュされるまで、書き込み要求を保留状態のすべてのサーバーが待機します。</p> <p>ビジー状態のトランザクションサーバーが 4 つ以下の場合、この動作がオフになり、回復サーバーへの書き込み要求がただちに送信されます。</p>
-s port	<p>遠隔 3270 クライアントによって使用されるポート番号またはポート名を指定します (デフォルトは 2001)。unikixi を使用する場合、遠隔ユーザーは -s オプションを使用する必要があります。</p> <p>複数の領域を同時に実行する場合、各領域に一意のポート番号またはポート名が必要です。</p>

オプション	説明
-S <i>size</i>	<p>初期の動的共用メモリ領域のサイズを指定します。</p> <p>Solaris プラットフォーム: デフォルト値は 16M バイトです。</p> <p>AIX プラットフォーム: デフォルト値は 256M バイトです。</p> <p>サイズの数字だけを指定するか、数字のあとに M バイトを表す M または K バイトを表す K も指定します。このオプションを使用する場合、インストール時にシステムを適切な共用メモリー量に構成する必要があります。詳細は、『Sun Mainframe Transaction Processing ソフトウェア 構成ガイド』を参照してください。</p>
-t <i>filename</i>	<p>代替トランザクションサーバーを指定します。たとえば、 -t /mtp/finance/bin/fintran のようにします。代替トランザクションサーバーの作成方法については、『Sun Mainframe Transaction Processing ソフトウェア 管理者ガイド』を参照してください。</p> <p>-t オプションを -l オプションとともに使用すると、トランザクション処理プログラムの場合にのみ、-t オプションが -l オプションよりも優先されます。</p>
-T A M	<p>領域の一時記憶領域を制御します。同時に指定できない引数が 2 つあります。</p> <p>A: すべての一時記憶領域を補助記憶領域 (VSAM ファイル) に取るように強制します。これによってメインメモリーへの要求が軽減されますが、応答に時間がかかる可能性があります。</p> <p>M: すべての一時記憶領域を共用メモリーに取るよう強制します。これによって、一時記憶領域を大量に使用するユーザーの応答時間が改善されます。</p> <p>-T M オプションを指定すると、リソースの定義時にグローバル領域レベルおよびキューレベルで回復を有効にしている場合でも、すべての一時記憶領域キューは回復不可能になります。</p> <p>-T オプションを指定しない場合、A (補助) 引数で説明した動作が、領域のデフォルト動作になります。</p> <p>性能向上のために一時記憶領域キューを管理する方法については、『Sun Mainframe Transaction Processing ソフトウェア 障害追跡とチューニング』を参照してください。</p>
-x #	<p>割り当てられた共用メモリーの各ブロックの最後に追加されるパディングのバイト数を指定します。プログラムで割り当ての超過が認識されると、不完全なプログラムが修正されるまで、パディングによって次のブロックの破壊が防止されます。引数は整数です。デフォルト値は 0 です。</p>
-X <i>port</i>	<p>unikixadmin サーバプロセスを有効にします。これにより、Sun Mainframe Administration Tool (Sun MAT) で領域を監視できるようになります。ポート番号は一意のものにする必要があります。</p>
-Z	<p>使用期間中だけマップセットを共用メモリーに保持します。マップセットの使用後、メモリーは解放されます。</p>

unikixvsam – COBOL 実行時システム

注 – このユーティリティーは、標準のバッチ環境にだけ適用されます。

シェルスクリプト内で COBOL プログラムを実行するには、unikixvsam COBOL 実行時システムを使用してプログラムを実行する必要があります。unikixvsam コマンド行にパラメータを含めることによって、パラメータを COBOL プログラムに渡すことができます。unikixvsam のデバッグオプションについては、『Sun Mainframe Transaction Processing ソフトウェア 開発者ガイド』を参照してください。

形式:

```
unikixvsam [-d|-D] progname ["parameters"]  
[-X {ALL|VSTIME|WTIME|LIO|PIO}]
```

オプション	説明
-d	すべての VSAM 要求のログファイルを作成します。ログファイルは unikixmain.dbg という名前で、\$KIXSYS ディレクトリに配置されます。
-D	ソースデバッガのもとで COBOL プログラムを実行します。このオプションを動作させる場合、CEDF トランザクションでデバッガを選択し、CBCH トランザクションを使用してバッチプロセスを実行する必要があります。これらのトランザクションの詳細は、『Sun Mainframe Transaction Processing ソフトウェア 管理者ガイド』を参照してください。
<i>progname</i>	実行する COBOL プログラムを指定します。 Server Express: 拡張子には、.gnt または .int を指定します。拡張子を指定しない場合、unikixvsam は .gnt バージョンのプログラムを検索します。.gnt バージョンが見つからない場合、unikixvsam は .int バージョンを検索します。 ACUCOBOL-GT: 拡張子を指定する場合は、.acu にします。ただし、拡張子を指定しない場合でも、unikixvsam は .acu 拡張子のプログラムを検索します。 プログラム名は、フルパスまたは相対パスのどちらでもかまいません。相対パス名または部分パス名を指定すると、そのパスが \$KIXPROGS で指定されている各ディレクトリと組み合わせられてフルパス名となります。これにより、一致するプログラム名が各ディレクトリで検索されます。
" <i>parameters</i> "	COBOL プログラムに渡すパラメータを示します。パラメータの引き渡しについては、『Sun Mainframe Transaction Processing ソフトウェア 開発者ガイド』を参照してください。

オプション	説明
-X arguments	<p>バッチ統計情報を表示します。ALL 引数を使用してすべての統計情報を表示するか、その他の引数を組み合わせます。</p> <p>ALL: すべての統計情報を表示します。</p> <p>VSTIME: VSAM コードの実行時間を表示します。</p> <p>WTIME: 待機時間を表示します。</p> <p>LIO: 論理入出力統計情報を表示します。</p> <p>PIO: 物理入出力統計情報を表示します。</p> <p>バッチ統計情報の詳細は、『Sun Mainframe Transaction Processing ソフトウェア 開発者ガイド』を参照してください。</p>

使用上の注意

VSAM ファイルを回復可能として定義していて、unikixvsam バッチシェルスクリプトを使用するときに次の制限事項に準拠できない場合、データが破壊されてファイルを回復できなくなる場合があります。

- 同じジョブ内で VSAM ファイルにアクセスする複数のバックグラウンドプロセスは使用できません。たとえば、バックグラウンドでステップを起動するためにコマンド行でアンパサンド (&) を指定しないでください。
- unikixvsam プロセス ID に対して kill -9 または SIGKILL を実行しないでください。

実行するプログラムまたはシェルスクリプトは、\$KIXBTCH ディレクトリにコピーする必要があります。プログラム開始後にファイルは削除されるので、ファイルを \$KIXBTCH に移動しないでください。領域は、実行するプログラムを検索する際に、ディレクトリ内の実行可能な各ファイルの実行を試みます。そのため、実行を待機するすべての Sun MTP バッチプログラムおよびシェルスクリプトには \$KIXBTCH ディレクトリを使用してください。

xxxstart – 起動キーボードの指定

特定の端末およびキーボードの組み合わせによって、X サーバー環境上で領域を起動するためのスクリプトファイルが提供されています。このスクリプトファイルは \$SUNIKIX/bin ディレクトリにあり、次のアクションを実行します。

- 領域を起動します
- xterm ウィンドウで CMNU トランザクションを開始します (xxxunikix を使用)
- 別の xterm ウィンドウでクライアントを起動します (xxxunikix を使用)

形式:

```
xxxstart
```

xxx 端末およびキーボードの特定の組み合わせを表す接頭辞を示します。

```
ncd101: NCD X 端末の 101 key キーボード
ncd97: NCD X 端末の 97 key キーボード
ncdvt: VT100、200、または 320 type キーボード
ncd: NCD ワークステーションキーボード
sun: Sun ワークステーションキーボード
xterm: X 端末の 101 key キーボード
```

101 key キーボードで NCD X 端末から領域を起動するには、次のコマンドを入力します。

```
$ ncd101start
```

xxxunikix – クライアントキーボードの指定

ほとんどの X サーバーには、term または xterms の TERM 変数値があり、各デバイスでは異なるキーボードを使用できます。異なるキーボードを扱うには、適切な xxxunikix スクリプトを選択して領域を起動します。このスクリプトは、特定のキーボード定義リソースの xterm を起動します。クライアントキーボードの起動ファイルは、\$SUNIKIX/bin にあります (\$SUNIKIX/bin/xtermunikix、\$SUNIKIX/bin/ncd101unikix など)。xtermunikix ファイルは、101 key キーボードを定義します。

形式:

```
xxxunikix parameter1 [parameter2]
```

オプション	説明
xxx	端末およびキーボードの特定の組み合わせを表す接頭辞を示します。 ncd101: NCD X 端末の 101 key キーボード ncd97: NCD X 端末の 97 key キーボード ncdvt: VT100、200、または 320 type キーボード ncd: NCD ワークステーションキーボード sun: Sun ワークステーションキーボード xterm: X 端末の 101 key キーボード dtterm: デスクトップ端末ウィンドウ
parameter1	実行する Sun MTP クライアントプロセスを特定します (unikix など)。これは、ウィンドウのタイトルバーに表示される名前です。このパラメータにデフォルト値はありません。
parameter2	引数を xterm -geometry パラメータに渡して、画面上の X ウィンドウの座標を指定します (たとえば、+400+0)。このパラメータの形式の詳細は、xterm に関するマニュアルページを参照してください。このパラメータを省略すると、手動でのウィンドウ位置の調整が必要になる場合があります。

クライアントセッションを 101 key キーボードの X 端末で開始するには、次のコマンドを入力します。

```
$ xtermunikix unikix
```

関連項目

UNIX 端末については、『Sun Mainframe Transaction Processing ソフトウェア 構成ガイド』を参照してください。

第3章

Sun MTP テーブル

システムテーブルとも呼ばれる Sun MTP テーブルは、アプリケーションの実行に必要なプログラム、トランザクション、ファイル、グループ、遠隔システム、およびその他のリソースを定義します。Table Manager を使用してテーブルを操作します。

VCT 以外のすべてのシステムテーブルは、CICS に必要なテーブルのサブセットです。Sun MTP の操作に必要なフィールドだけが管理されます。

この章の内容は、次のとおりです。

- 107 ページの「Table Manager の起動」
- 108 ページの「Table Manager の規則」
- 110 ページの「テーブルのマージ方法」
- 112 ページの「テーブルのインポートおよびエクスポート」
- 113 ページの「テーブルエントリのグループ化」
- 114 ページの「テーブルの検索」
- 115 ページの「テーブルの変換」
- 115 ページの「標準テーブル」
- 155 ページの「拡張テーブル」

Table Manager の起動

▼ Table Manager を起動する

1. この領域を起動します。
2. クライアント接続を行います。

3. 空白のトランザクション画面で、次のどちらかのトランザクションを入力します。

- ローカルクライアントセッションでは、CMNU を入力して「Development System」メインメニューを表示し、PF6 キーを押します。
- クライアントからは、CTBL トランザクションを入力し、「Development System」メインメニューを省略して直接「Table Manager」メニューに進みます。

図 3-1 は「Table Manager」メニューを示しています。

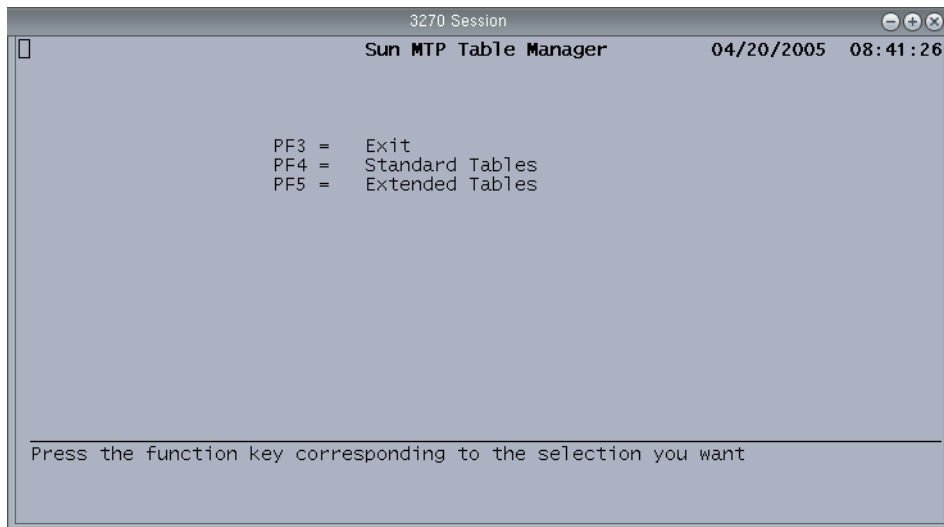


図 3-1 Table Manager メインメニュー

「Table Manager」メインメニューには、「Standard Tables」および「Extended Tables」の 2 つのサブメニューがあります。次のメニューレベルを表示するには、対応するファンクションキーを押します。

Table Manager の規則

Table Manager には、次の 3 つの画面タイプがあります。

- 標準メニューでは、次のメニューまたはデータエントリ画面にアクセスできます。「Table Manager」メインメニューは標準メニューです。
- 特別メニューでは、データの変更はできますが、入力できません。たとえば、テーブルの保存、インポート、エクスポートなどは可能です。宛先制御テーブル (DCT) は特別メニューです。

- データエン트리画面では、データを追加、変更、削除できます。データエン트리画面には、1 つ以上のエン트리およびサブエン트리画面があります。
「DCT-Intrapartition Destinations」画面はデータエン트리画面です。

次の表に示す PF キーは、すべてのテーブルで同じように動作します。

表 3-1 Table Manager のファンクションキー

ファンクション キー	アクション
PF2	\$KIXSYS ディレクトリにある拡張子 .tbl のファイルにテーブルを書き込みます。「Group」フィールドでグループ名を指定している場合、他のディレクトリのテーブルを更新します。 このテーブルは独自の形式で作成されます。ASCII 形式でテーブルを作成するには、PF12 キーの説明を参照してください。
PF3	前 (上のレベル) の画面に戻ります。最上レベルの画面を表示している場合、Table Manager が終了します。Table Manager を開発システムから起動した場合は、「Development System」メインメニューが表示されます。CTBL トランザクションを使用して Table Manager を起動した場合は、空白のトランザクション画面が表示されます。
PF4	1 つ以上のエントリを作成できる空白のデータエントリ (挿入) 画面を表示します。Enter キーを押すと、テーブルの現在のカーソルの位置の前にエントリが追加されます。PF4 キーは、挿入画面で複数のエントリが可能な場合にだけ使用できます。
PF5	カーソルの位置のエントリを削除します。削除を確認するには、Enter キーを押します。PF5 キーは、画面で複数のエントリが可能な場合にだけ使用できます。
PF7	前のページのエントリを表示します。最初のページのデータが表示されるまで、このキーを必要な回数押してください。PF7 キーは、データエントリ画面で複数のエントリが可能な場合にだけ使用できます。前のページがない場合、次のメッセージが応答領域に表示されます。 Beginning of data reached
PF8	次のページのエントリを表示します。最後のページのデータが表示されるまで、このキーを必要な回数押してください。PF8 キーは、データエントリ画面で複数のエントリが可能な場合にだけ使用できます。次のページがない場合、次のメッセージが応答領域に表示されます。 End of data reached
PF9 および PF10	これらのキーは画面に特化したキーです。次に例を示します。 <ul style="list-style-type: none"> • サインオンテーブルで PF9 キーを押すと、「Security/Accounting」画面が表示されます。 • 処理プログラムテーブルで PF9 キーを押すと、「Java Class Details」画面が表示されます。 • ファイル制御テーブルで PF10 キーを押すと、「Lookup」画面が表示されます。

表 3-1 Table Manager のファンクションキー (続き)

ファンクションキー	アクション
PF11	<p>拡張子 .lst のファイルを \$KIXSYS ディレクトリからインポートします。</p> <p>ファイルには、コンマで区切られたフィールドを持つ 1 つ以上の行が含まれている必要があります。各行がテーブルの 1 つのエントリを表します。行のフィールドは、テーブルのフィールドを表示順序どおりに示します。DCT など複数のエントリタイプのテーブルの場合、各行の冒頭にはエントリタイプが示されます。有効なエントリタイプについては、それぞれのテーブルを参照してください。</p>
PF12	<p>\$KIXSYS ディレクトリにある拡張子 .lst のファイルにテーブルをエクスポートします。</p> <p>ファイルの各行は、テーブルのエントリに対応します。各行のフィールドはコンマによって区切られ、テーブルに表示されるのと同じ順序にエントリが示されます。DCT など複数のエントリタイプのテーブルの場合、各行の冒頭にエントリタイプが示されます。エントリタイプについては、それぞれのテーブルを参照してください。</p>
Enter	<p>実行中の機能を完了します。たとえば、テーブルに新しいエントリを追加するときに、Enter キーを押すとそのエントリがメモリーに追加されます。これでそのテーブルの更新がディスクに書き込まれます。PF2 を参照してください。</p>

テーブルのマージ方法

Sun MTP ソフトウェアは、事前定義のテーブルとともに提供されています。unikix グループエントリを含むテーブルは、\$UNIKIX/lib/unikix.tbl ディレクトリにインストールされ、rdo グループエントリを含むテーブルは、\$UNIKIX/lib/rdo.tbl ディレクトリにインストールされます。ユーザーが定義したテーブルは、\$KIXSYS またはグループ制御テーブル (GCT) で指定したディレクトリに書き込まれます。

領域を最初に開始したときに、\$UNIKIX/lib/unikix.tbl ディレクトリのテーブルが \$KIXSYS/unikix.dir にコピーされ、\$UNIKIX/lib/rdo.tbl ディレクトリのテーブルが \$KIXSYS/rdo.dir にコピーされます。

注 - \$KIXSYS/unikix.dir または \$KIXSYS/rdo.dir を削除した場合、次の起動時に、\$UNIKIX/lib/unikix.tbl および \$UNIKIX/lib/rdo.tbl のテーブルが \$KIXSYS/unikix.dir および \$KIXSYS/rdo.dir にコピーされます。

領域を開始するたびに、事前定義のテーブル、\$KIXSYS のテーブル、および GCT で指定したディレクトリにあるテーブルがマージされます。テーブルを開くと、その結合されたエントリが表示されます。テーブルは、次の順序で開かれます。

1. SIT、VCT、GCT、MCT などの \$KIXSYS のすべてのテーブル。
2. \$KIXSYS/unikix.dir の内部テーブル。
3. GCT に表示される順序のその他のディレクトリのテーブル。通常、テーブルエントリがグループ間で重複している場合、見つかった最初のエントリが有効になります。代替リソース定義を使用する場合、重複したエントリは別々に処理されます。代替リソース定義については、『Sun Mainframe Transaction Processing ソフトウェア 構成ガイド』を参照してください。

図 3-2 に、代替リソース定義が有効でない場合のテーブルをマージするプロセスを示します。この図では、/finance ディレクトリは領域の GCT のグループとして定義されています。

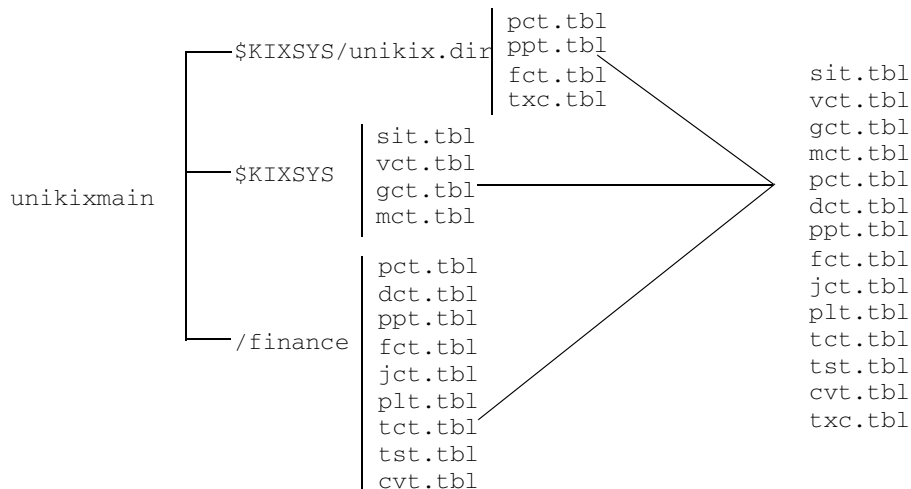


図 3-2 テーブルのマージプロセス

アプリケーションに対するテーブルのグループ化については、113 ページの「テーブルエントリのグループ化」を参照してください。

テーブルのインポートおよびエクスポート

拡張子 `.tbl` のシステムテーブルには、独自形式を用います。この形式のテーブルは、Table Manager でのみ表示できます。テーブルデータをエクスポートおよびインポートできるので、大量のエントリを簡単に編集できます。Sun MTP がテーブルからデータをエクスポートすると、`$KIXSYS/tablename.lst` (たとえば、`$KIXSYS/sit.lst`) という名前のファイルが作成されます。`.lst` ファイルは ASCII ファイル形式なので、テキストエディタで読み取りおよび変更できます。テーブルに 2 つ以上のエントリが含まれる場合、各エントリは 1 行ずつ表示されます。

注 - テーブルファイルの形式については、ご購入先にお問い合わせください。

インポートまたはエクスポート機能のどちらの場合も、実行前のプロンプトまたは警告を発行しません。`.lst` ファイルをインポートするとき、エラーが発生しなければ、Table Manager はメモリーにある既存のテーブル (`.tbl` ファイル) を上書きしません。テーブルをディスクに書き込まない限り、ディスクの既存のテーブルは変更されません。Table Manager を終了してから再び開くとそのテーブルを再表示できます。テーブルをエクスポートすると、ディスク上の既存の `.lst` ファイルを上書きします。図 3-3 に、インポートおよびエクスポート機能の動作を示します。

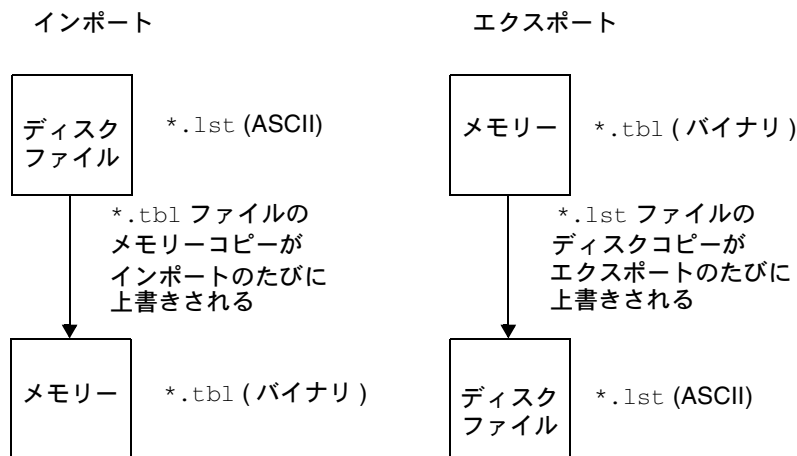


図 3-3 テーブルのインポートおよびエクスポート

テーブルデータがインポートされると、手動で入力した場合と同様にデータが検査されます。エラーが発生した場合、テーブルはインポートされず、無効なフィールドを含むエントリをリストするエラー画面が表示されます。

領域のテーブルをインポートおよびエクスポートする `kiximptbl` ユーティリティおよび `kixexptbl` ユーティリティの詳細は、第 2 章を参照してください。

テーブルエントリのグループ化

1 つの領域を複数のアプリケーションで使用できるので、あるアプリケーションに属するテーブルエントリを特定することが困難な場合があります。この状況に対応する 1 つの方法として、各アプリケーションに個別の領域を作成します。別の方法としては、GCT を使用してグループを作成します。グループとは、リソースの論理的編成です。

GCT で、グループ名を作成し、そのグループのリソース定義を格納するファイルシステムのディレクトリを指定します。ほとんどのテーブルには「Group」フィールドがあるので、リソースが属するグループの名前をそこに指定します。システム初期化テーブル (SIT) などの単一エントリのテーブルには、「Group」フィールドはありません。詳細は、166 ページの「グループ制御テーブル (GCT)」を参照してください。

グループを作成したら、アプリケーションのリソース (プログラム、マップセットなど) を特定のグループに割り当てることができます。リソースが定義されているテーブルは、グループディレクトリに保存されます。たとえば、GCT で `finance` グループを作成し、`/users/finance/sys` ディレクトリを指定したとします。次に、アプリケーションのリソースを定義して、ファイル、プログラム、トランザクション、および端末を `finance` グループに割り当てます。これにより、グループディレクトリに含まれるのは、`fct.tbl`、`ppt.tbl`、`pct.tbl`、および `tct.tbl` ファイルです。

アプリケーションのリソースをグループに割り当てない場合、リソース定義を含むテーブルは `$KIXSYS` ディレクトリに格納されます。

`kixupdateGCT` は、GCT エントリを挿入、変更、および削除するコマンド行ユーティリティです。詳細は、78 ページの「`kixupdateGCT` - GCT の更新」を参照してください。

テーブルの検索

ファイル制御テーブル (FCT)、プログラム制御テーブル (PCT)、処理プログラムテーブル (PPT)、およびサインオンテーブル (SNT) の 4 つのテーブルには、検索機能があります。各テーブルのメイン画面で PF10 キーを押すと、検索条件を指定する

「Lookup」画面が表示されます。各「Lookup」画面には、主キー、二次キー、および完全一致オプションの 3 つのフィールドがあります。すべてのテーブルの主検索キーは、「Group name」フィールドです。二次キーは次のとおりです。

- FCT - データセット名
- PCT - トランザクション ID
- PPT - プログラム名
- SNT - ユーザー ID

完全一致オプションは、完全一致検索を実行するか、部分的な一致 (部分一致検索) を実行するかどうかを指定します。次の表は、PPT に対する有効な検索条件の例です。

表 3-2 テーブルの検索基準の例

グループ	プログラム名	完全一致	検索...
	ACCT01	Y	ACCT01 プログラム。グループ指定なし
	ACC	N	ACC で始まるすべてのプログラム。グループ指定なし
financ	FMS	Y	financ グループの FMS プログラム
financ	C	N	financ グループの C で始まるすべてのプログラム
financ		N	financ グループのすべてのプログラム
fi		N	fi で始まるすべてのグループのすべてのプログラム

検索条件を指定して Enter キーを押すと、テーブルで 2 等分探索が実行されます。部分一致を指定すると、2 等分探索によって、条件を満たすテーブルの最初のエントリを見つけます。テーブル検索で一致するエントリがない場合、次のメッセージが表示されます。

```
KIX1470E No such record
```

テーブルの変換

旧リリースの Sun MTP で作成されたテーブルを kixcnvtbl81 ユーティリティーで現在のリリースで使用できる形式に変換します。このユーティリティーは、指定したディレクトリのすべてのテーブルを変換します。GCT で定義されたディレクトリのテーブルを含むすべてのテーブルを使用するために、すべてのテーブルを変換する必要があります。GCT を含むディレクトリを指定すると、kixcnvtbl81 は GCT で定義されたディレクトリのすべてのテーブルを変換します。ユーティリティーの使用方法については、30 ページの「kixcnvtbl81 - テーブルの変換」を参照してください。

標準テーブル

「Standard Tables」メニューには、次のオプションがあります。テーブルを表示または変更するには、対応するファンクションキーを押します。

ファンクションキー	アクション
PF1	システム初期化テーブルを表示します。
PF3	「Table Manager」メインメニューに戻ります。
PF4	宛先制御テーブルを表示します。
PF5	ファイル制御テーブルを表示します。
PF6	プログラム制御テーブルを表示します。
PF7	処理プログラムテーブルを表示します。
PF8	端末制御テーブルを表示します。
PF10	VSAM 構成テーブルを表示します。

▼ Standard Tables メニューを表示する

- 「Table Manager」メインメニューで PF4 キーを押します。

システム初期化テーブル (SIT)

システム初期化テーブル (SIT) には、領域がシステムの初期設定に使用するデータが含まれます。「Standard Tables」メニューで PF1 キーを押すと、SIT が表示されます。

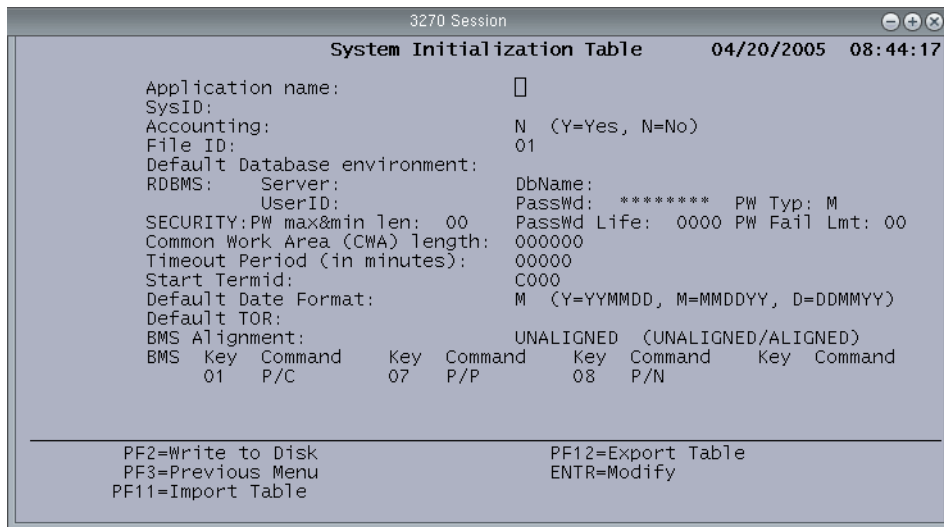


図 3-4 システム初期化テーブル

SIT には、次のフィールドが含まれます。

フィールド	説明
Application Name	アプリケーション名 (最大 8 文字) を指定します。これは、ASSIGN コマンドの APPLID オプション、および INQUIRE SYSTEM コマンドの APPLID オプションまたは JOBNAME オプションによって返される値です。 これは、監視されている領域を表示するために Administration Tool が使用する名前でもあります。 このフィールドの値は、トランザクション経路指定に必要です。詳細は、『Sun Mainframe Transaction Processing ソフトウェア 管理者ガイド』を参照してください。

フィールド	説明
SysID	システム識別子を指定します。オプションの 4 文字フィールドで、ASSIGN コマンドの SYSID オプションによって返される値です。
Accounting	グローバルアカウントिंगが有効かどうかを示します。必須フィールドです。デフォルトは N です。 N: この他の設定に関係なく、アカウントングレコードは作成されません。 Y: アカウントINGが有効で、ユーザー ID およびトランザクション ID に基づいた指定が有効になります。次の「File ID」も指定する必要があります。167 ページの「モニター制御テーブル (MCT)」も参照してください。
File ID	ジャーナルファイルを指定します (2 桁の数値)。JCT で File ID が指定されていない場合、ジャーナルファイル名は JRNL と File ID 値を連結して作成されます (たとえば、JRNL05)。
Default Database Environment	VSAM カタログ (CATALOG.idx ファイルおよび CATALOG.dta ファイル) があるディレクトリを指定する環境変数。詳細は、『Sun Mainframe Transaction Processing ソフトウェア 管理者ガイド』を参照してください。
RDBMS:	次の 4 つのフィールドが、RDBMS のユーザー出口プログラムで返されます。ユーザー出口プログラムは、関連データベースに接続するための初期化時に呼び出されます。 Server: RDBMS ユーザー出口プログラムに接続するためのサーバーを特定します。 DbName: RDBMS ユーザー出口プログラムに接続するためのリレーショナルデータベースの名前。 UserID: RDBMS ユーザー出口プログラムに接続するためのリレーショナルデータベースのユーザー名。 PassWd: RDBMS ユーザー出口プログラムに接続するためのリレーショナルデータベースのパスワード。SIT をディスクに保存すると、このフィールドは暗号化されます。
PW Typ	EXEC CICS CHANGE PASSWORD コマンド、または CESN および CSSN トランザクションを使用して現在のパスワードを変更する場合の、有効なパスワードのタイプを指定します。次の値のうち 1 つを入力してください。 N: 新しいパスワードは数値 (0 ~ 9) です A: 新しいパスワードはアルファベット (A ~ Z, a ~ z) です M: 新しいパスワードは、数字、文字、またその他の文字を組み合わせられます(デフォルト) 外部セキュリティマネージャー (ESM) が有効の場合、このフィールドは無視されます。

フィールド	説明
PW max&min len	<p>パスワード長の最大値と最小値を指定します。この 2 桁のフィールドの形式は MN です。M はパスワードの最長文字数を表わす 1 桁の数値 (1 ~ 8)、N は最短文字数を表わす 1 桁の数値 (1 ~ 8) です。</p> <p>0 に設定すると、パスワード長の確認は行われません。EXEC CICS CHANGE PASSWORD コマンド、または CESN および CSSN トランザクションを使用してパスワードを変更する場合、1 ~ 8 文字の任意の長さのパスワードが受け入れられます。</p> <p>ESM が有効の場合、このフィールドは無視されます。</p>
PassWd Life	<p>新しく変更したパスワードの有効日数を指定します。この 4 桁フィールドは、領域のすべてのユーザー ID に適用されます。有効なエントリは 0000 ~ 9999 です。</p> <p>0 に設定すると、パスワードの有効期限の確認は行われません。</p> <p>ESM が有効の場合、このフィールドは無視されます。</p>
PW Fail Lmt	<p>パスワード認証エラーの連続回数を指定する 2 桁のフィールド。この回数を超えると、システムは自動的にユーザーのパスワードを一時的に使用停止にします。有効なエントリは 00 ~ 99 です。</p> <p>0 に設定すると、パスワード認証エラーの回数の確認は行われません。これはデフォルトです。ユーザーごとのエラー回数は共用メモリーにのみ保持されるので、領域が再起動されると維持されません。</p> <p>ユーザーが有効なパスワードにアクセスしたら、そのユーザー ID に対してパスワード認証エラー回数が 0 にリセットされます。</p> <p>ESM が有効の場合、このフィールドは無視されます。</p>
Common Work Area (CWA) length	<p>システム初期化時に CWA に割り当てられる記憶領域の容量。0 ~ 32,767 の 10 進整数です。</p>
Timeout Period (in minutes)	<p>有効でない端末のタイムアウト期間。端末の接続方法にかかわらず、領域は、この期間 (2 分単位) に有効でない端末を自動的にログオフします。デフォルトは 0 で、有効でない端末を切り離しません。</p>
Start Termid	<p>領域の起動端末識別子。形式は 1 文字と 3 桁の数字 (たとえば、C000) です。領域は、この識別子を使用してメインフレーム端末識別子と区別します。</p> <p>ユーザーがクライアントを起動したときに、端末識別子がユーザーセッションに割り当てられます。実際の端末識別子は、クライアントが接続された順序に基づいて割り当てられます。</p>
Default Date Format	<p>FORMATTIME コマンドの DATE および DATEFORM オプションによって返される日付の形式。</p> <p>Y: 年/月/日 形式: YYMMDD または YYYYMMDD M: 月/日/年 形式: MMDDYY または MMDDYYYY D: 日/月/年 形式: DDMMYY または DDMMYYYY</p>

フィールド	説明						
Default TOR	ローカルシステムの端末所有領域 (TOR)。このフィールドは、「端末が見つからない」ユーザー出口に適用されます。詳細は、『Sun Mainframe Transaction Processing ソフトウェア 管理者ガイド』を参照してください。						
BMS Alignment	<p>マップの位置合わせ (ハーフワード位置合わせまたは位置合わせなし)。ハーフワード位置合わせは、BMS マップのアクセスを高速化するために旧型 IBM メインフレームで使用されていた方法に関係しません。BMS マップの長さフィールドは、ハーフワード境界で終了するように、必要に応じてフィラー文字で埋められていました。</p> <p>このフィールドを設定した場合、領域が使用するすべてのマップを同じオプションでアSEMBルする必要があります。SIT をエクスポートすると、このフィールドは、位置合わせなしの U または 位置合わせありの A としてエクスポートされます。</p> <p>UNALIGNED</p> <p>記号マップおよび物理マップは、ハーフワード位置合わせされません。これはデフォルト値です。Sun MTP を使用して BMS コピーメンバーを再コンパイルする場合は、このオプションを指定する必要があります。</p> <p>ALIGNED</p> <p>記号マップおよび物理マップは、ハーフワード境界で配置されます。BMS コピーメンバーが元の IBM ハーフワード位置合わせコピーメンバーである場合、BMS マップが正しく表示されるようにこのオプションを指定する必要があります。</p>						
BMS (paging keys)	<p>最大 8 つのキーを定義して、BMS ページングに使用する CSPG トランザクションを制御します。各キーは BMS ページコマンドに対応します。BMS コマンドを呼び出すには、CSPG トランザクションの実行中に定義されたキーを押します。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>ファンクションキー</th> <th>有効なキー値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>PF-PF24</td> <td>01-24</td> </tr> <tr> <td>PA1-PA3</td> <td>P1-P3</td> </tr> </tbody> </table>	ファンクションキー	有効なキー値	PF-PF24	01-24	PA1-PA3	P1-P3
ファンクションキー	有効なキー値						
PF-PF24	01-24						
PA1-PA3	P1-P3						

サポートされている BMS ページングコマンドは、次の表のとおりです。

表 3-3 サポートされている BMS ページングコマンド

BMS コマンド	アクション
P/9	9 ページへ進みます。
P/+9	現在のページに 9 を足します。
P/-9	現在のページから 9 を引きます。
P/P	前のページに戻ります。
P/N	次のページに進みます。

表 3-3 サポートされている BMS ページングコマンド (続き)

BMS コマンド	アクション
P/L	最後のページに進みます。
P/C	現在のページに進みます。

表 3-4 に、SIT のデフォルト値を示します。

表 3-4 SIT のデフォルトのページングコマンド値

デフォルトキー	BMS コマンド
01	P/C - 現在のページに進みます。
07	P/P - 前のページに戻ります。
08	P/N - 次のページに進みます。
11	P/1 - 1 ページに進みます。
12	P/L - 最後のページに進みます。

宛先制御テーブル (DCT)

領域は、宛先と呼ばれるキューの形式でデータを一時的に保存できます。宛先制御テーブル (DCT) には、キューに関連付けられた特性および一時データコマンドによって処理される宛先名またはキューのリストが含まれます。

DCT のエントリには、次の 3 つのタイプがあります。

- パーティション内の宛先
- パーティション外の宛先
- 遠隔宛先

図 3-5 に示す DCT のメニューを表示するには、「Standard Tables」メニューで PF4 キーを押します。

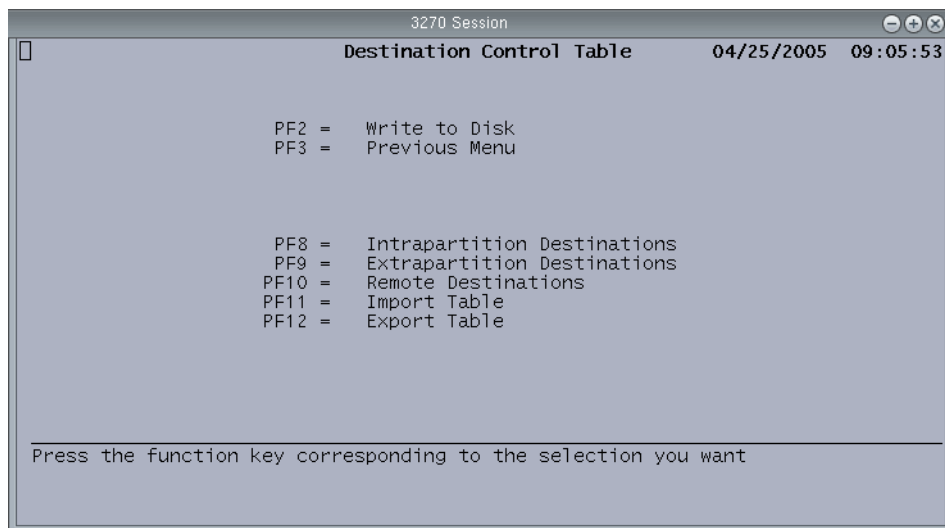


図 3-5 宛先制御テーブル

変更するテーブルタイプにアクセスするには、対応するファンクションキーを押します。

Intrapartition Destinations 画面

図 3-6 の「Intrapartition Destinations」画面には、パーティション内の宛先である DCT のエントリが表示されます。この画面を表示するには、DCT メニューで PF8 キーを押します。

すべてのパーティション内の一時データ (TD) 宛先は、同じデータセットのキューとして、したがって同じ領域のキューとして保持されます。データは、ユーザータスクによってキューに書き込まれます。そのあと、領域で実行されるその他のタスクがそのデータにアクセスできます。すべて順次アクセスで、読み取りおよび書き込みポイントによって制御されます。読み込まれたレコードは、引き続いて別のタスクで読み込めません。パーティション内の宛先には、パーティション内データセットのキューを検出する情報を含むリソース定義が必要です。パーティション内キューを使用する可能性があるアプリケーションには、メッセージ交換、データ収集、および順序のキューイングの機能が必要です。

3270 Session							
Destination Control Table						04/25/2005	09:11:14
Intrapartition Destinations							
DestID	Filename	Environment	Group	Trigger	Tran	DestType	Term Recov
QZER	TDQ.QZER	KIXSYS				FILE	N
TSTQ	TDQ.TSTQ	KIXSYS				FILE	N

PF3=Previous Menu	PF7=Previous Page
PF4=Insert Entry	PF8=Next Page
PF5=Delete Entry	ENTR=Modify

図 3-6 Intrapartition Destinations 画面

パーティション内の宛先ごとに、次の情報が管理されます。

フィールド	説明
DestID	一時データキューを指定します (任意の 4 文字)。
Filename	データの書き込み先、またはデータの読み込み元のファイルを指定します (必須)。
Environment	Filename があるディレクトリ名を含む環境変数。
Group	GCT の「Group Name」フィールドで指定したグループを指定します。グループ名が指定されている場合、このフィールドにその値が入ります。詳細は、166 ページの「グループ制御テーブル (GCT)」を参照してください。 このグループの読み取り専用インジケータ (「R/O」フィールド) が No に設定されている場合、DCT 画面で PF2 キーを押すと、GCT の「Directory」フィールドで指定したディレクトリの dct.tbl にこのエントリが書き込まれます。このフィールドが空白の場合、エントリは読み取られるか、あるいは \$KIXSYS ディレクトリの dct.tbl ファイルに書き込まれます。
Trigger	レコードを処理するトランザクションの実行を自動的にトリガーするために必要なデータセットのレコード数 (0 ~ 99999 の 10 進数)。
Tran	トリガーレベルに達したときに開始されるトランザクション。この 4 文字フィールド (大文字および小文字が使用可能) は、PCT の Trans ID のエントリと一致する必要があります。詳細は、134 ページの「プログラム制御テーブル (PCT)」を参照してください。

フィールド	説明
DestType	宛先 (TERMINAL または FILE)。 システムの初期化時に、FILE の「DestType」を使用したエントリが KSDS VSAM ファイルに割り当てられます。このファイルには、読み取られるデータまたは書き込まれるデータが含まれます。ファイルは可変長で、ファイルに書き込むことができるレコードの最大長は 32,763 バイトです。
Term	TCT に定義された端末識別子。トランザクションがトリガーされると、この端末 ID に対して実行されます。このフィールドは、「DestType」が TERMINAL の場合にのみ有効です。
Recov	一時データキューが回復可能かどうかを指定します。Y の場合、キューは回復可能です。パーティション内キューの回復は、標準の KSDS 回復時に実行されます。

▼ パーティション内の宛先を追加する

1. 「Intrapartition Destinations」画面で PF4 キーを押して、挿入画面を表示します。
2. エントリの作成を終了したら、Enter キーを押します。
3. テーブルをディスクに保存します。

パーティション外の宛先画面

DCT 画面で PF9 キーを押して、「Extrapartition Destinations」画面を表示します。各パーティション外の宛先には、その宛先を領域外部の順編成ファイルにリンクするリソース定義が必要です。パーティション外の宛先は、領域外部のソースから着信するデータのため、あるいは領域内部のソースから領域外部の宛先に発信するデータのために使用されます。領域によって書き込まれるパーティション外データは、通常、外部バッチプログラムに対する後続入力を目的とします。パーティション外の宛先に書き込まれる可能性があるデータには、ログレコード、統計情報、およびトランザクションエラーメッセージが必要です。

システムの初期化時に、パーティション外の宛先として定義されたすべてのエントリは、書き込まれるデータを含む順編成ファイルに割り当てられます。ファイルは、エントリで指定したレコード形式と長さで開かれます。

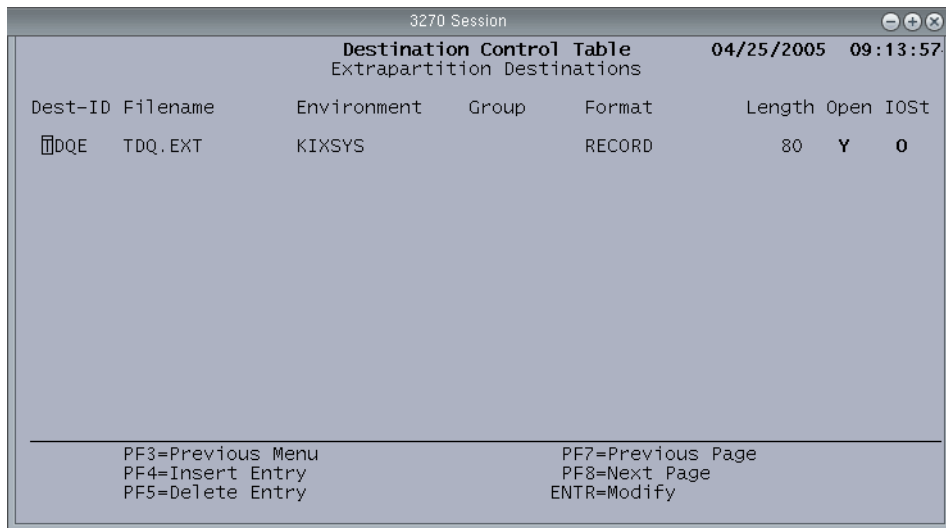


図 3-7 パーティション外の宛先画面

パーティション外の宛先ごとに、次の情報が管理されます。

フィールド	説明
Dest-ID	一時データキューを指定します (任意の 4 文字)。
Filename	データの書き込み先、またはデータの読み込み元のファイルを指定します。JOB 形式または PRINT 形式では無効です。
Environment	「Filename」があるディレクトリを含む環境変数。JOB 形式または PRINT 形式では無効です。
Group	グループ名が GCT の「Group Name」フィールドで指定されている場合、このフィールドにその値が入ります。詳細は、166 ページの「グループ制御テーブル (GCT)」を参照してください。 このグループの読み取り専用インジケータ (「R/O」フィールド) が No に設定されている場合、DCT 画面で PF2 キーを押すと、GCT の「Directory」フィールドで指定したディレクトリの dct.tbl にこのエントリが書き込まれます。このフィールドが空白の場合、エントリは読み取られるか、あるいは \$KIXSYS ディレクトリの dct.tbl ファイルに書き込まれます。

フィールド	説明
Format	<p>ファイルのレコード形式 (JOB、LINE、PRINT、RECORD、または RECORDV)。</p> <p>形式フィールドによって、キューに書き込むことができるデータのタイプが決まります。RECORD 形式は、文字または 2 進データの固定長レコードをサポートします。制御情報は、RECORD 形式のファイルには含まれません。</p> <p>RECORDV 形式も、文字または 2 進データの固定長レコードをサポートします。ただし、各レコードのサイズは、各レコードの前のフルワード 2 進フィールドに指定されます。形式を JOB として定義した場合、「Filename」フィールドおよび「Environment」フィールドに値を入力する必要はありません。</p> <p>LINE、PRINT、および JOB は、すべて行の順編成ファイルです。これにより、これらのファイルは文字データに制限されます。PRINT 形式および JOB 形式は、kixprint シェルスクリプトおよび kixjob シェルスクリプトにも関連付けられています。これらのシェルスクリプトは、同期点で自動的に呼び出されます。ファイルは、出力またはジョブキューに転送されたあと、削除および再初期化されます。kixjob シェルスクリプトおよび kixprint シェルスクリプトの詳細は、第 2 章を参照してください。</p>
Length	レコード長 (0 ~ 9,999)。可変長レコードの場合はレコードの最大長です。
Open	<p>開いているか閉じているかを示します。</p> <p>Y: 起動時に開いている (デフォルト)</p> <p>N: 起動時に閉じている</p>
IOSt	<p>入出力の状態です。</p> <p>I: 入力用に開く (読み取り専用)</p> <p>O: 出力用に開く (書き込み専用)</p>

注 - 7.x 以前のリリースのソフトウェアで定義された DCT テーブルの場合、「Open」フィールドは Y (開いている)、「IOSt」フィールドは O (書き込み専用) に設定されます。これは、以前のリリースでだけ使用できる状態です。

▼ パーティション外の宛先を追加する

1. 「Extrapartition Destinations」画面で PF4 キーを押して、挿入画面を表示します。
2. エントリの追加を終了したら、Enter キーを押します。
3. テーブルをディスクに保存します。

遠隔宛先画面

DCT 画面で PF10 キーを押して、「Remote Destinations」画面を表示します。遠隔宛先は、別のシステムの Sun MTP 領域が所有している宛先です。

Destination Control Table		04/25/2005 09:15:12		
Remote Destinations				
Dest-ID	SysID	Length	RmtName	Group
TDQZ	RB01	128	TDQZ	

PF3=Previous Menu
PF4=Insert Entry
PF5=Delete Entry
PF7=Previous Page
PF8=Next Page
ENTR=Modify

図 3-8 Remote Destinations 画面

遠隔宛先ごとに、次の情報が管理されます。

フィールド	説明
Dest-ID	一時データキューを指定します (任意の 4 文字)。
SysID	端末制御テーブル - システムエントリテーブルのエントリでもあるシステム識別子を指定する 4 文字のフィールド。このフィールドにエントリがある場合、宛先は遠隔とみなされます。詳細は、149 ページの「端末制御テーブル - システムエントリ」を参照してください。 遠隔宛先にアクセスできるのは、遠隔システムが動作している場合だけです。
Length	レコード長 (0 ~ 32,767)。可変長レコードの場合はレコードの最大長です。
RmtName	遠隔システムで宛先を認識するための名前を指定します (最大 4 文字)。このフィールドは、ローカルおよび遠隔名が異なる場合に使用されます。デフォルトでは、ローカル名および遠隔名は同じです。Sun MTP は、要求を遠隔システムへ送信する前に、遠隔名を置き換えます。

フィールド	説明
Group	<p>グループ名が GCT の「Group Name」フィールドで指定されている場合、このフィールドにその値が入ります。詳細は、166 ページの「グループ制御テーブル (GCT)」を参照してください。</p> <p>このグループの読み取り専用インジケータ (「R/O」フィールド) が No に設定されている場合、DCT 画面で PF2 キーを押すと、GCT の「Directory」フィールドで指定したディレクトリの <code>dct.tbl</code> にこのエントリが書き込まれます。このフィールドが空白の場合、エントリは読み取られるか、あるいは <code>\$KIXSYS</code> ディレクトリの <code>dct.tbl</code> ファイルに書き込まれます。</p>

▼ 遠隔宛先を追加する

1. 「Remote Destinations」画面で PF4 キーを押して、挿入画面を表示します。
2. エントリの追加を終了したら、Enter キーを押します。
3. テーブルをディスクに保存します。

ファイル制御テーブル (FCT)

ファイル制御テーブル (FCT) には、アプリケーションの VSAM ファイルに関する情報が含まれます。各ファイルに関連付けられているのは、アプリケーションプログラムによって発行されたコマンドを領域が検査および実行するために使用する属性です。FCT のエントリごとに、VSAM カタログのエントリに対応する必要があります。VSAM カタログについては、『Sun Mainframe Transaction Processing ソフトウェア 管理者ガイド』を参照してください。

FCT には、2 つの情報画面があります。図 3-9 に示す最初の画面には、一般情報が含まれます。2 番目の画面は、遠隔ファイルに関する情報が含まれます。一般情報画面を表示するには、「Standard Tables」メニューで PF5 キーを押します。

3270 Session										
File Control Table							03/15/2005		11:44:15	
Dataset	Filename	Environment	Access Method	File Type	No Rcv	Rcd Fmt	Group	Dup Alwd	Read Only	Dfr Opn
ACCTFIL	ACCTFILE	KIXSYS	VSAM	KSDS	N	F		Y	N	N
ACCTIX	ACIXFILE	KIXSYS	VSAM	KSDS	N	F		Y	N	N
ALT1	ALT1	KIXSYS	VSAM	KSDS	N	F		Y	N	N
ALT2	ALT2	KIXSYS	VSAM	KSDS	N	F		Y	N	N
ALT3	ALT3	KIXSYS	VSAM	KSDS	N	F		Y	N	N
DFHUSD	DFHUSD	KIXSYS	VSAM	KSDS	N	V	rdo	Y	N	N
TEMPSTG	TEMPSTG	KIXSYS	VSAM	KSDS	C	V	unikix	Y	N	N
TEMPSTGR	TEMPSTGR	KIXSYS	VSAM	KSDS	N	V	unikix	Y	N	N

PF2=Write to Disk	PF5=Delete Entry	PF9=Remote File	PF12=Export Table
PF3=Previous Menu	PF7=Previous Page	PF10=Search	ENTR=Modify
PF4=Insert Entry	PF8=Next Page	PF11=Import Table	

図 3-9 ファイル制御テーブル

FCT の一般情報画面には、次のフィールドがあります。

フィールド	説明
Dataset	<p>プログラムがファイルを参照するためのデータセット名。2つ以上の論理データセットを単一の物理 VSAM ファイル (その環境で修飾されたファイル名) に関連付けることができます。このデータセット名は「別名」と呼ばれます。</p> <p>この名前は、VSAM カタログの「Filename」フィールドの名前と一致する必要があります。</p>

フィールド	説明
Filename	<p>データセットまたは代替索引と関連付けられた物理ファイル名 (最大 10 文字)。その環境で修飾された 1 つのファイル名を最大 8 個の論理データセット名に関連付けることができます。</p> <p>キーシーケンスデータセット (KSDS): ファイル名は、データ部分用 (.dta) および索引部分用 (.idx) の 2 つの物理ファイル名を表します。</p> <p>入力順データセット (ESDS) および相対レコードデータセット (RRDS): 物理ファイル名。</p> <p>代替索引ファイル: ファイル名は、KSDS ファイルと同様に構成された 2 つの物理ファイル名を表します。</p> <p>2 つ以上のデータセットを同じファイル名に関連付ける場合、「Read Only」または「Dfr Opn」以外のすべてのフィールドの対応する属性が同一である必要があります。</p> <p>別名を持つファイルのエントリにあるフィールドを変更すると、その変更はすべてのエントリに伝達されます。</p> <p>ファイル名が空白の場合、Sun MTP は、そのファイルを遠隔とみなすので、データセットは別名としてカウントされません。</p>
Environment	ファイル名のディレクトリを指す環境変数。
Access Method	VSAM (仮想記憶アクセス方式)。その他のアクセス方式は、現在サポートされていません。
File Type	<p>VSAM ファイルのファイル編成。</p> <p>KSDS: キーシーケンスまたは代替索引データセット</p> <p>ESDS: 入力順のデータセット</p> <p>RRDS: 相対レコードデータセット</p>
No Rcv	<p>回復が特定のファイルに対して有効かどうかを示します。回復が有効な場合、このフィールドは VCT に設定された回復オプションを無効にします。VCT で回復が無効の場合、このフィールドは無視されます。詳細は、153 ページの「VSAM 構成テーブル (VCT)」を参照してください。</p> <p>Y: 回復を使用不可にします。</p> <p>N: 回復を使用可能にします。</p> <p>C: 回復を使用不可にし、VSAM ファイルのシステムキャッシュを使用可能にします。このオプションは、回復可能でない一時記憶領域ファイルに対するデフォルトです。詳細は、『Sun Mainframe Transaction Processing ソフトウェア 管理者ガイド』を参照してください。</p> <p>複数のデータセットエントリが同じ物理ファイルを使用すると、Table Manager は、そのファイルのすべてのデータセットのオプションが「No Rcv」フィールドでの指定と同じかどうかを検査し、矛盾がある場合はエラーをレポートします。</p>

フィールド	説明
Rcd Fmt	レコード形式。この値は、いくつかの CICS コマンドの検査で使用されます。 V: Variable (可変) F: Fixed (固定)
Group	グループ名が GCT の「Group Name」フィールドで指定されている場合、このフィールドにその値が入ります。詳細は、166 ページの「グループ制御テーブル (GCT)」を参照してください。 このグループの読み取り専用インジケータ (「R/O」フィールド) が No に設定されている場合、FCT 画面で PF2 キーを押すと、このエントリが GCT の「Directory」フィールドで指定されたディレクトリの <code>fmt.tbl</code> に書き込まれます。このフィールドが空白の場合、エントリは読み取られるか、あるいは \$KIXSYS ディレクトリの <code>fmt.tbl</code> ファイルに書き込まれます。
Dup Alwd	重複したキーを代替索引に使用できるかを示します。 Y: 重複したキーを使用できます。 N: 重複したキーを使用できません。
Read Only	データセットが書き込み可能かを示します。 Y: データセットは読み取り専用です。 N: データセットは読み取りおよび書き込み可能です。
Dfr Open	データセットを起動時に開くかどうかを示します。 Y: 起動時にデータセットは閉じたままです。 N: データセットを開きます。 kixfile ユーティリティを使用すると、領域の実行中にデータセットを開いたり閉じたり、データセットの状態を変更したりできます。詳細は、『Sun Mainframe Transaction Processing ソフトウェア 管理者ガイド』および 45 ページの「kixfile - データセットの状態変更」を参照してください。

注 - 2 つ以上のデータセットを同じ VSAM ファイルに関連付けると、各データセットはその VSAM ファイルに関して他のデータセットとは独立して動作します。たとえば、あるデータセットを読み取り専用、その他を書き込み可能にできます。あるいは、あるデータセットを起動時に開き、その他を閉じたままにできます。「Read Only」フィールドおよび「Dfr Open」フィールドは、kixfile ユーティリティを使用して動的に変更できます。

ファイル制御テーブル—遠隔ファイルの特性

FCT 画面で PF9 キーを押すと、図 3-10 に示す「Remote File Characteristics」画面が表示されます。「Remote File Characteristics」画面では、システム間通信 (ISC) 機能シップに使用されるファイルの特性を指定できます。詳細は、『Sun Mainframe Transaction Processing ソフトウェア 管理者ガイド』を参照してください。

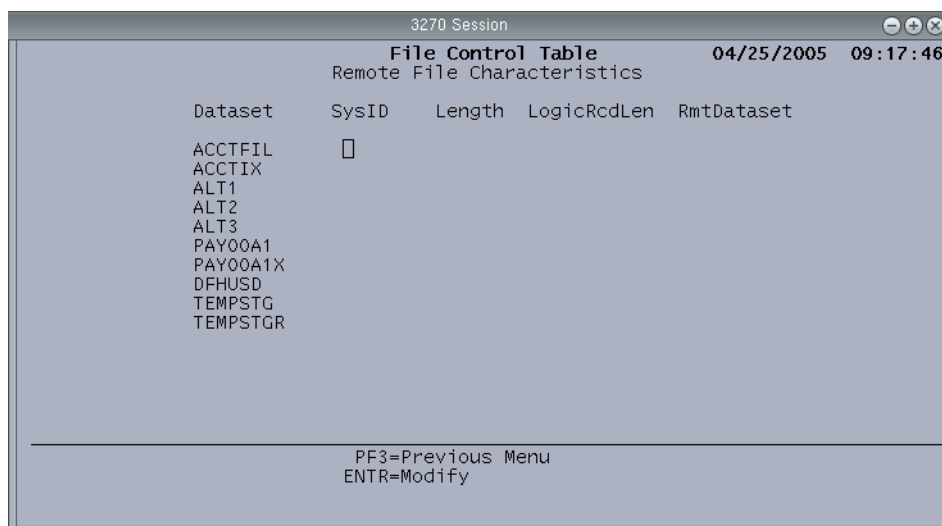


図 3-10 File Control Table – Remote File Characteristics

遠隔ファイルごとに、FCT は次の情報を管理します。

フィールド	説明
Dataset	他の 4 つのフィールドによって説明されるデータセットを指定します。このフィールドは変更できません。遠隔データセットは、別名としてカウントされません。
SysID	TCT - システムエントリテーブルのエントリを指定する 4 文字のフィールド。このフィールドに値が含まれている場合、ファイルは遠隔ファイルとみなされます。遠隔ファイルにアクセスできるのは、遠隔システムが動作している場合だけです。遠隔ファイルは、対応する VSAM カタログのエントリを必要としません。
Length	遠隔システムの KSDS ファイルのキーの長さ。「SysID」フィールドに値が含まれている場合、このフィールドは必須です。値が含まれていない場合、このフィールドにはデータを入力できません。

フィールド	説明
LogicRcdLen	遠隔システムのファイルのレコードの最大長。「SysID」フィールドに値が含まれている場合、このフィールドは必須です。値が含まれていない場合、このフィールドにはデータを入力できません。
RmtDataset	遠隔システムのデータセット名。このフィールドは、ローカルおよび遠隔データセット名が異なる場合に使用されます。デフォルトでは、ローカルおよび遠隔データセット名は同じものと想定されます。

▼ ファイル制御テーブルにデータセットを追加する

1. FCT 画面で PF4 キーを押して、挿入画面を表示します。
2. 新しいデータセットを追加します。
 すでに他のデータセットに関連付けられたファイル名のデータセットを定義する場合、「Read Only」または「Dfr Opn」以外のすべてのフィールドの対応する属性は、既存のデータセット定義と一致する必要があります。一致しない場合、フィールドにはエラーのフラグが立てられます。ファイル名がすでに最大 8 つのデータセットに関連付けられている場合、フィールドにはエラーのフラグが立てられます。
3. 追加を終了したら、Enter キーを押します。
4. データセットが遠隔の場合は、FCT 画面でそのデータセットを選択して PF9 キーを押します。
5. 「Remote File Characteristics」画面で、必要なフィールドに情報を入力して Enter キーを押します。
6. 遠隔データセットごとに手順 4 および 5 を繰り返します。
7. テーブルをディスクに保存します。

ファイル制御テーブル検索画面

FCT メイン画面で PF10 キーを押すと、「FCT - Lookup」画面が表示されます。「Lookup」画面では、データセットを検索できます。

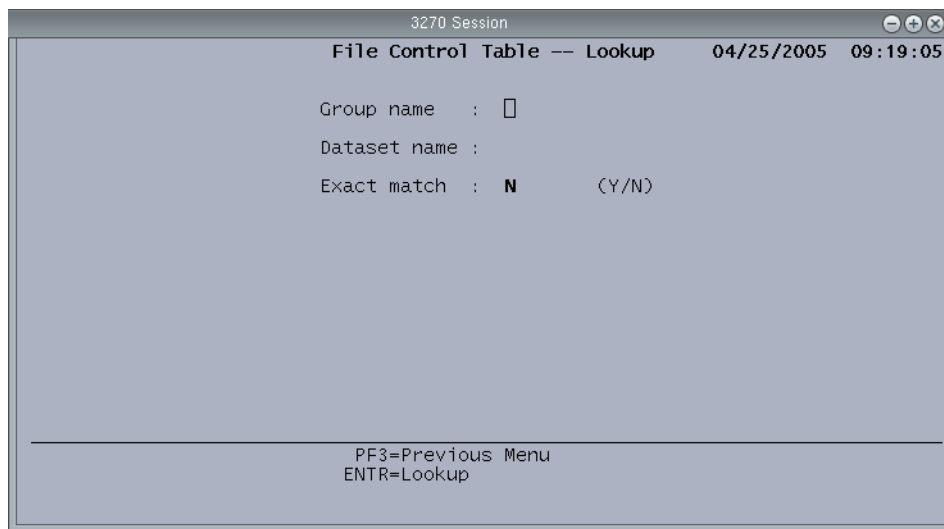


図 3-11 File Control Table - Lookup 画面

FCT のデータセットを検索するには、次のフィールドに値を入力します。

フィールド	説明
Group name	データセットがグループに割り当てられている場合、グループ名を入力する必要があります。グループ名の最初の 2 文字などの部分的な文字列を入力できます。
Dataset name	検索するデータセット。名前の最初の 2 文字などの部分的な文字列を入力できます。
Exact match	Y は、完全一致を検索します。N は、「Dataset name」フィールドの文字列に一致するすべてのデータセットを検索します。

Enter キーを押して、検索を開始します。条件に一致するデータセットが見つかったら、FCT メイン画面が表示されます。カーソルは、最初の一一致位置に置かれます。詳細は、114 ページの「テーブルの検索」も参照してください。

PF3 キーを押すと、検索を取り消して FCT メイン画面に戻ります。

プログラム制御テーブル (PCT)

プログラム制御テーブル (PCT) には、トランザクションを特定して初期化するために使用する情報が含まれます。このテーブルは、アプリケーションの実行に必要な 4 つのテーブルの 1 つです。PCT を表示するには、「Standard Tables」メニューで PF6 キーを押します。

Program	Task Request	Trans ID	TWA Size	Trans Sec	Scrn Size	File Acct ID	SysID	Remote TranCd	Group	Loc Que	AP PC
ACCT01		AC01		1	DEF	D					Y
ACCT02		AC02		1	DEF	D					Y
ACCT03		AC03		1	DEF	D					Y
ACCT03		AC05		1	DEF	D					Y
ACCT00		ACCT		1	DEF	D					Y
ACCT03		ACLG		1	DEF	D					Y
CEDA		CEDA		1	DEF	D			rdo		N
CEDA		CEDB		1	DEF	D			rdo		N
CEDA		CEDC		1	DEF	D			rdo		N
BATCH000		CBCH		1	DEF	N			unikix		Y
KXCCIN		CCIN		1	DEF	D			unikix		N Y
CEBR		CEBR		1	DEF	N			unikix		Y
CECI		CECI		1	DEF	D			unikix		N
CEDF		CEDF		1	DEF	N			unikix		Y
CEMT		CEMT		1	DEF	N			unikix		Y

PF2=Write to Disk PF5=Delete Entry PF9=Txn Class PF12=Export Table
 PF3=Previous Menu PF7=Previous Page PF10=Search ENTR=Modify
 PF4=Insert Entry PF8=Next Page PF11=Import Table

図 3-12 プログラム制御テーブル

PCT には、次の情報が含まれます。

フィールド	説明
Programs	<p>プログラム名。拡張子は含めません。プログラム名は、CICS コマンドで使用されるので、大文字である必要があります。</p> <p>Server Express プログラムの場合、拡張子は .gnt または .int です。.gnt および .int の両方が存在する場合、.gnt が優先されます。</p> <p>ACUCOBOL-GT プログラムの場合、拡張子は .acu です。</p> <p>PL/I プログラムおよび C プログラムの場合、拡張子は .so です。</p> <p>Java プログラムの場合、拡張子は .class です。</p>
Task Request	<p>プログラムをトランザクションとして開始するキー。このフィールドが空白の場合、プログラムをトランザクションとして開始するキーはありません。有効な値は次のとおりです。</p> <p>PF1 ~ PF24 PA1 ~ PA3</p>

フィールド	説明
Trans ID	プログラムをトランザクションとして開始する 1 ～ 4 文字の識別子。このフィールドには大文字および小文字を含めることができます。小文字は大文字に変換されます。
TWA Size	トランザクション作業領域 (TWA) のサイズ (0 ～ 32,767 バイト)。
Trans Sec	<p>トランザクションのセキュリティレベルを指定する 1 ～ 64 の数。この値は、トランザクションを入力した端末のユーザーに関連付けられた SNT のセキュリティキー領域に設定されるビット値セットに対応します。</p> <p>外部セキュリティ管理が使用可能な場合 (KIXSEC=YES)、 「Trans Sec」 の値は無視されます。 『Sun Mainframe Transaction Processing ソフトウェア 管理者ガイド』 のセキュリティに関する章を参照してください。</p> <p>ユーザーが CSSN (CESN) を使用して明示的にサインオンするとき、あるいは領域が開始して入力したユーザー ID と SNT のユーザー ID が一致した場合に暗黙的にサインオンするとき、セキュリティキーが SNT によってユーザーに対して設定されます。デフォルトでは、ユーザーはセキュリティレベル 1 のときのみトランザクションにアクセスできます。すべてのシステムトランザクションは、最初にトランザクションセキュリティレベル 1 に設定されます。これによって、すべてのユーザーがトランザクションにアクセスできます。</p> <p>CSMT、CEMT など、領域の環境を構成するために使用されるクリティカルなトランザクションについては、セキュリティレベルを上げる必要があります。システムトランザクションおよびセキュリティについては、 『Sun Mainframe Transaction Processing ソフトウェア 管理者ガイド』 を参照してください。</p>
Scrn Size	<p>デフォルト画面サイズまたは代替画面サイズ。</p> <p>DEF: デフォルト画面サイズ。24 行 × 80 列 (モデル 2 3270 端末タイプ用)</p> <p>ALT: 代替画面サイズ。27 行 × 132 列 (モデル 5 3270 端末タイプ用)、または 43 行 × 80 列 (モデル 4 3270 端末タイプ用)</p>
Acct	<p>トランザクションに対してアカウントिंगがオンかオフかを示します。</p> <p>Y: SIT の 「Accounting」 フィールドが Y に設定されている場合、トランザクションに対するアカウントिंगはオンになっています。</p> <p>N: アカウントिंगは、このトランザクションではオフになっています。</p> <p>D: (デフォルト) アカウントिंगは SIT の 「Accounting」 フィールドおよび MCT によって制御されます。</p>
File ID	<p>トランザクションに対するジャーナルファイル識別子 (1 ～ 99)。アカウントINGが N に設定されている場合、このフィールドは無視されます。</p> <p>JCT で File ID が指定されていない場合、ジャーナルファイル名は JRNL と File ID を連結して作成されます (たとえば、JRNL05)。</p>

フィールド	説明
SysID	TCT-システムエントリテーブルのエントリでもある 4 文字のシステム識別子。このフィールドに値が含まれている場合、領域は、処理のためにトランザクションを遠隔システムに経路指定またはシッブします。トランザクションの経路指定およびシッブの詳細は、『Sun Mainframe Transaction Processing ソフトウェア 管理者ガイド』を参照してください。
Remote TranCd	トランザクションを経路指定する場合または遠隔システムでトランザクションの非同期処理を使用する場合に、遠隔システムで使用されるトランザクションコード。
Group	グループ名が GCT の「Group Name」フィールドで指定されている場合、このフィールドにその値が入ります。詳細は、166 ページの「グループ制御テーブル (GCT)」を参照してください。 このグループの読み取り専用インジケータ (「R/O」フィールド) が No に設定されている場合、PCT 画面で PF2 キーを押すと、このエントリが GCT の「Directory」フィールドで指定されたディレクトリの pct.tbl に書き込まれます。このフィールドが空白の場合、エントリは読み取られるか、あるいは \$KIXSYS ディレクトリの pct.tbl ファイルに書き込まれます。
Loc Que	遠隔システムが使用できない場合、Y または N を入力して、遠隔システムにシッブされたトランザクションをローカルのキューに入れるかどうかを指定します。ISC については、『Sun Mainframe Transaction Processing ソフトウェア 管理者ガイド』を参照してください。
APPC	バックエンドの DTP トランザクション。 Y: トランザクションは、バックエンドの DTP プログラムで、ISC 機能を実行します。 N: トランザクションは、バックエンドの DTP プログラムではありません。アウトバウンド ISC 機能を実行できますが、遠隔 Sun MTP または CICS 領域によって開始された場合、想定どおりには実行されません。

プログラム制御テーブル – トランザクションクラス画面

PCT 画面で PF9 キーを押すと、「Transaction Classes」画面が表示されます。この画面で、トランザクションをトランザクションクラスに割り当てます。

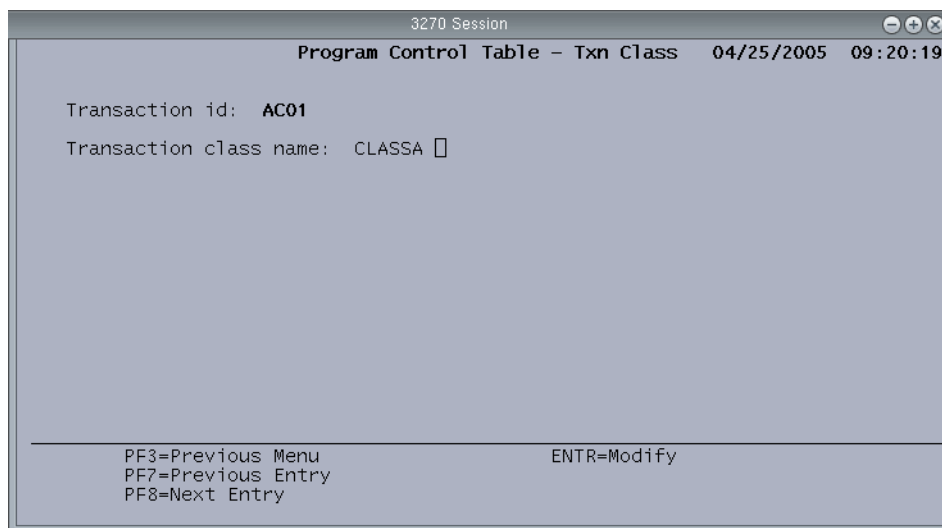


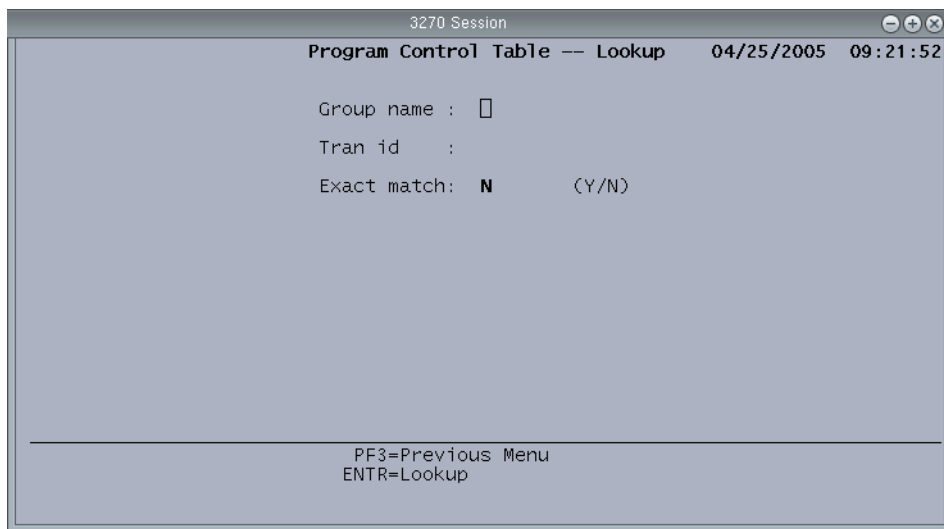
図 3-13 プログラム制御テーブル – トランザクションクラス画面

▼ プログラム制御テーブルにトランザクションを追加する

1. PCT 画面で PF4 キーを押して、挿入画面を表示します。
2. 新しいトランザクションを追加します。
3. 追加を終了したら、Enter キーを押します。
4. トランザクションをトランザクションクラスに割り当てるには、そのトランザクションを選択して PF9 キーを押します。
5. PCT の「Transaction Classes」画面で、そのトランザクションのトランザクションクラスを選択して Enter キーを押します。
6. クラスに割り当てるトランザクションごとに手順 4 および 5 を繰り返します。
7. テーブルをディスクに保存します。

プログラム制御テーブル – 検索画面

PCT メイン画面で PF10 キーを押すと、「PCT – Lookup」画面が表示されます。「Lookup」画面では、トランザクション ID を検索できます。



```
3270 Session
Program Control Table -- Lookup 04/25/2005 09:21:52

Group name : 
Tran id : 
Exact match: N (Y/N)

PF3=Previous Menu
ENTR=Lookup
```

図 3-14 Program Control Table – Lookup 画面

PCT のプログラムを検索するには、次のフィールドに値を入力します。

フィールド	説明
Group name	プログラムがグループに割り当てられている場合、グループ名を入力する必要があります。グループ名の最初の 2 文字などの部分的な文字列を入力できます。
Tran id	検索するプログラムのトランザクション ID。識別子の最初の 2 文字などの部分的な文字列を入力できます。
Exact match	Y は、完全一致を検索します。N は、「Tran id」フィールドの文字列に一致するトランザクション ID を検索します。

Enter キーを押して、検索を開始します。条件に一致するトランザクションが見つかったら、PCT メイン画面が表示されます。カーソルは、最初の一致位置に置かれます。詳細は、114 ページの「テーブルの検索」も参照してください。

PF3 キーを押すと、検索を取り消して PCT メイン画面に戻ります。

処理プログラムテーブル (PPT)

処理プログラムテーブル (PPT) は、Sun MTP が実行できるオンラインプログラム、読み込めるテーブル、および参照できるマップセットを示します。このテーブルは、アプリケーションの実行に必要な 4 つのテーブルの 1 つです。「Standard Tables」メニューで PF7 キーを押すと、PPT が表示されます。

Program	Typ	SysID	RmtProg	RmtTrn	Group	Shared Library	P/L API
ACCT00	K					acct00	F
ACCT01	K					acct01	F
ACCT02	K					acct02	F
ACCT03	K					acct03	F
ACCTSET	M						F
ACCTSETM	M						F
CEDA	S				rdo		
CEDADIS	M				rdo		
BATCH000	B				unikix		F
CEBR	S				unikix		F
CEBRMAP	M				unikix		F
CECI	K				unikix	lib/ceci	F
CEDF	S				unikix		F
CEMT	S				unikix		F
CEMTMAP	M				unikix		F
CESF	S				unikix		F

PF2=Write to Disk PF5=Delete Entry PF9=JAVA Details PF12=Export Table
 PF3=Previous Menu PF7=Previous Page PF10=Search ENTR=Modify
 PF4=Insert Entry PF8=Next Page PF11=Import Table

図 3-15 処理プログラムテーブル

PPT には、次の情報が含まれます。

フィールド	説明
Programs	プログラム、テーブル、またはマップセットの名前を示します。マップセット名は一意で 7 文字までです。
Typ	エントリのタイプ。 A: CICS の LOAD と RELEASE コマンドで参照するテーブル B: バッチプロセッサを指定する Sun MTP のタイプ C: COBOL プログラム J: Java プログラム K: C プログラム L: PL/I プログラム M: マップセット S: スタンドアロンユーティリティーを指定する Sun MTP のタイプ

フィールド	説明
SysID	TCT - システムエントリテーブルのエントリを指定する 4 文字のフィールド。このフィールドに値が存在する場合、プログラムは遠隔プログラムとみなされます。遠隔プログラムにアクセスできるのは、遠隔システムが動作している場合だけです。
RmtProg	遠隔システム上のプログラム名。ローカル名および遠隔名が異なる場合に、このフィールドを使用します。デフォルトでは、ローカル名および遠隔名は同じです。詳細は、『Sun Mainframe Transaction Processing ソフトウェア 管理者ガイド』を参照してください。
RmtTran	プログラムが遠隔の場合、分散プログラムリンク (DPL) 機能を実行するために遠隔システムで使用するトランザクションコード。セキュリティーまたはアカウントティングの目的で、名前を変更できます。詳細は、『Sun Mainframe Transaction Processing ソフトウェア 管理者ガイド』を参照してください。
Group	グループ名が GCT の「Group Name」フィールドで指定されている場合、このフィールドにその値が入ります。詳細は、166 ページの「グループ制御テーブル (GCT)」を参照してください。 このグループの読み取り専用インジケータ (「R/O」フィールド) が No に設定されている場合、PPT 画面で PF2 キーを押すと、このエントリが GCT の「Directory」フィールドで指定されたディレクトリの ppt.tbl に書き込まれます。このフィールドが空白の場合、エントリは読み取られるか、あるいは \$KIXSYS ディレクトリの ppt.tbl ファイルに書き込まれます。
Shared Library	プログラムが検索される共用ライブラリまたは共用オブジェクトの名前 (最大 16 文字)。環境変数 KIXLIB が設定されていない限り、すべてのエントリは \$KIXSYS を基準とした相対パスです。
P/L	トランザクションサーバーの起動時に共用オブジェクトを開く必要がある場合、このフィールドを Y に設定します。開く必要がない場合は、このフィールドを N に設定するか、空白のままにします。共用オブジェクトの読み込み方法については、『Sun Mainframe Transaction Processing ソフトウェア 開発者ガイド』を参照してください。
API	DPL 機能のローカルテストを定義します。 E: すべての CICS コマンドが、サーバープログラムで使用可能です (デフォルト)。 D: サーバープログラムは DPL 制限 API を実行できません。 DPL の詳細は、『Sun Mainframe Transaction Processing ソフトウェア 管理者ガイド』を参照してください。

処理プログラムテーブル – Java クラスの詳細画面

「Java Class Details」画面は、選択した Java プログラムの完全修飾クラス名を指定するために使用します。PPT メイン画面で Java プログラムを選択して PF9 キーを押すと、「Java Class Details」画面が表示されます。

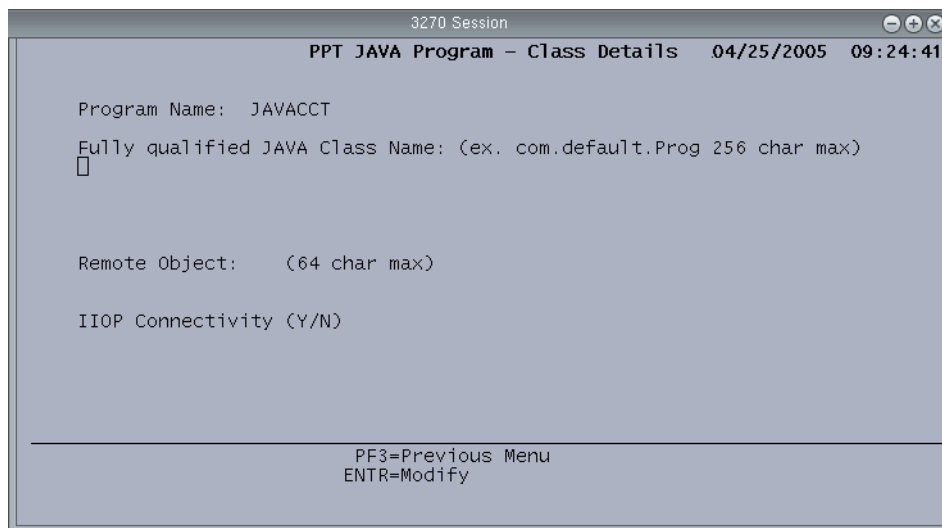


図 3-16 Processing Program Table – Java Class Details 画面

「Java Class Details」画面のフィールドは、次のとおりです。

フィールド	説明
Program Name	PPT メイン画面で選択した Java プログラムを示します。
Fully qualified JAVA Class Name	Java の完全修飾クラス名を入力します (最大 256 文字)。値を入力しない場合、フィールドはデフォルトで <code>com.default.Prog</code> に設定されます。Java プログラムを使用する前に、この値を有効なクラス名に変更する必要があります。 次の場合、エラーが検出されます。 <ul style="list-style-type: none">• 名前の最初の文字がドット (.) の場合。• 名前の最後の文字がドット (.) の場合。• 名前の中でドット (.) が隣接する場合。• 名前の中にスペースがある場合。
Remote Object	使用されません。
IIOP Connectivity	使用されません。

PPT に Java プログラムを定義して PPT をディスクに保存すると、jva.tbl ファイルが作成されます。Java プログラムが定義されていない場合、jva.tbl ファイルは作成されません。jva.tbl を領域の開始時に使用して、PPT のすべての Java エントリに対する Java クラス名を含む共用メモリーテーブルを構築します。実行時に、このテーブルは Java プログラムを対応するクラスにマップします。

Java CICS (JCICS) API の用法については、『Sun Mainframe Transaction Processing ソフトウェア 開発者ガイド』を参照してください。

▼ 処理プログラムテーブルにエントリを追加する

1. PPT 画面で PF4 キーを押して、挿入画面を表示します。
2. 新しいエントリを追加します。
3. 追加を終了したら、Enter キーを押します。
4. Java プログラム名を追加した場合、PPT メイン画面でそれを選択して PF9 キーを押します。
5. 「Java Class Details」画面で、Java クラス名を指定して Enter キーを押します。
6. 追加した Java プログラムごとに手順 4 および 5 を繰り返します。
7. テーブルをディスクに保存します。

処理プログラムテーブル – 検索画面

PPT メイン画面で PF10 キーを押すと、「PPT – Lookup」画面が表示されます。「Lookup」画面では、プログラムを検索できます。

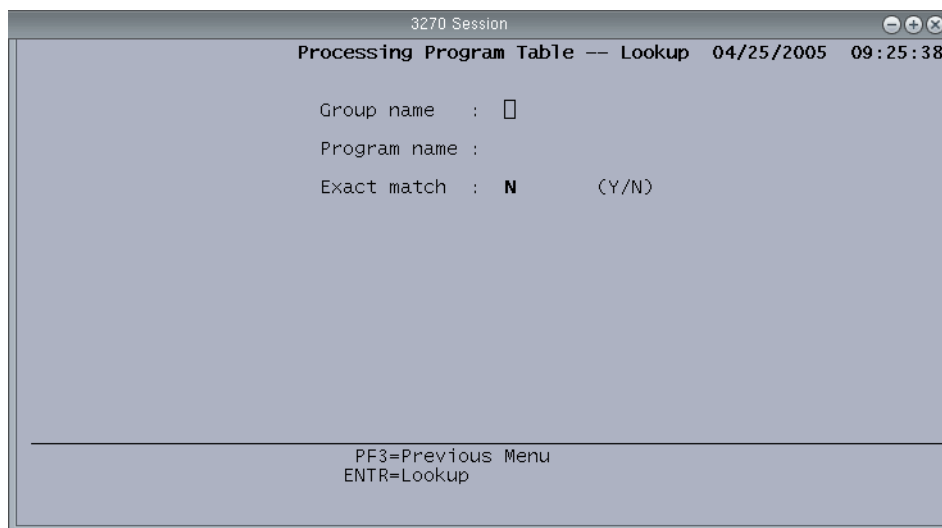


図 3-17 Processing Program Table – Lookup 画面

PPT のプログラムを検索するには、次のフィールドに値を入力します。

フィールド	説明
Group name	プログラムがグループに割り当てられている場合、グループ名を入力する必要があります。グループ名の最初の 2 文字などの部分的な文字列を入力できます。
Program name	検索するプログラム名を特定します。名前の最初の 2 文字などの部分的な文字列を入力できます。
Exact match	Y は、完全一致を検索します。N は、「Program name」フィールドの文字列に一致するすべてのプログラムを検索します。

Enter キーを押して、検索を開始します。条件に一致するプログラムが見つかったら、PPT メイン画面が表示されます。カーソルは、最初の一致位置に置かれます。詳細は、114 ページの「テーブルの検索」も参照してください。

PF3 キーを押すと、検索を取り消して、PPT メイン画面に戻ります。

端末制御テーブル (TCT)

端末制御テーブル (TCT) には、プリンタ、3270 デバイス、および遠隔システムに関する情報が含まれます。TCT メニューを表示するには、「Standard Tables」メニューで PF8 キーを押します。

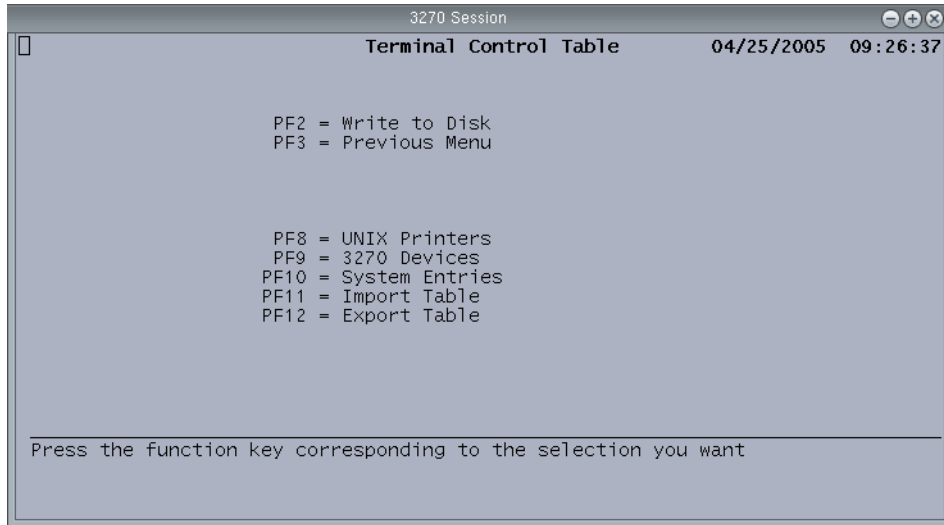


図 3-18 Terminal Control Table メインメニュー

TCT のエントリーには、次の 3 タイプがあります。

- プリンタ
- 3270 デバイス
- システム

端末制御テーブル – プリンタ

「Terminal Control Table – Printers」画面は、CICS コマンドで使用できる端末識別子を定義します。これにより、その端末識別子を物理プリンタまたは論理プリンタに関連付けることができます。プリンタの構成手順については、『Sun Mainframe Transaction Processing ソフトウェア 構成ガイド』を参照してください。

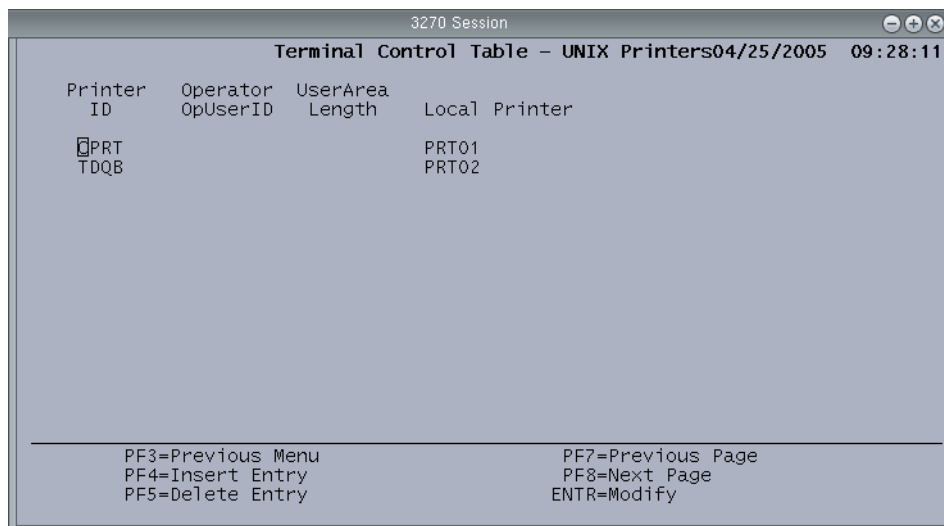


図 3-19 Terminal Control Table – Printers 画面

「TCT – Printers」画面には、次の情報が含まれます。

フィールド	説明
Printer ID	プリンタに関連付けられた識別子を示す表示専用フィールド。プリンタ識別子は、宛先タイプが <code>TERMINAL</code> または <code>PRINTER</code> であるパーティション内の宛先エントリによって参照できます。この識別子は、 <code>EXEC CICS START</code> コマンドの <code>TERMID</code> オプションによっても参照できます。パーティション内の宛先については、120 ページの「宛先制御テーブル (DCT)」を参照してください。 CPRT はデフォルトのプリンタ識別子です。
Operator OpUser ID	プリンタセキュリティーが TCT にコピーされるように、SNT エントリの「User ID」フィールドと一致する必要がある 8 文字のフィールド。
UserArea Length	実行時にアプリケーションにアクセスできる、端末に関連付けられた記憶領域のバイト数。この値は、システムの初期化時に端末に割り当てられ、領域の実行中も保持されます。値は 0 ~ 255 で、CICS の <code>TCTUAL</code> と同じです。
Local Printer	物理プリンタを指定します (任意の 14 文字)。これが存在する場合、 <code>kixprint</code> シェルスクリプトに、 <code>-p</code> パラメータとして渡されます。 <code>kixprint</code> の変更については、『Sun Mainframe Transaction Processing ソフトウェア 構成ガイド』を参照してください。

▼ 端末制御テーブルにプリンタを追加する

1. 「Printers」画面で PF4 キーを押して、挿入画面を表示します。
2. 新しいプリンタを追加します。
3. 追加を終了したら、Enter キーを押します。
4. テーブルをディスクに保存します。

端末制御テーブル – 3270 デバイス

TCT メニュー画面で PF9 キーを押すと、「3270 Devices」メイン画面が表示されます。この画面には、領域にログをとることができないプリンタなどの 3270 デバイスに関する情報が含まれます。

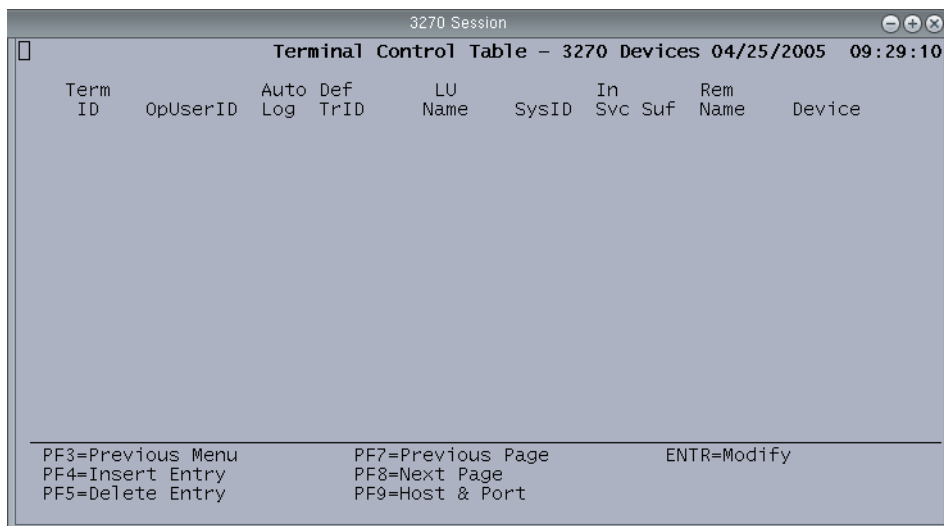


図 3-20 Terminal Control Table – 3270 Devices メイン画面

次の情報が、「3270 Devices」メイン画面に表示されます。

フィールド	説明
Term ID	アプリケーションに認識される端末識別子。この 4 文字のフィールドは必須ですが、他の TCT Term ID と同じにはできません。
OpUser ID	SNT エントリの「User ID」フィールドと一致する 8 文字のフィールド。

フィールド	説明
Auto Log	3270 クライアントイニシエータが使用できる場合、領域が端末への接続を試行するかを示すオプションのフィールド。有効な 1 文字のエントリは、y、Y、n、および N です。デフォルトは Y です。 N または n に設定すると、CEMT トランザクションを使用して端末を起動したり領域にログインしたりできます。CEMT の詳細は、『Sun Mainframe Transaction Processing ソフトウェア 管理者ガイド』を参照してください。
Def TrID	端末に入力されたすべてのトランザクション ID よりも優先されるトランザクション ID。
Lu Name	SNA の場合: SNA ネットワークに認識される端末名を指定します。8 文字の必須フィールドです。SNA サーバーを PU5 パッケージとともにインストールすると、LU 名が設定されます。LU 名の割り当ての詳細は、PU5 のマニュアルを参照してください。 TN3270E の場合: TN3270E エミュレータに認識される端末名を指定します。このオプションフィールドによって、TN3270E 端末を事前定義できます。TN3270E エミュレータの起動手順で、LU 名を定義する必要があります。
SysID	システム識別子。この 4 文字のフィールドが空白の場合、あるいは SIT に構成された SysID と一致する場合、ローカルシステムが使用されます。異なる値が指定されている場合、端末は遠隔として定義されます。遠隔システムは、TCT のシステムエントリとしても定義される必要があります。詳細は、149 ページの「端末制御テーブル - システムエントリ」を参照してください。
In Svc	(サービス稼動中) 端末の初期状態。遠隔接続はこのフィールドを無視します。 Y: サービス稼動中 N: サービス休止中
Suf	BMS マッピング要求に使用される、7 文字のマッピングセットすべてに追加される接尾辞。アプリケーションの代替画面サイズまたは各国語サポートにこのオプションフィールドを使用できます。
RemName	遠隔システムで認識される端末識別子。このフィールドは、異なる遠隔システム上で同じ端末 ID を持つ 2 つの端末の両方が Sun MTP に対してトランザクション経路になる場合に使用されます。端末のいずれか 1 つを、遠隔システム上で定義された遠隔名および一意の Term ID を持つものとして定義してください。
Device	このエントリのデバイスタイプを示します。現在サポートされている唯一の値は、エントリを LU Type1 プリンタとして定義する SCSPRINT です。LU Type1 プリンタの構成方法については、『Sun Mainframe Transaction Processing ソフトウェア 構成ガイド』を参照してください。

端末制御テーブル – 3270 デバイス、ホストおよびポート画面

TCT の 3270 デバイス、ホストおよびポート画面を表示するには、TCT の 3270 デバイスのメイン画面で PF9 キーを押します。この画面には、デバイスが接続されているホストおよびポートが示されます。

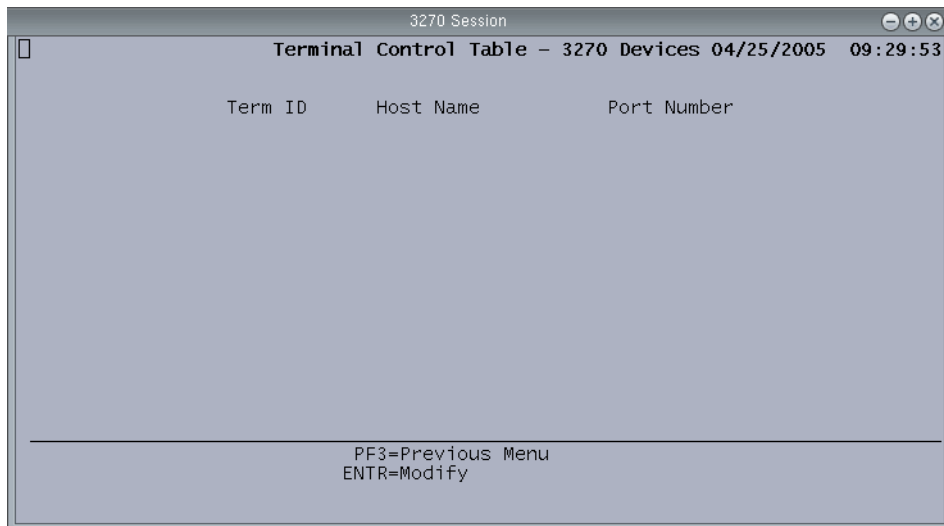


図 3-21 端末制御テーブル – 3270 デバイス、ホストおよびポート画面

ホストおよびポート画面では、次の情報が管理されます。

フィールド	説明
Term ID	端末識別子。このフィールドは、メイン画面の「Term ID」フィールドと同じです。
Host Name	3270 デバイスが接続されるホストを指定します。この 16 文字のフィールドが空白の場合、Sun MTP は領域が実行されているホストの名前を置き換えます。 このフィールドは、TPS PU4/5 サーバーソフトウェア (unikixtrin プロセス) で領域にアクセスする端末の場合にのみ使用してください。それ以外の端末定義の場合、このフィールドは無視されます。
Port Number	クライアントイニシエータプロセス unikixi が SNA または Sun MTP 自動ログイン要求を待機する 4 桁のポート番号または最大 16 文字のポート名。詳細は、94 ページの「unikixi - 3270 クライアントイニシエータプロセス」を参照してください。 このフィールドは、TPS PU4/5 サーバーソフトウェア (unikixtrin プロセス) で領域にアクセスする端末の場合にのみ使用してください。それ以外の端末定義の場合、このフィールドは無視されます。

▼ 端末制御テーブルに 3270 デバイスを追加する

1. 「Terminal Control Table – 3270 Devices」画面で PF4 キーを押して、挿入画面を表示します。
2. 新しいデバイスを追加します。
3. 追加を終了したら、Enter キーを押します。
4. 「Terminal Control Table – 3270 Devices」画面で、新しいエントリを選択して PF9 キーを押します。
5. 「Host & Port」画面で、必要な情報を入力して Enter キーを押します。
6. 新しいエントリごとに手順 4 および 5 を繰り返します。
7. テーブルをディスクに保存します。

端末制御テーブル – システムエントリ

「Terminal Control Table – System Entries」画面には、遠隔システム識別子 (SysID) のリストが含まれます。その遠隔システムの定義に適用できるすべての情報が、各 SysID に関連付けられています。アプリケーションプログラムが CICS コマンドで SYSID オプションを指定すると、指定した識別子がテーブルの SysID のリストと照合されます。

このテーブルを変更するには、TCT メニューで PF10 キーを押します。

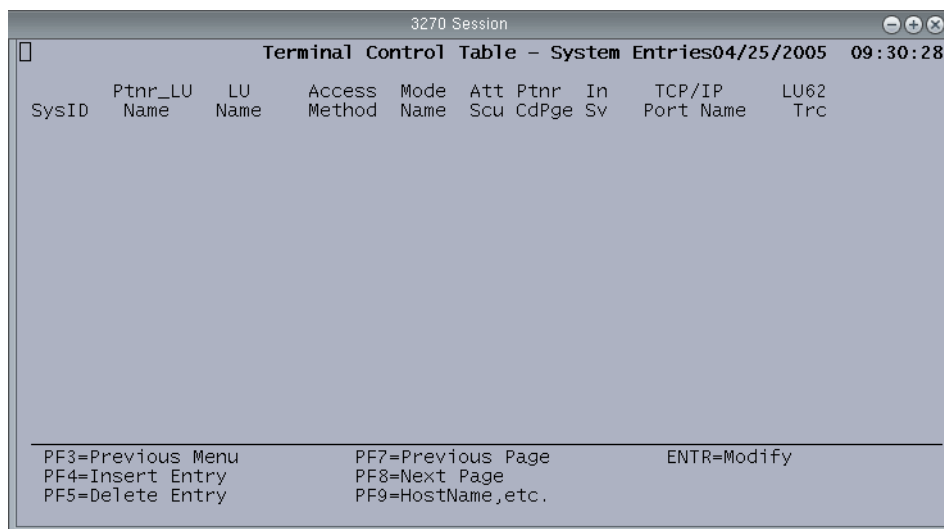


図 3-22 Terminal Control Table – System Entries 画面

TCT は、遠隔システムごとに次の情報を管理します。

フィールド	説明
SysID	SNA および TCP/IP ISC に使用する遠隔システムのローカル識別子。この 4 文字のフィールドは、遠隔通信を必要とする他のテーブルまたは CICS コマンドによって参照されます。
Ptnr_LU Name	パートナー LU 名。ISC に使用する遠隔システム。 SNA: SNA 構成ファイルの PTNR_LU 定義の NAME オプションと同じ名前を含む必要がある 8 文字のフィールド。 TCP/IP: 表示専用のフィールド。
Lu Name	セッションを制御している論理ユニットを指定します。 SNA: SNA 構成ファイルの LU 定義の NAME オプションと同じ名前を含む必要がある 8 文字のフィールド。 TCP/IP: 表示専用のフィールド。
Access Method	遠隔システムにアクセスするために使用される通信プロトコルのタイプ。 SNA: DCL を入力します。詳細は、『Sun Mainframe Transaction Processing ソフトウェア 構成ガイド』を参照してください。 TCP/IP: TCP を入力します。
Mode Name	Sun MTP 領域と CICS 領域間に設定されるセッションを制御するパラメータを含むテーブル名。 SNA: SNA 構成ファイルの MODE 定義の NAME オプションと同じ名前を含む 8 文字のフィールド。 TCP/IP: 表示専用のフィールド。
Att Scu	(接続セキュリティ) セキュリティーを定義します。 SNA および TCP/IP 空白、L または N: ローカルセキュリティ I: 識別します。ユーザー ID がアウトバウンド要求で遠隔領域に送信されます。
Ptnr CdPge	SNA および TCP/IP パートナーコードページ。パートナーが使用する特定の文字セットの識別子。パートナーが ASCII システムの場合、この 5 文字のフィールドを空のままにします。パートナーが EBCDIC システムの場合、コードページ (00037 など) を入力します。
In Svc	SNA および TCP/IP (サービス稼動中) 遠隔接続の初期状態。サービス休止システムは、ISC 要求を発行できません。 Y: サービス稼動中 N: サービス休止中

フィールド	説明
TCP/IP Port Name	<p>TCP/IP</p> <p>Sun MTP が TCP/IP を介して遠隔システムに接続するポート番号またはポート名。ポート名が指定されている場合、ローカルネットワークサービスデータベースのポート名を検索することによって、ポート番号を検出します。そのため、ローカルシステムおよび遠隔システムの両方で同じポート名およびポート番号を使用します。</p>
LU62 Trc	<p>LU6.2 トレースをオンまたはオフにします。Sun MTP は、トレースファイルを \$KIXSYS ディレクトリに書き込みます。</p> <p>Y: トレースをオンにします。</p> <p>N: トレースをオフにします。</p> <p>SNA の場合: トレースファイル名は <code>isclu62_pid</code> です。pid はトレースファイルを書き込むプロセスのプロセス ID です。</p> <p>TCP/IP の場合: トレースファイル名は <code>tcplu62_pid</code> です。pid はトレースファイルを書き込むプロセスのプロセス ID です。</p>

端末制御テーブル – システムエントリのホスト名

システムのエントリの作成を終了して、「TCT – System Entries」画面で PF9 キーを押すと、「Host Name」画面が表示されます。「Host Name」画面では、SysID に対応するホストの名前を入力します。さらに、ホストが SNA 接続でアクセスされる場合は、ホストのネットワーク修飾パートナー名を入力します。

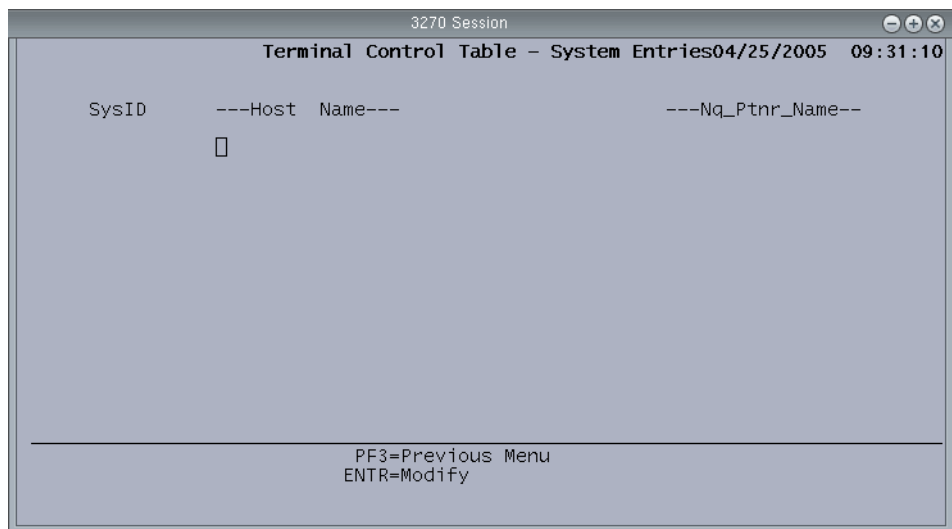


図 3-23 Terminal Control Table – System Entries Host Name 画面

「Host Name」画面には、次のフィールドが含まれます。

フィールド	説明
SysID	SNA および TCP/IP 遠隔システムのローカル識別子。この 4 文字のフィールドは、遠隔通信を必要とする他のテーブルまたは CICS コマンドによって参照されます。
Host Name	ホストの識別子。 SNA: LU6.2 通信サーバーを実行しているシステムを特定します。このフィールドが空白の場合、サーバーは Sun MTP ホスト上で実行されていると想定されます。 TCP/IP: 領域を実行している遠隔システムを特定します。このフィールドが空白の場合、遠隔領域はローカルホスト上で実行されていると想定されます。
Nq_Ptnr_Name	SNA: 次の形式のネットワーク修飾パートナー名。 <i>netid.netname</i> 説明 <i>netid</i> は遠隔領域のネットワーク ID です <i>netname</i> は遠隔領域のネットワーク名です この 17 文字のフィールドには、SNA 構成ファイルの PTNR_LU 定義の NQ_LU_NAME オプションと同じ名前を含む必要があります。

▼ 端末制御テーブルにシステムエントリを追加する

1. 「TCT – System Entries」画面で PF4 キーを押して、挿入画面を表示します。
2. 新しいシステム識別子を追加します。
3. 追加を終了したら、Enter キーを押します。
4. 「TCT – System Entries」画面で、新しいエントリを選択して PF9 キーを押します。
5. 「Host Name」画面で、ホスト名情報を入力して Enter キーを押します。
6. 新しいシステム ID ごとに手順 4 および 5 を繰り返します。
7. テーブルをディスクに保存します。

VSAM 構成テーブル (VCT)

VSAM 構成テーブル (VCT) には、Sun MTP の操作を制御するデータが含まれます。「Standard Tables」メニューで PF10 キーを押すと、VCT が表示されます。VCT 画面で情報を直接入力し、終了したら Enter キーを押します。

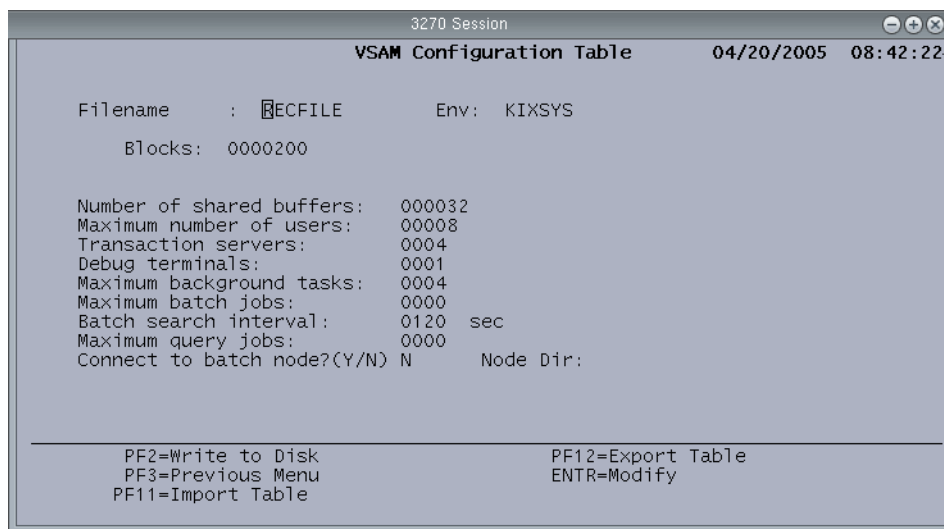


図 3-24 VSAM Configuration Table

VCT には、次のフィールドが含まれます。

フィールド	説明										
Filename	回復データファイルを指定します。回復データファイル名を指定しないと、領域の回復が有効になりません。										
Env	回復データファイルがあるディレクトリを指す環境変数。										
Blocks	回復ファイルのブロック数。ブロック数を入力します。 <table border="1"><thead><tr><th>ブロックサイズ</th><th>最大 VCT ブロック数</th></tr></thead><tbody><tr><td>4096 (4K)</td><td>524288</td></tr><tr><td>8192 (8K)</td><td>262144</td></tr><tr><td>16384 (16K)</td><td>131072</td></tr><tr><td>32768 (32K)</td><td>65536</td></tr></tbody></table> <p>この値を 100 未満にすると、回復は有効になりません。 ブロックサイズは、VSAM ブロックサイズと同じです。</p>	ブロックサイズ	最大 VCT ブロック数	4096 (4K)	524288	8192 (8K)	262144	16384 (16K)	131072	32768 (32K)	65536
ブロックサイズ	最大 VCT ブロック数										
4096 (4K)	524288										
8192 (8K)	262144										
16384 (16K)	131072										
32768 (32K)	65536										

フィールド	説明
Number of shared buffers	<p>コアの VSAM データを格納するために、Sun MTP が初期設定時に割り当てる VSAM ブロックサイズのバッファ数。最小値は 128 です。</p> <p>バッファの最大数は、最大の共用メモリーセグメントサイズによって決まります。詳細は、『Sun Mainframe Transaction Processing ソフトウェア 構成ガイド』を参照してください。</p>
Maximum number of users	<p>端末や専用プリンタなど、領域にログイン可能な並行接続セッション数。</p>
Transaction servers	<p>並行して有効となることができるトランザクション、セッション、または対話型照会ジョブの合計数 (最大 224)。</p> <p>トランザクションサーバー数の計算方法については、『Sun Mainframe Transaction Processing ソフトウェア 構成ガイド』を参照してください。</p>
Debug terminals	<p>有効になることができるデバッグセッションの最大数。</p>
Maximum background tasks	<p>CICS の一時データトリガーおよび端末 ID を指定しない START コマンドによって起動できるトランザクションの最大数。</p>
Maximum batch jobs	<p>並行して実行できるバッチジョブの最大数。バッチ処理については、『Sun Mainframe Transaction Processing ソフトウェア 開発者ガイド』を参照してください。</p>
Batch search interval	<p>\$KIXBTCH で指定されたディレクトリの検索の間隔 (秒単位)。このフィールドを小さい値に設定すると、オンラインの応答時間に影響する場合があります。詳細は、『Sun Mainframe Transaction Processing ソフトウェア 開発者ガイド』のバッチ処理に関する章を参照してください。</p>
Maximum query jobs	<p>並行して実行できる対話型照会および更新プロセスの最大数。</p>
Connect to batch node	<p>領域が Sun MBM ノードに接続することを示します。</p> <p>Y: ノードに接続します</p> <p>N または空白: 接続しません</p>
Node Dir	<p>最大 189 文字の Sun MBM ノードディレクトリパス名。「Connect to Batch Node」フィールドで Y を入力した場合に必須です。</p>

拡張テーブル

「Extended Tables」メニューには、次のオプションがあります。テーブルを表示または変更するには、対応するファンクションキーを押します。

ファンクション キー	アクション
PF3	「Table Manager」メインメニューに戻ります。
PF1	トランザクションクラステーブルを表示します。
PF4	プログラムリストテーブルを表示します。
PF5	サインオンテーブルを表示します。
PF6	ジャーナル制御テーブルを表示します。
PF7	グループ制御テーブルを表示します。
PF8	モニター制御テーブルを表示します。
PF9	データ変換テンプレートテーブルを表示します。
PF10	一時記憶領域テーブルを表示します。

▼ Extended Tables メニューを表示する

- 「Table Manager」メインメニューで PF5 キーを押します。

トランザクションクラステーブル (TXC)

トランザクションクラステーブル (TXC) は、領域に対して定義されたトランザクションクラスを示します。2つのデフォルトのクラスは、KIXADMIN および KIXDFLT です。トランザクションクラスを定義しないと、領域はスケジューラを起動せず、トランザクションクラスを使用して実行されません。トランザクションクラスの説明および使用法は、『Sun Mainframe Transaction Processing ソフトウェア 管理者ガイド』を参照してください。TXC を表示するには、「Extended Tables」メニューで PF1 キーを押します。

Class	Group	Max Active
<input type="checkbox"/> LASSA		2
KIXADMIN	unikix	1
KIXDFLT	unikix	1

PF2=Write to Disk PF5=Delete Entry PF11=Import Table
PF3=Previous Menu PF7=Previous Page PF12=Export Table
PF4=Insert Entry PF8=Next Page ENTR=Modify

図 3-25 Transaction Class Table

次のフィールドが、TXC に表示されます。

フィールド	説明
Class name	最大 8 文字のクラス名。
Group	最大 8 文字のグループ名。
Max Active	クラスで一度に実行できるトランザクションの最大数。この数は、クラスに割り当てられるトランザクション処理プログラムの数でもあります。値は 0 ~ 1024 です。値 0 は、このクラスに対して届くすべてのメッセージがキューに入れられ、トランザクション処理プログラムが CEMT SET TRANCLASS トランザクションまたは EXEC CICS SET TRANCLASS コマンド の使用によってこのクラスに割り当てられるまでキューに入れられたままになることを示します。

▼ トランザクションクラステーブルにトランザクションクラスを追加する

1. TXC メイン画面で PF4 キーを押して、挿入画面を表示します。
2. 新しいトランザクションクラスを追加します。
3. 追加を終了したら、Enter キーを押します。
4. テーブルをディスクに保存します。

プログラムリストテーブル (PLT)

プログラムリストテーブル (PLT) には、領域の初期化時、各ユーザーの起動時、または領域の終了時に実行されるプログラムの名前が含まれます。プログラムをいつ実行するかを示す値が、各プログラム名に関連付けられています。「Extended Tables」メニューで PF4 キーを押すと、PLT が表示されます。

Program Name	Program Type	Group
CCTSET	USERSTART	

PF2=Write to Disk PF5=Delete Entry PF11=Import Table
PF3=Previous Menu PF7=Previous Page PF12=Export Table
PF4=Insert Entry PF8=Next Page ENTR=Modify

図 3-26 Program List Table

PLT には、次の情報が含まれます。

フィールド	説明
Program Name	「Program Type」フィールドで指定される時に実行されるプログラム。これらのプログラムは、PPT に存在する必要があります。
Program Type	プログラムをいつ実行するかを示します。特定タイプのすべてのプログラムが、このテーブルに表示される順序で実行されます。 SYSSTART: システムの初期化時にプログラムが実行されます。 USERSTART: ユーザーのサインオン時にプログラムが実行されます。 SYSTEMR: システムの終了時にプログラムが実行されます。
Group	グループ名が GCT の「Group Name」フィールドで指定されている場合、このフィールドにその値が入ります。詳細は、166 ページの「グループ制御テーブル (GCT)」を参照してください。 このグループの読み取り専用インジケータ (「R/O」フィールド) が No に設定されている場合、PLT 画面で PF2 キーを押すと、このエントリが GCT の「Directory」フィールドで指定されたディレクトリの plt.tbl に書き込まれます。このフィールドが空白の場合、エントリは読み取られるか、あるいは \$KIXSYS ディレクトリの plt.tbl ファイルに書き込まれます。

▼ プログラムリストテーブルにプログラムを追加する

1. PLT メイン画面で PF4 キーを押して、挿入画面を表示します。
2. プログラムを追加します。
3. 追加を終了したら、Enter キーを押します。
4. テーブルをディスクに保存します。

サインオンテーブル (SNT)

サインオンテーブル (SNT) には、CESN と CSSN のサインオントランザクションによって使用される情報、および暗黙的にサインオンしたユーザー用の情報が含まれます。CESN トランザクションは、ユーザー ID およびパスワードを受け入れ、CSSN トランザクションは、オペレータ名およびパスワードを受け入れます。暗黙的にサインオンしたユーザーは、ローカルクライアントプロセスの UNIX ユーザー ID、または UNIX のユーザー ID とパスワード認証で構成された TN3270 クライアントで領域にアクセスします。使用するサインオン方式にかかわらず、ユーザーが SNT で見つかったら、ユーザーのセキュリティーキー、オペレータクラス、およびオペレータ識別子が、ユーザーの端末に対応する TCT の情報にマージされます。

「Extended Tables」メニューで PF5 キーを押すと、SNT が表示されます。

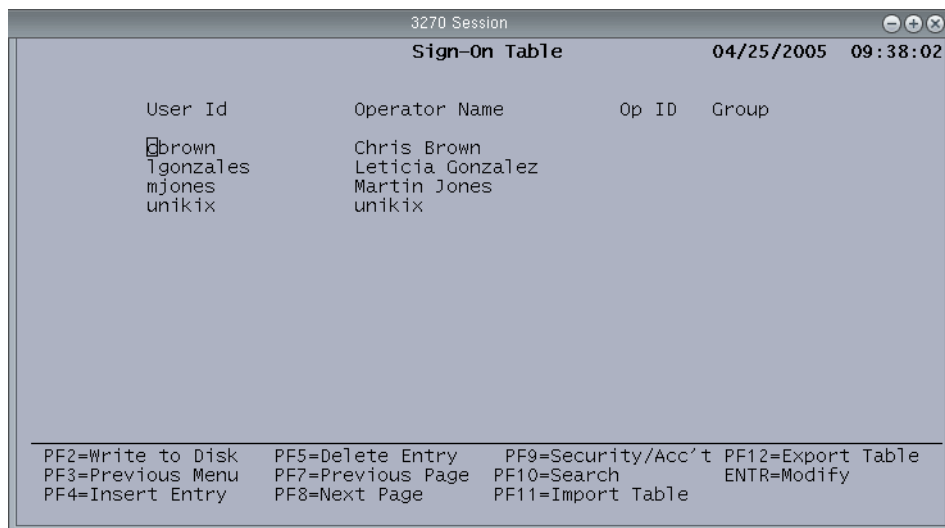


図 3-27 Sign-On Table

SNT の情報は、識別情報と、セキュリティおよびアカウント情報とに分けられます。最初の SNT 画面には、識別情報が表示されます。ユーザーを選択して PF9 キーを押すと、セキュリティおよびアカウント情報を表示できます。

SNT 識別情報は、次のとおりです。

フィールド	説明
ユーザー ID	CESN トランザクションとともに使用される 8 文字のフィールド。この値は、ユーザー ID と比較されます。一致すると、ユーザーは UNIX ユーザー ID を使用して Sun MTP にサインオンします。
Operator Name	CSSN トランザクションを使用して、領域にサインオンするために使用される英数字の名前 (最大 20 文字)。
Op ID	オペレータ識別子。ユーザーがサインオンするときに、TCT の「Operator OpUserID」フィールドにコピーされる 3 文字のフィールドです。このフィールドのデータは、OPID オプションの要求時に、ASSIGN コマンドによって使用されます。
Group	グループ名が GCT の「Group Name」フィールドで指定されている場合、このフィールドにその値が入ります。詳細は、166 ページの「グループ制御テーブル (GCT)」を参照してください。 このグループの読み取り専用インジケータ (「R/O」フィールド) が No に設定されている場合、SNT 画面で PF2 キーを押すと、このエントリが GCT の「Directory」フィールドで指定されたディレクトリの snt.tbl に書き込まれます。このフィールドが空白の場合、エントリは読み取られるか、あるいは \$KIXSYS ディレクトリの snt.tbl ファイルに書き込まれます。

サインオンテーブル – セキュリティーおよびアカウントイン グ情報

SNT メイン画面で PF9 キーを押すと、「SNT Security/Accounting」画面 (図 3-28) が表示されます。「Security/Accounting」画面では、ユーザーの追加情報を入力できます。最初の 4 つのフィールドでユーザーを特定します。残りのフィールドには、セキュリティおよびアカウントイング情報が含まれます。

セキュリティの問題: 外部セキュリティ管理が使用可能な場合 (KIXSEC=YES)、「Password」、「Expires」、「Suspended」、「Security Key」、および「Resource Key」フィールドの値は無視されます。デフォルトのユーザー ID および事前定義された TCT エントリのユーザー ID に対する SNT のパスワードが、起動時にだけ必要とされて使用されます。Sun MTP Secure に対するユーザー名およびパスワードの構成の詳細は、『Sun Mainframe Transaction Processing ソフトウェア 管理者ガイド』を参照してください。

```

3270 Session
Sign-On Table -- Security/Accounting 04/25/2005 09:39:03

Operator Name: Chris Brown      Operator ID:
User ID:      cbrown           Group:

Password:     ***** Expires: N-E-V-E-R   Suspended: N
Security Key:
  1.....8  9.....16 17....24 25....32
  X0000000  00000000 00000000 00000000
  33....40  41....48 49....56 57....64
  00000000  00000000 00000000 00000000
                                0 - Bit Off
                                X - Bit On

Resource Key:
  1.....8  9.....16 17....24
  00000000  00000000 00000000

Operator Class:
Accounting:    D      (Y/N/D)
File ID:      00     (01-99)

PF3=Previous Menu      ENTR=Modify
PF7=Previous Entry
PF8=Next Entry
  
```

図 3-28 Sign-On Table – Security/Accounting 画面

「SNT – Security/Accounting」情報画面には、次のフィールドが含まれます。

フィールド	説明
Operator Name	表示専用のフィールド。SNT 画面からの値が含まれます。
User ID	表示専用のフィールド。SNT 画面からの値が含まれます。
Operator ID	表示専用のフィールド。SNT 画面からの値が含まれます。
Group	表示専用のフィールド。SNT 画面からの値が含まれます。

フィールド	説明
Password	<p>サインオンするオペレータの 8 文字のパスワード。パスワードを入力すると、そのまま表示されます。つまり、このフィールドは保護されていません。</p> <p>デフォルトでは、このフィールドは英数字のパスワードでもすべてが数値のパスワードでも受け入れます。すべてが数値のパスワードまたはすべてが英字のパスワードを指定する場合、領域を開始する前に、SIT のパスワードタイプフィールドを設定する必要があります。詳細は、116 ページの「システム初期化テーブル (SIT)」を参照してください。</p> <p>この節の最初の「セキュリティの問題」を参照してください。</p>
Expires	<p>パスワードが期限切れになる日付。表示専用のフィールドです。ユーザーが CESN トランザクションを使用してパスワードを変更した場合、またはパスワードが EXEC CICS CHANGE PASSWORD コマンドで変更された場合のみ更新されます。</p>
Suspended	<p>パスワードが管理者によって停止されているかどうかを示します。</p> <p>N: パスワードは停止されていません (デフォルト)。 Y: ユーザー ID およびパスワードは使用不可です。 M: 次の検査時にパスワードを変更するようユーザーに強制します。</p> <p>管理者がパスワードまたは SNT の特定ユーザー ID の停止状態を変更すると、変更はただちに有効になります。領域を再起動する必要はありません。</p>
Security Key	<p>PCT に設定されたトランザクションセキュリティレベル (「Trans Sec」フィールド) との比較に使用されるセキュリティキーを定義する 64 バイトのフィールド。このフィールドのデータは、OPSECURITY オプションの要求時に、ASSIGN コマンドによって使用されます。エントリーは 8 つのグループに表示されます。</p> <p>Users: デフォルトは、最初のレベルがオンのセキュリティキーです。これによって、ユーザーはセキュリティキーが 1 に設定されたトランザクションにアクセスできます。図 3-28 の 1 の位置の X がこれを示します。</p> <p>Transactions: デフォルトは、1 の設定のセキュリティキーです。</p> <p>この節の最初の「セキュリティの問題」を参照してください。</p>
Resource Key	<p>ユーザーがサインオンすると、TCT 端末エントリーとマージされる 24 バイトのフィールド。このフィールドのデータは、OPERKEYS オプションの要求時に、ASSIGN コマンドによって使用されます。</p> <p>この節の最初の「セキュリティの問題」を参照してください。</p>

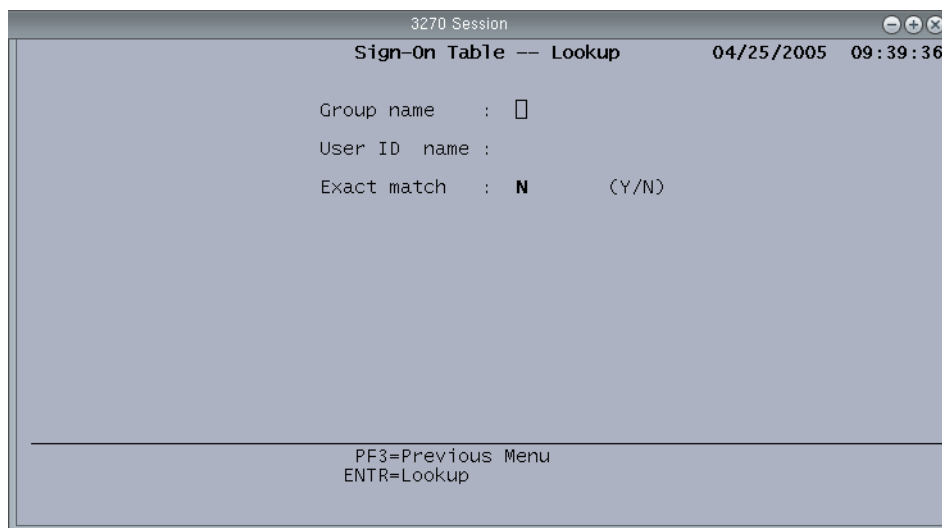
フィールド	説明
Operator Class	オペレータがサインオンすると、TCT 端末エントリにコピーされる 3 文字のフィールド。このフィールドのデータは、OPCLASS オプションの要求時に、ASSIGN コマンドによって使用されます。 値 SYS を入力すると、『Sun Mainframe Transaction Processing ソフトウェア 管理者ガイド』の「システム状態」の表で指定されたタスクを実行できます。
Accounting	1 文字のフラグ。 Y: SIT の「Accounting」フラグが Y に設定されている場合、このユーザーのアカウントリングはオンです。 N: このユーザーアカウントリングはオフです。 D: (デフォルト) アカウントリングは SIT フィールドおよび MCT テーブルによって制御されます。
File ID	ユーザーのジャーナルファイル識別子。「Accounting」が N に設定されている場合、この数字は無視されます。JCT で File ID が指定されていない場合、ジャーナルファイル名は JRNL と File ID 値を連結して作成されます (たとえば、JRNL05)。

▼ サインオンテーブルにユーザーを追加する

1. SNT 画面で PF4 キーを押して、挿入画面を表示します。
2. 新しいユーザーを追加します。
3. 追加を終了したら、Enter キーを押します。
4. SNT 画面で、新しいユーザーを選択して PF9 キーを押します。
5. 「Security/Accounting」画面で、ユーザーに関する必要な情報を入力して Enter キーを押します。
6. 新しいユーザーごとに手順 4 および 5 を繰り返します。
7. 終了したら、テーブルをディスクに保存します。

サインオンテーブル – 検索画面

SNT メイン画面で PF10 キーを押すと、「SNT – Lookup」画面が表示されます。「Lookup」画面では、ユーザーを検索できます。



```
3270 Session
Sign-On Table -- Lookup      04/25/2005 09:39:36

Group name   : 
User ID name : 
Exact match  : N      (Y/N)

-----
PF3=Previous Menu
ENTR=Lookup
```

図 3-29 Sign-On Table – Lookup 画面

SNT のユーザーを検索するには、次のフィールドに値を入力します。

フィールド	説明
Group name	ユーザーがグループに割り当てられている場合、グループ名を入力する必要があります。グループ名の最初の 2 文字などの部分的な文字列を入力できます。
User ID	検索するユーザー ID。名前の最初の 2 文字などの部分的な文字列を入力できます。
Exact match	Y は、完全一致を検索します。N は、「User ID」フィールドの文字列に一致するすべてのユーザーを検索します。

Enter キーを押して、検索を開始します。条件に一致するユーザーが見つかると、SNT メイン画面が表示されます。カーソルは、最初の一致位置に置かれます。詳細は、114 ページの「テーブルの検索」を参照してください。

PF3 キーを押すと、検索を取り消して、SNT メイン画面に戻ります。

ジャーナル制御テーブル (JCT)

ジャーナル制御テーブル (JCT) は、システムおよびユーザーのアカウント情報を含むジャーナルファイルを設定するために使用します。ユーザーのジャーナルファイルは、アプリケーションプログラムの JOURNAL コマンドによって書き込まれたメッセージを保持します。

異なるタイプのアカウント情報の定義については、『Sun Mainframe Transaction Processing ソフトウェア 管理者ガイド』を参照してください。

「Extended Tables」メニューで PF6 キーを押すと、JCT が表示されます。

File ID	Filename	Environment	File Size(K)	Buffer Size	Opt	Type	Group
01	JNLA	KIXSYS	1000	512	C		

PF2=Write to Disk PF5=Delete Entry PF11=Import Table
PF3=Previous Menu PF7=Previous Page PF12=Export Table
PF4=Insert Entry PF8=Next Page ENTR=Modify

図 3-30 Journal Control Table

JCT には、次のフィールドが含まれます。

フィールド	説明
File ID	トランザクションまたはユーザーのアカウント情報ファイルを識別するために使用されるジャーナルファイル識別子 (1 ~ 99)。SIT でアカウント情報を使用可能にする場合、このフィールドは、SIT のアカウント情報の「File ID」フィールドと一致する必要があります。これによって、システムジャーナルが指定されます。
Filename	ジャーナルファイルを指定します。
Environment	ジャーナルファイルがあるディレクトリの名前を含む環境変数。
File Size(K)	ファイルサイズ (KB 単位)。最大ファイルサイズは 999,999K バイトです。

フィールド	説明
Buffer Size	<p>ジャーナルの最大バッファサイズ (バイト単位)。72 バイト～ 32K バイトの値です。システム部分の追加後のバッファに入る文字よりも多い文字数のジャーナルレコードが書き込まれると、LENGERR 例外条件が発生します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ジャーナルがシステムジャーナルの場合、32K バイトのバッファサイズを使用します。バッファが 32K バイトになるまで、アカウンティングレコード (約 0.5K バイト) がメモリーにバッファされます。32K バイトに達すると、バッファはディスクにフラッシュされます。 バッファサイズを 32K バイトにすると、バッファ使用が増加してファイル I/O が減少するので性能が向上します。大きなバッファサイズを使用すると、メモリーに格納されるアカウンティングデータの量が増加しますが、システムのクラッシュで消失する場合があります。Sun MTP アカウンティングジャーナルの最低バッファサイズは 1024 バイトです。
Opt	現在は使用できません。このオプションを設定する場合は c とする必要があります。
Type	<p>ジャーナルファイルをキャッシュするかどうかを示します。有効なエントリは次のとおりです。</p> <p>D: システムキャッシュを使用しません。互換性のために保持されます (デフォルト)。</p> <p>C: ジャーナルファイルのシステムキャッシュを使用可能にします。詳細は、『Sun Mainframe Transaction Processing ソフトウェア 管理者ガイド』を参照してください。</p>
Group	<p>グループ名が GCT の「Group Name」フィールドで指定されている場合、このフィールドにその値が入ります。詳細は、166 ページの「グループ制御テーブル (GCT)」を参照してください。</p> <p>このグループの読み取り専用インジケータ (「R/O」フィールド) が No に設定されている場合、JCT 画面で PF2 キーを押すと、このエントリが GCT の「Directory」フィールドで指定されたディレクトリの <code>jct.tbl</code> に書き込まれます。このフィールドが空白の場合、エントリは読み取られるか、あるいは <code>\$KIXSYS</code> ディレクトリの <code>jct.tbl</code> ファイルに書き込まれます。</p>

▼ ジャーナル制御テーブルにエントリを追加する

1. JCT メイン画面で PF4 キーを押して、挿入画面を表示します。
2. 新しいジャーナルを追加します。
3. 追加を終了したら、Enter キーを押します。
4. テーブルをディスクに保存します。

グループ制御テーブル (GCT)

GCT を使用して、特定のアプリケーションに属するすべてのテーブルをグループ化します。領域が開始すると、そのグループエントリによって参照されるすべてのテーブルが開きます。グループを追加および削除することによって、アプリケーションを領域に追加または領域から削除できます。

「Extended Tables」メニューで PF7 キーを押すと、GCT 画面が表示されます。

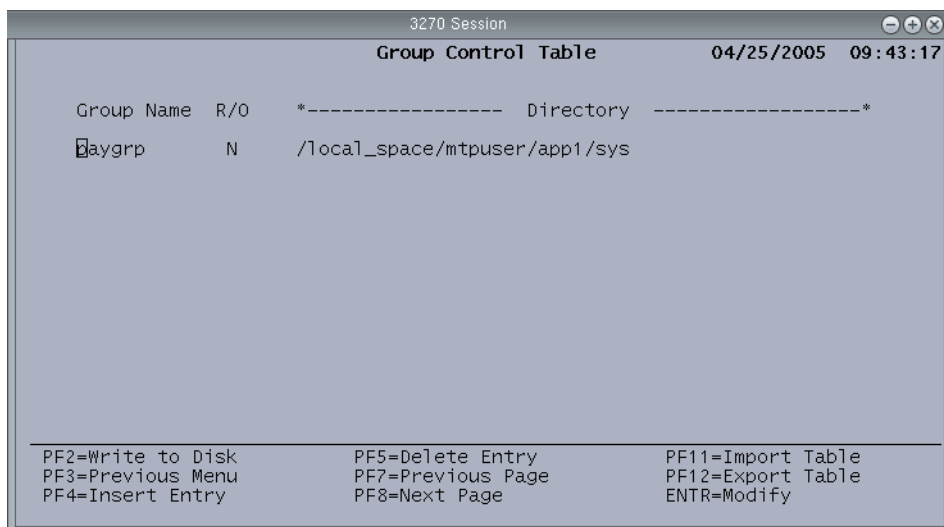


図 3-31 Group Control Table

GCT には、次のフィールドが含まれます。

フィールド	説明
Group Name	グループ名を指定します。このエントリは、他のすべての複数エントリのテーブルによって参照されます。
R/O	ディレクトリのテーブルが読み取り専用かどうかを示す 1 文字のフィールド。 Y: テーブルは読み取り専用で、他のテーブルが書き込まれるときバイパスされます。 N: テーブルは読み取り専用ではなく、更新されます。
ディレクトリ	テーブルがあるディレクトリの名前を指定します。このフィールドには、先頭に \$ を付けた環境変数を含めることができます。相対ディレクトリの場合、\$KIXSYS ディレクトリを基準にした相対パスとみなされます。

▼ グループ制御テーブルにグループを追加する

1. GCT 画面で PF4 キーを押して、挿入画面を表示します。
2. グループを追加します。
3. 追加を終了したら、Enter キーを押します。
4. テーブルをディスクに保存します。

モニター制御テーブル (MCT)

モニター制御テーブル (MCT) は、有効なデフォルトタイプのアカウンティングを制御します。このテーブルには、アカウンティングを制御するフラグが付いた単一のエントリが含まれます。SIT、PCT、および SNT には、追加のコントロールがあります。SIT は、領域全体レベルでアカウンティングをオンまたはオフにします。PCT および SNT は、それぞれトランザクションレベルおよびユーザーレベルでアカウンティングを制御します。「Extended Tables」メニューで PF8 キーを押すと、MCT が表示されます。

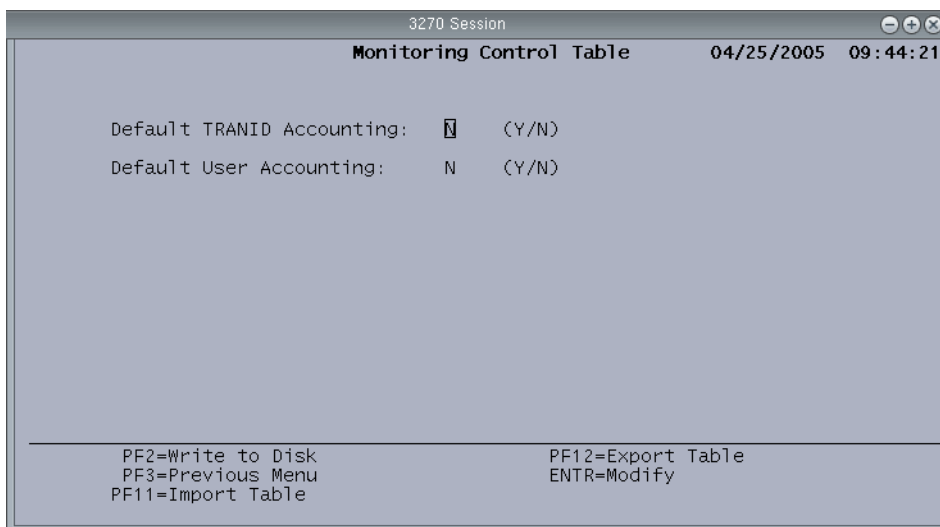


図 3-32 Monitoring Control Table

MCT には、次のフィールドが含まれます。

フィールド	説明
Default TRANID Accounting	<p>トランザクションのデフォルトアカウントングを示します。</p> <p>Y: 次の両方の条件が真の場合、すべてのトランザクションに対するアカウントングがオンです。</p> <ol style="list-style-type: none">1. SIT アカウントングフラグが Y に設定されている。2. トランザクションの PCT アカウントングフラグが Y または D に設定されている。 <p>N: 次の両方の条件が真の場合だけ、トランザクションに対するロギングが実行されます。</p> <ol style="list-style-type: none">1. SIT アカウントングフラグが Y に設定されている。2. トランザクションに対する PCT アカウントングフラグが、Y に設定されている
Default User Accounting	<p>ユーザーのデフォルトアカウントングを示します。</p> <p>Y: ユーザーの SNT アカウントングフラグが Y または D に設定されている場合、ユーザーに対するアカウントングは有効です。</p> <p>N: 次の両方の条件が真の場合だけ、ユーザーに対するロギングが実行されます。</p> <ol style="list-style-type: none">1. SIT アカウントングフラグが Y に設定されている。2. ユーザーに対する SNT アカウントングフラグが Y に設定されている。

データ変換テンプレートテーブル (CVT)

データ変換テンプレートテーブル (CVT) では、EBCDIC から ASCII などのようにデータのコードセットを別のコードセットに変換するためのテンプレートを作成します。異なる環境間でデータを転送する場合に、データ変換が必要です。Sun MTP は、インバウンド要求およびアウトバウンド要求の両方のデータを変換します。したがって、遠隔システム上で DFHCNV マクロまたは同様のマクロをコーディングする必要がありません。

注 - Sun MTP 領域と IBM CICS 領域 (EBCDIC システム) との間で ISC を介してデータを転送する場合、CVT で変換テンプレートを定義する必要があります。データ型が混在バイト (DBCS と SBCS) の場合、\$UNIKIX/src/convert/kxcvtxlt.c ユーザー出口で変換をコード化する必要もあります。ユーザー出口の詳細は、『Sun Mainframe Transaction Processing ソフトウェア 管理者ガイド』を参照してください。

CVT では、次のタイプのリソースを変換できます。

- 間隔制御
- プログラム制御
- ファイル制御
- 一時記憶領域
- 一時データ

リソースに適用する変換を定義するには、CVT に複数のエントリが必要な場合があります。各エントリで、リソースに適用できる 1 つの変換テンプレートを記述します。特定のリソースに対して、最大 256 のテンプレートを別個に定義できます。

表 3-5 CVT テンプレート

比較 テンプレート	リソースデータと比較される文字列を提供します。文字列がリソースのデータと等しい場合に、変換のためにこのテンプレートを使用します。たとえば、レコードのバイト 10 にヘッダーの H またはトレーラの T を表すレコードタイプインジケータが含まれる場合、番号 001 および 002 の 2 つの比較テンプレートが必要となります。
デフォルト テンプレート	変換されるリソースごとに、デフォルトのテンプレートを 1 つ定義します。前述の例で、バイト 10 に H も T も含まれていない場合、デフォルトテンプレートがレコードの変換に使用されます。このテンプレートのラベルは D です。
キー テンプレート	ファイルのキーに必要な変換を定義するために、KSDS ファイル変換ごとに 1 つのキーテンプレートを定義します。このテンプレートのラベルは K です。

「Extended Tables」メニューで PF9 キーを押すと、CVT が表示されます。

CVT にデータを入力するには、概要画面で情報を入力して、変換するリソースタイプおよびリソースを指定します。概要画面のエントリごとに、変換の詳細を指定する必要があります。詳細は、171 ページの「データ変換テンプレートテーブル - 詳細情報」を参照してください。

3270 Session

Data Conversion Templates Table 04/29/2005 10:33:02

Type	Name	Seq No	Group
IC	ACCTFIL	D	
FC	ACCTFIL	K	
FC	ACCTIX	D	
FC	ACCTIX	K	
FC	DBACIX	001	
FC	DBACFIL	K	
FC	DBACFIL	001	
FC	DBACIX	K	

PF2=Write to Disk PF5=Delete Entry PF9=Details ENTR=Modify
 PF3=Previous Menu PF7=Previous Page PF11=Import Table
 PF4=Insert Entry PF8=Next Page PF12=Export Table

図 3-33 Data Conversion Templates Table – 概要画面

CVT – 概要画面のフィールドは、次のとおりです。

フィールド	説明
Type	リソースタイプ。 FC: ファイル制御 IC: 間隔制御 PC: プログラム制御 TS: 一時記憶領域 TD: 一時データ US: ユーザー定義
Name	変換するリソースの名前を特定します。 タイプが FC の場合: データセット名 タイプが IC の場合: トランザクション名 タイプが PC の場合: プログラム名 タイプが TS の場合: キュー名 タイプが TD の場合: キュー名 タイプが US の場合: ユーザーが定義した 8 文字の文字列
Seq No	エントリのシーケンス番号。有効なシーケンス番号は、次のとおりです。 001 ~ 254: シーケンス番号 K: キー D: デフォルト

フィールド	説明
Group	<p>グループ名が GCT の「Group Name」フィールドで指定されている場合、このフィールドにその値が入ります。詳細は、166 ページの「グループ制御テーブル (GCT)」を参照してください。</p> <p>このグループの読み取り専用インジケータ (「R/O」フィールド) が No に設定されている場合、CVT 画面で PF2 キーを押すと、このエントリが GCT の「Directory」フィールドで指定されたディレクトリの cvt.tbl に書き込まれます。このフィールドが空白の場合、エントリは読み取られるか、または \$KIXSYS ディレクトリの cvt.tbl ファイルに書き込まれます。</p>

データ変換テンプレートテーブル – 詳細情報

CVT – 概要画面でリソースを選択し、PF9 キーを押して「Detail Table」を表示します。このテーブルで、特定の変換テンプレートの情報を入力します。最初の 3 つのフィールドで、エントリが特定されます。その他のフィールドはデータエントリ用です。図 3-34 および 図 3-35 では、Primer サンプルアプリケーションで使用される ACCTFIL データセットの詳細テーブルを示します。レコードを示す、または詳細テーブル内の情報に対応するコピーブックまたはインクルードファイルは、使用しているプログラミング言語の \$UNIX/examples/primer/language/progs ディレクトリにあります。

図 3-34 では、ACCTFIL データセットのデフォルト定義の詳細テーブルを示します。「Type」フィールドの文字 C は文字変換を、「Length」フィールドはレコードの長さを示します。

Data Conversion Template Detail Table 04/29/2005 10:36:41			
Resource Type :	FC	Resource Name :	ACCTFIL
Compare Offset:	00000	Compare Length:	
Compare Data:		Compare Type :	C
		Seq No:	D
		Code Pages:	1
		Group:	
No of Template Entries: 000			
Entry No	Type	Offset	Length
000	C		383
001			
002			
003			
004			
005			
006			
007			
PF3=Previous Menu		PF7=Previous Page	
PF4=Insert Templates		PF8=Next Page	
PF5=Delete Templates		ENTR=Modify	

図 3-34 Data Conversion Template Detail Table – デフォルト

図 3-35 では、ACCTFIL データセットのキーの詳細テーブルを示します。

```

3270 Session
Data Conversion Template Detail Table 04/29/2005 10:43:09

Resource Type : FC      Resource Name : ACCTFIL      Seq No: K
Compare Offset: 00000  Compare Length:      Code Pages: 1
Compare Data:          Compare Type : C      Group:

No of Template Entries: 001
Entry No  Type  Offset  Length
000      C      00000    5
001
002
003
004
005
006
007

PF3=Previous Menu      PF7=Previous Page
PF4=Insert Templates   PF8=Next Page
PF5=Delete Templates   ENTR=Modify
  
```

図 3-35 Data Conversion Template Detail Table – キー

「CVT Detail Table」画面には、次のフィールドが含まれます。

フィールド	説明
Resource Type	リソースタイプ。 FC: ファイル制御 IC: 間隔制御 PC: プログラム制御 TS: 一時記憶領域 TD: 一時データ US: ユーザー定義
Resource Name	変換するリソースを特定します。 リソース名が FC の場合: データセット名 リソース名が IC の場合: トランザクション名 リソース名が PC の場合: プログラム名 リソース名が TS の場合: キュー名 リソース名が TD の場合: キュー名 リソース名が US の場合: ユーザーが定義した 8 文字の文字列
Seq No	エントリのシーケンス番号。有効なシーケンス番号は、次のとおりです。 001 ~ 254: シーケンス番号 K: キー D: デフォルト

フィールド	説明
Compare Offset	比較データの変換データでの位置。この値は、0 からのオフセットで表現します。このパラメータは、K または D のシーケンス番号には適用されません。
Compare Length	比較するデータのバイト数。このパラメータは、K または D のシーケンス番号には適用されません。 文字データ 長さは、「Compare Data」フィールドの文字数と等しくなる必要があります。1 文字につき 1 バイトです。 16 進数データ 長さは、「Compare Data」フィールドの文字数の半分と等しくなる必要があります。16 進数文字につき 2 バイトです。たとえば、16 進数の 254 文字と比較する場合、「Compare Length」は 127 です。
Code Pages	別のコードセットにデータを変換する場合に使用する変換ルーチン。US ASCII 437 と US EBCDIC 037 とのコードページ変換を指定する場合には、この値を 1 に設定します。
Compare Data	比較に使用するデータ。 比較タイプが X の場合、このデータは、偶数バイトの有効な 16 進数データである必要があります。 このパラメータは、K または D のシーケンス番号には適用されません。
Compare Type	比較データのタイプ。このパラメータは、K または D のシーケンス番号には適用されません。 C: 文字比較データ X: 16 進数比較データ
Group	グループ名が GCT の「Group Name」フィールドで指定されている場合、このフィールドにその値が入ります。詳細は、166 ページの「グループ制御テーブル (GCT)」を参照してください。 このグループの読み取り専用インジケータ (「R/O」フィールド) が No に設定されている場合、CVT 画面で PF2 キーを押すと、このエントリが GCT の「Directory」フィールドで指定されたディレクトリの cvt.tbl に書き込まれます。このフィールドが空白の場合、エントリは読み取られるか、または \$KIXSYS ディレクトリの cvt.tbl ファイルに書き込まれます。
No of Template entries	テンプレートエントリ数を示す表示専用のフィールド。
Entry No	テンプレートのエントリ番号を示す表示専用のフィールド。

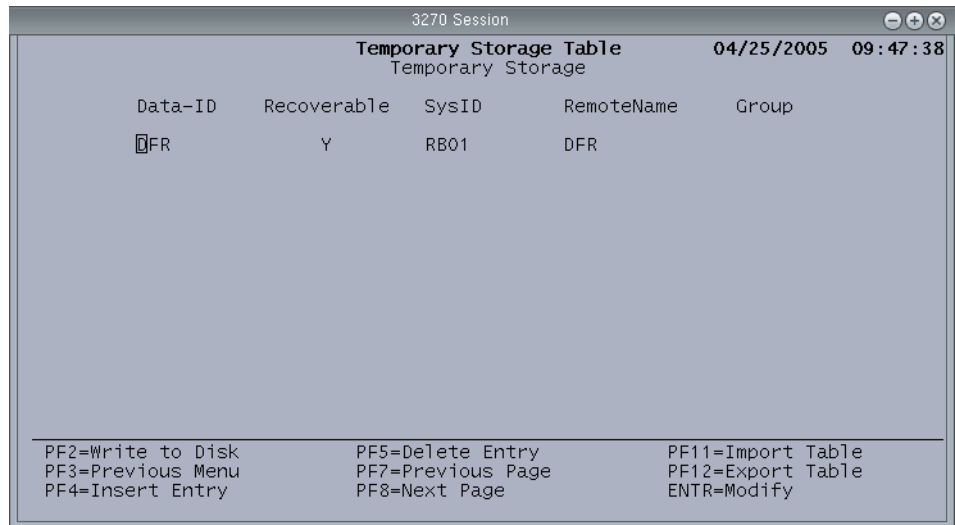
フィールド	説明
Type	<p>テンプレート内のデータタイプ。</p> <p>B: 2 進数。</p> <p>P: バック 10 進数</p> <p>C: 文字。ASCII から EBCDIC、または EBCDIC から ASCII への変換を行います。</p> <p>I: Intel バイナリ。2 バイトまたは 4 バイトのスワッピング変換を行います。</p> <p>D: DBCS 文字。2 バイトの文字を、ASCII から EBCDIC に、または EBCDIC から ASCII に変換します。</p> <p>R: 繰り返しフィールド。繰り返しフィールドの開始を設定します。</p> <p>O: オーバーパンチ数値。符号ビットの内部表記の変換を行います。</p> <p>50 ~ 80: CVT ユーザー出口 kxcvtxlt.c を呼び出す、混合化文字列などのユーザー指定の変換型。ユーザー出口については、『Sun Mainframe Transaction Processing ソフトウェア 管理者ガイド』を参照してください。</p>
オフセット	<p>シーケンス番号が K 以外の場合:</p> <ul style="list-style-type: none"> 変換するデータへのオフセット。 <p>シーケンス番号が K の場合:</p> <ul style="list-style-type: none"> EXEC CICS コマンドの RIDFLD オプションによって指定されるデータへのオフセット。 <p>この値は、0 からのオフセットで表現されます。</p>
Length	<p>シーケンス番号が K 以外の場合:</p> <ul style="list-style-type: none"> 変換するデータの長さ。 <p>シーケンス番号が K の場合:</p> <ul style="list-style-type: none"> EXEC CICS コマンドの RIDFLD オプションによって指定されるデータの長さ。 <p>タイプ I のデータの場合:</p> <ul style="list-style-type: none"> 長さは 2 または 4 のどちらかです。

▼ データ変換テンプレートテーブルにテンプレートを追加する

1. CVT 画面で PF4 キーを押して、挿入画面を表示します。
2. 新しい変換テンプレートを追加したら、Enter キーを押します。
3. CVT 画面で、新しいテンプレートを選択して PF9 キーを押します。
4. 「Details」画面で、変換情報を入力して Enter キーを押します。
5. 定義するテンプレートごとに手順 4 を繰り返します。
6. テーブルをディスクに保存します。

一時記憶領域テーブル (TST)

一時記憶領域テーブル (TST) は、ローカルおよび遠隔一時記憶領域キューの格納および回復を定義します。「Extended Tables」メニューで PF10 キーを押すと、TST が表示されます。



Data-ID	Recoverable	SysID	RemoteName	Group
DFR	Y	RB01	DFR	

PF2=Write to Disk PF5=Delete Entry PF11=Import Table
PF3=Previous Menu PF7=Previous Page PF12=Export Table
PF4=Insert Entry PF8=Next Page ENTR=Modify

図 3-36 Temporary Storage Table

Sun MTP は、回復可能なすべての一時記憶領域キューを次のように書き込みます。

TEMPSTGR 標準の回復可能な KSDS ファイル

TEMPSTG トランザクションの強制的な中止後またはシステムの再起動後は、回復サーバーによって再構築されない回復不可能な一時記憶領域ファイル。TST エントリが更新される一時記憶領域キューに適用される場合、補助一時記憶領域は回復可能です。

一時データキュートリガーが発生した場合、あるいはデータ (RTRANSID、RTERMID、QUEUE、または FROM) とともに START コマンドが実行された場合にも、レコードは TEMPSTGR ファイルに書き込まれます。データとともに START コマンドが実行されると、Sun MTP は、TST でキューのエントリを検索します。キューが回復可能な場合、レコードが TEMPSTGR ファイルに書き込まれ、トランザクションがキューに入れられます。トランザクションが実際に開始されると、Sun MTP は回復レコードから情報を削除します。これにより、異常終了する非同期トランザクションが、システムの再起動時に中断しなくなります。

TST には、次の情報が含まれます。

フィールド	説明
Data-ID	1 ～ 8 文字の一時記憶領域キュー名が含まれる一般キュー名。 Sun MTP 一時記憶領域キューを保護するには、DF のグループエントリを使用します。
Recoverable	キューが回復可能かどうかを示す 1 文字のフィールド。 Y: Data-ID が一時記憶領域キュー名の最初の文字と一致する場合、 キューは回復可能です。 N: キューは回復可能ではありません。
SysID	機能シップに使用される遠隔システムのシステム識別子を指定する 4 文字のフィールド。
RemoteName	ローカル名とは異なる場合、遠隔システムで認識される一時記憶領域キューを指定します。このフィールドは、最長 8 文字で Data-ID と同じ長さです。Sun MTP は、機能シップ要求を遠隔システムに送信する前に、この遠隔名を置き換えます。 置換時に、Sun MTP は Data-ID と一時記憶領域キュー名を比較し、RemoteName を遠隔システムに送信する前に、キュー固有の文字を RemoteName に追加します。たとえば、Data-ID が DFR、RemoteName が ABC、キュー名が DFR123 の場合、Sun MTP は ABC123 というキュー名を遠隔システムに送信します。
Group	GCT の「Group Name」フィールドで指定したグループを指定します。グループ名が指定されている場合、このフィールドにその値が入ります。詳細は、166 ページの「グループ制御テーブル (GCT)」を参照してください。 このグループの読み取り専用インジケータ (「R/O」フィールド) が No に設定されている場合、TST 画面で PF2 キーを押すと、このエントリが GCT の「Directory」フィールドで指定されたディレクトリの <code>tst.tbl</code> に書き込まれます。このフィールドが空白の場合、エントリは読み取られるか、あるいは \$KIXSYS ディレクトリの <code>tst.tbl</code> ファイルに書き込まれます。

▼ 一時記憶領域テーブルにキューを追加する

1. TST 画面で PF4 キーを押して、挿入画面を表示します。
2. 新しい一時記憶領域キューを追加します。
3. 追加を終了したら、Enter キーを押します。
4. テーブルをディスクに保存します。

用語集

数字

3270 SNA デバイス (名詞) IBM SNA 3270 データストリームを表示するターミナルデバイス。

A

abend (名詞) タスクの異常な終了。アプリケーションは、EXEC CICS ABEND コマンドを実行してタスクを異常終了させることができます。異常終了と同じ意味です。

ABEND (名詞) タスクを異常終了するための EXEC CICS コマンド。

C

COMMAREA (名詞) 通信領域。指定した端末と通信するタスク間で、データの受け渡しに使用される領域です。この領域を使用して、タスク内のプログラム間でデータを受け渡すこともできます。

D

DFHUSD ファイル (名詞) 資産定義を格納するための VSAM ファイル。

E

EBCDIC (名詞) 拡張 2 進化 10 進コード。多くのデータ処理システム、データ通信システム、および関連装置で情報交換に使用される、8 ビット符号化文字から構成された符号化文字セットです。

L

LU6.2 (名詞) 分散処理環境のプログラム間での一般的な通信をサポートする論理ユニットタイプ。

R

root ユーザー 「スーパーユーザー」を参照。

S

SOSI フィールド (名詞) SOSI (Shift-Out, Shift-In) フィールドは、シングルバイトとダブルバイト文字両方を含んだ 3270 フィールドです。SOSI フィールドのすべてのダブルバイト文字は、SOSI 文字で挟まれている必要があります。

SQL (名詞) 構造化照会言語。一連の情報へのアクセスと更新に使用されるリレーショナルデータベース言語。

Sun Mainframe Batch
Manager ソフトウェア
(Sun MBM)

(名詞) 制御された環境でバッチジョブを実行するための機能を提供するバッチマネージャー製品。Sun MBM は、バッチ作業負荷を処理し、割り当てられたパラメータ (開始時刻、バッチプロセスの最大数、ジョブの優先順位など) を基にジョブをスケジューリングします。

Sun Mainframe
Transaction Processing
ソフトウェア (Sun MTP)

(名詞) プロセス間通信サービス、ソケット、および COBOL、C、PL/I などの機能を使用してアプリケーションを実行するユーザーアプリケーション。クライアントを除く Sun MTP のすべてのコンポーネントは、メインサーバープロセスである unikixmain によって起動します。

Sun MTP グループ

(名詞) 特定のアプリケーションのテーブルファイルセット。ファイルはファイルシステムの単一のディレクトリに配置されています。ディレクトリは GCT にリストされます。

Sun MTP
シェルスクリプト

(名詞) \$UNIKIX/bin に配置されたシェルスクリプトのユーティリティープログラム。

Sun MTP 領域

(名詞) システム上の異なるアプリケーションを定義するプロセス変数、リソース変数、および環境変数のセット。

T

Table Manager

(名詞) Sun MTP テーブルで領域のリソースの定義に使用する Sun MTP 機能。

TCP/IP

(名詞) インターネットの基礎となるネットワークプロトコル群。伝送制御プロトコル (TCP) は信頼性のある全二重のデータストリームを提供します。インターネットプロトコル (IP) は、TCP のパケット配信サービスを提供するプロトコルです。TCP プロトコルは、ユーザープロセスではなく、IP と連携します。

TCTUA

(名詞) 端末ユーザー領域。端末に関連するトランザクション間で、データの受け渡しに使用されます。

TN3270 サーバー

(名詞) Sun MTP で、TCP/IP - TN3270 プロトコルを使用して、PC、Macintosh、および UNIX システムで実行する 3270 エミュレータのサポートを有効にします。TN3270E もサポートしています。

TN3270 プロトコル

(名詞) 従来の TCP/IP Telnet プロトコルの拡張で、ASCII 以外の文字、IBM-3270 などのブロックモードデバイス、Sun MTP などのアプリケーションで、TCP/IP を介した通信を可能にします。TN3270E も含まれます。

U

- unikixmain サーバー (名詞) Sun MTP メインサーバープロセス。
- unikixtcp サーバー (名詞) TCP/IP 接続の数と状態を監視する Sun MTP サーバー。

V

- VSAM クラスタ (名詞) VSAM 構造での最上位の命名。クラスタの名前は主アクセス名です。クラスタには、データ定義、索引定義、および任意の二次索引も含まれます。
- VSAM 構成テーブル (VCT) (名詞) 基本の Sun MTP 構成パラメータを定義する制御テーブル。
- VSAM データセット (名詞) VSAM 規則に従って編成、格納、およびアクセスされる関連データの名前付き集合。
- VSAM ファイル 「VSAM データセット」を参照。

あ

- アカウントティング (名詞) ユーザーのアカウント情報を体系的に収集、記録、解釈、および表示する方法。
- アカウントティング
ジャーナル (名詞) 関連付けられたジャーナルのアカウントティングレコードを Sun MTP が書き込むファイル。ジャーナルファイル名は物理ファイル名に対応します。
オブジェクトの所有者が任意の ACL をコントロールします。
- アクティビティ
カウント (名詞) Sun MTP が完全性の管理に使用する方法。アクティビティカウントは、各 VSAM ファイルヘッダーに置かれ、領域がファイルを開閉するたびに増加します。
- 宛先制御テーブル (DCT) (名詞) 一時データコマンドで処理される、宛先の名前またはキューを含んだ Sun MTP テーブル。テーブルは、これらのキューに割り当てられた特性の定義や管理に使用されます。

アプリケーション
プログラミング
インタフェース (API)

(名詞) アプリケーションプログラムで 사용되는事前定義のインタフェース。API はルーチン名とルーチンの引数から構成され、関連付けられたアプリケーションプログラム言語の構文に従います。

い

一時記憶領域テーブル
(TST)

(名詞) ローカルおよび遠隔の一時記憶領域キューの記憶領域と回復を定義する Sun MTP テーブル。

インターネット
プロトコル (IP)

「TCP/IP」を参照。

え

パーティション外キュー

(名詞) 「DCT - Extrapartition Destinations」画面で識別されるキューに書き込まれるすべてのデータを収めた順編成ファイル。ファイルは、エントリで指定したレコード形式と長さで開かれます。

か

会話型トランザクション

(名詞) トランザクションが有効な間、ユーザーとの会話 (通常、SEND/RECEIVE のシーケンス) が行われるトランザクション。

仮想記憶アクセス方式
(VSAM)

(名詞) さまざまなアクセス方式によってレコードにアクセスする方式。

ESDS (入力順データセット) では、レコードは順次に記録され、アクセスされます。

RSDS (相対レコードデータセット) では、レコードはデータセット内で占める位置番号によって検索されます。

KSDS (キーシーケンスデータセット) では、レコードは索引またはキーによって検索されます。

カタログファイル

(名詞) VSAM データセットの名前と情報を含むファイル。

画面生成

ユーティリティ (SGU)

(名詞) 開発者がユーザーインタフェースの画面を描き、コンパイルされた基本マッピングサポート (BMS) マップを作成することを可能にするユーティリティ。そのあと、このユーティリティを使用して、開発者は画面メニューやデータエントリ画面を定義したり変更したりできます。SGU は、マップセット、マップセット内の複数のマップ、およびマップ内のさまざまなフィールドの定義を提供します。画面属性 (数値や明るさなど) もフィールドごとに指定されます。

環境変数

(名詞) プログラムファイルおよびアプリケーションの位置を定義する変数。クライアントとサーバーは、どちらも環境変数を使用します。

き

キーシーケンス

データセット (KSDS)

(名詞) キーによって参照される可変長レコードの索引付き VSAM ファイル。

機能シップ

(名詞) アプリケーションプログラムに透過的なプロセス。リソースが他の CICS システムに実際に配置されている際に、このプロセスを使って CICS はそのリソースにアクセスします。

基本マッピング

サポート (BMS)

(名詞) データストリームを端末とやり取りする機能。入出力表示データをフォーマットします。BMS マクロ命令は Sun MTP BMS アセンブラで使用され、物理および記号定義のマップファイルを作成します。

く

クラスタ

「VSAM クラスタ」を参照。

グループ

(名詞) Sun MTP では、特定のアプリケーションのテーブルファイルセット。ファイルはファイルシステムの単一のディレクトリに配置されています。ディレクトリは GCT で定義されます。UNIX システムでは、「グループ」とは共通の要件を備えたユーザーの集合も意味します。

グループ制御テーブル

(GCT)

(名詞) グループを定義する Sun MTP テーブル。各グループは、特定のアプリケーションの情報を含んだファイルシステムのディレクトリを定義します。

じ

コードページ (名詞) 16進数値とグリフの間のマッピングテーブル。たとえば、シンボル A を表すのに、ASCII コードページ ISO8859-1 は 0x41 を使用し、EBCDIC コードページ IBM-1047 は 0xC1 を使用します。

**顧客情報管理システム
(CICS)**

(名詞) ユーザー作成のアプリケーションプログラムによって、遠隔端末で入力されたトランザクションの並行処理を可能にする IBM の使用許諾を受けたプログラム。データベースの構築、使用、維持の各機能が含まれます。

さ

**サインオンテーブル
(SNT)**

(名詞) Sun MTP トランザクションの使用を承認されたユーザーのリストを含む Sun MTP テーブル。

索引ファイル

(名詞) ブロック番号とそのブロックでの最上位のキーで構成されるキーポイントが収められます。キーはレコードを指します。

し

システム間通信 (ISC)

(名詞) TCP/IP や SNA ネットワーキング機能、または SNA アクセス方式のアプリケーション間機能を使った別個のシステム間の通信。

**システム初期化テーブル
(SIT)**

(名詞) システムの初期化情報を含み、Sun MTP システム名を識別する Sun MTP テーブル。

**システム
トランザクション**

(名詞) Sun MTP 開発システムのシステム制御とアクセスに使用する Sun MTP トランザクション。システムトランザクション名の先頭には、「C」という文字が予約されています。

**システムネットワーク
体系 (SNA)**

(名詞) 情報単位を伝達し、ネットワークの構成と動作を制御するための論理構造、形式、プロトコル、および操作順序。

ジャーナル制御テーブル

(JCT) (名詞) 他のテーブルで参照されている 1 つ以上のジャーナルファイルをトランザクションが書き込むことができるかどうかを指定する Sun MTP テーブル。ジャーナルはアカウントリングデータの書き込みにも使用されます。

処理プログラムテーブル

(PPT) (名詞) Sun MTP トランザクションが参照するアプリケーションプログラムと BMS マップセットをリストする Sun MTP テーブル。

シングルバイト 文字セット (SBCS)

(名詞) 文字ごとに 1 バイトを必要とする言語スクリプトは「シングルバイト文字セット (SBCS)」と呼ばれます。たとえば、英語、スペイン語、およびフランス語がシングルバイト文字セット (SBCS) です。

す

スーパーユーザー (名詞) システムのすべての部分に無制限のアクセス権を持つ、UNIX システムの唯一のユーザー。ユーザー名は root です。

スパンファイル (名詞) 複数のファイルシステムに渡ってセグメント化されるファイル。

せ

セグメント (名詞) スパンファイルの一部分。「スパンファイル」を参照。

そ

相対レコード
データセット (RRDS) (名詞) データセット内で占める位置番号を基にレコードが検索される VSAM データセット。

ソケット (名詞) 異なるネットワークプロトコルを使用可能にするプロセス間通信の仕組み。

た

- 代替索引** (名詞) ファイル属性、物理ファイルの位置、および基本クラスタ名を持つ、VSAM カタログ内のエントリ。代替索引を使用すると、主キーとは異なるキーによってレコード検索が可能になります。
- ダブルバイト文字セット (DBCS)** (名詞) 一部の言語スクリプトは、文字の表現に 2 バイトを必要とします。そのスクリプトはダブルバイト文字セット (DBCS) と呼ばれます。たとえば、日本語、中国語、および韓国語がダブルバイト文字セット (DBCS) です。
- ダンプファイル機能** (名詞) Sun MTP からディスクファイルやシステムプリンタに、VSAM データセットのレコードの一部またはすべてを書き込む機能。
- 端末制御テーブル (TCT)** (名詞) 端末、プリンタ、および遠隔システム接続の識別情報を収めた Sun MTP テーブル。

て

- データエントリ画面** (名詞) テーブルデータの追加、変更、または削除を行う Sun MTP 画面。データエントリ画面は 1 つ以上のエントリとサブエントリ画面を持つ場合があります。
- データセグメント** (名詞) クラスタのデータ部分を収めたファイル。
- データセット** 「VSAM データセット」を参照。
- データファイル** (名詞) レコードを収めた 1 つまたは複数のデータブロックから構成されます。
- データ変換テンプレートテーブル (CVT)** (名詞) あるコードセットから他のコードセットに (たとえば、EBCDIC から ASCII に) データ変換を行うテンプレートを定義する Sun MTP テーブル。ある環境から別の異機種システム混在環境に、データを転送する際に必要となります。
- 伝送制御プロトコル (TCP)** 「TCP/IP」を参照。

と

同期点 (名詞) アプリケーションプログラムの実行での論理点。プログラムによるデータベースの変更は整合性があり完全で、データベースにコミットが可能です。この点まで持続した出力は宛先に送信され、入力メッセージキューから削除され、他のアプリケーションでのデータベースの更新が可能になります。プログラムが異常終了した場合、回復と再起動の機能は最新の同期点以前の更新をバックアウトしません。

特別メニュー (名詞) 単一テーブルのさまざまなエントリタイプ用のメニューとして使用されるメニュー。グローバルなテーブル操作も行います。

**トランザクション
イニシエータサーバー**
(unikixtrin)

(名詞) Sun MTPサーバーシステムのエージェントとして動作し、必要な Sun MTP メッセージキューにメッセージを配置します。トランザクションサーバーと開始サーバーが、出力メッセージ用に同じデータグラム機構を使用することにより、遠隔クライアントを通して直接対話できるようになります。1つの unikixtrin プロセスで、遠隔の 3270 デバイスクライアントすべてをサポートします。

トランザクションクラス (名詞) 共通の優先順位を持つトランザクションの物理グループ。

**トランザクションクラス
テーブル (TXC)** (名詞) 領域に定義されたトランザクションクラスに関する情報を含んだ Sun MTP テーブル。

**トランザクション
経路指定** (名詞) Sun MTP または CICS 領域と接続した端末による、同じあるいは異なるシステム上の他の Sun MTP または CICS 領域でトランザクションの実行を可能にします。

トレース機能 (名詞) kixdump コマンドを使用してアクセスされるメモリーにトレースエントリを作成します。デバッグに使用されます。

に

**入力順データセット
(ESDS)** (名詞) データレコードを入力順に格納する可変長 VSAM ファイル。

ひ

- 非同期処理** (名詞) プロセスの継続中に、メインフレームによる Sun MTP 領域でのトランザクション開始を可能にする、あるいは Sun MTP 領域によるメインフレームでのトランザクション開始を可能にする双方向のプロセス。
- 標準メニュー** (名詞) あるメニューから次のメニューまたはデータエントリ画面へのナビゲートに使用されるメニュー。「Table Manager」メインメニューなどが該当します。標準メニューでは、データの要求または変更は行われません。

ふ

- ファイルシステム** (名詞) 物理ディスクドライブをパーティションと呼ぶ小単位の領域に分割する機能。パーティションには、ファイルシステム、スワップ空間、ブートセクタその他の情報を含めることができます。
- ファイル制御テーブル (FCT)** (名詞) Sun MTP アプリケーションプログラムがアクセスする VSAM データファイルについての情報を収めた Sun MTP テーブル。各ファイルには一連の特性が関連付けられます。この特性を Sun MTP のコマンドルーチンで使用して、アプリケーションプログラムが指定したコマンドを検査および実行します。
- ファイルのアクセス権** (名詞) オペレーティングシステムの定義に従って、ファイルへのアクセスを制御します。「ファイルモード」とも呼ばれます。
- ファイルマネージャー** (名詞) VSAM カタログでの VSAM ファイルの定義に使用します。ファイルタイプ、キーの長さ、サイズなどのファイルの属性を定義できます。
- 物理ファイル** (名詞) 物理データファイル。テープ、ディスク、CD-ROM などの媒体に格納された文字列またはバイナリデータです。
- プログラム制御テーブル (PCT)** (名詞) Sun MTP でトランザクションの識別と初期化に使用する制御情報を収めた Sun MTP テーブル。
- プログラムリストテーブル (PLT)** (名詞) システムの起動時、ユーザーの起動時、またはシステムの停止時に Sun MTP によって自動的に開始されるプログラム名を収めた Sun MTP テーブル。
- 分散トランザクション処理 (DTP)** (名詞) システム間または領域間リンク上で互いに同期通信し合うトランザクション間に処理を分散すること。

分散プログラムリンク

(DPL)

(名詞) 領域のプログラムが他の領域のプログラムに同期リンクするシステム間通信の方法。

へ

変換前イメージ

(名詞) 回復ファイルに書き込まれるレコードのコピー。

ま

マニュアルページ

(名詞) man コマンドを使用して、コマンドの使用方法を表示できます。たとえば、grep コマンドについて表示するときは、プロンプトで `man grep` と入力します。

も

モード

(名詞) ファイルのアクセス権。

モニター制御テーブル

(MCT)

(名詞) 領域で有効状態にあるアカウントिंगのデフォルトタイプ (トランザクションとユーザーロギング) を制御する Sun MTP テーブル。このテーブルには、アカウントिंगを制御するフラグが付いた単一のエントリが含まれます。

り

領域

「Sun MTP 領域」を参照。

ろ

論理ユニット (LU) (名詞) SNA で、エンドユーザーが SNA ネットワークにアクセスして別のエンドユーザーと通信するためのポートまたはエンドユーザーがシステムサービス制御点 (SSCP) によって提供される機能にアクセスするためのポート。

索引

数字

- 101 key キーボード, 105
- 3270 Devices 画面
 - フィールド, 146 ~ 147
 - ホストおよびポート画面, 148
- 3270 クライアントイニシエータ
 - Auto Logon, 147
 - unikixi の構文, 94
 - 性能追跡, 95
 - ポート番号, 148
- 3270 デバイスクライアント, 146

A

- ASCII テーブル形式, 112
- ASSIGN コマンド
 - APPLID オプション, 116
 - OPCLASS オプション, 162
 - OPERKEYS オプション, 161
 - OPID オプション, 159
 - OPSECURITY オプション, 161
 - SYSID オプション, 117

B

- BMS
 - SIT の位置合わせフィールド, 119
 - TCT のマップの接尾辞フィールド, 147

- 言語オプション, 23
- 長いマップ変数名の処理, 24
- ページングキー, 119 ~ 120
- マップのアセンブル, 22

C

C

- BMS マップのアセンブル, 23
 - 指定
 - PCT でのプログラム名, 134
 - PPT での共用オブジェクト, 140
- CBCH トランザクション, 103
- CEDF トランザクション, 103
- CEMT トランザクション, 147
- CESN トランザクション, 19, 135, 158, 159
- CICS コマンド
 - ASSIGN
 - APPLID オプション, 116
 - OPCLASS, 162
 - OPERKEYS オプション, 161
 - OPID オプション, 159
 - OPSECURITY オプション, 161
 - INQUIRE SYSTEM, 116
 - JOURNAL, 164
 - START
 - 一時記憶領域へのレコードの書き込み, 175
 - バックグラウンドタスク, 154
 - コマンド統計情報, 39

トランザクション統計情報, 39
プログラム統計情報, 39

Clear キー, 9

CMNU トランザクション, 108

COBCPY, 33

COBOL

BMS マップのアセンブル, 23

PCT でのプログラム名の指定, 134

unikixvsam, 103

実行時システム, 103

CSPG トランザクション, 119

CSSN トランザクション, 19, 135, 158, 159

CTBL トランザクション, 108

CVT。「データ変換テンプレートテーブル (CVT)」を参照

CWA。「共通作業領域 (CWA)」を参照

D

DBCS

CVT での変換の指定, 174
サポートの有効化, 98

DCT。「宛先制御テーブル (DCT)」を参照

dfhusdup ユーティリティー

CMDFILE オプション, 12

COPY コマンド, 20

DEFINE コマンド, 13

DELETE コマンド, 19

INITIALIZE コマンド, 13

LIST コマンド, 20

PAGESIZE オプション, 12

PRINTFILE オプション, 12

USD オプション, 12

構文, 12

説明, 11

DPL。「分散プログラムリンク (DPL)」を参照

DTP。「分散トランザクション処理 (DTP)」を参照

dttermunikix, 106

E

EBCDIC ファイル、表示, 82

ebmsnap ユーティリティー, 76

Enter キー, 9

ESDS, 129

Extended Tables メニュー, 155

F

FCT。「ファイル制御テーブル (FCT)」を参照

G

GCT。「グループ管理テーブル (GCT)」を参照

I

INQUIRE SYSTEM コマンド, 116

Intrapartition Destinations 画面

エントリの挿入, 123

フィールド, 122 ~ 123

IPC 利用状況の統計情報, 39

J

Java

PCT でのプログラム名の指定, 134

PPT クラスの詳細画面, 141

JCT。「ジャーナル管理テーブル (JCT)」を参照

JOURNAL コマンド, 164

K

kixasm, 2, 21

kixbms, 2, 22

kixbrw, 2, 24

kixcat, 2, 25

KIXCISAM, 25

kixcisam, 2, 25

kixclean, 2, 26

kixclt, 2, 27, 28
kixcnvtbl81, 2, 30, 115
kixcnvtcat81, 2, 31
kixcob, 2, 33
kixcontrol, 3, 34
kixcopy, 3, 35
kixdate, 3, 35
kixdlt, 3, 36
kixdump, 3, 37 ~ 39
kixecho, 3, 40
kixed, 3, 40
kixetrace, 3, 41
kixexpcat, 3, 42
kixexptbl, 3, 43
kixfile, 3, 45 ~ 50
kixgrep, 3, 51
KIXHOST, 94
kiximpcat, 3, 51
kiximptbl, 3, 52
kixinstall, 4, 53
kixjas, 4, 54
kixjob, 4, 55
kixjournal, 4, 56
kixkeydef, 4, 56
kixlog, 4, 58
kixmakecnv, 4, 58
kixpl1, 4, 59
kixplt, 4, 60
kixprint, 4, 62
kixprntbl, 4, 62
kixprt, 4, 64
kixrcvdmp, 4, 64
kixrnm, 5, 70
kixsalvage, 5, 70
kixsgu, 5, 75
kixsh, 5, 75
kixsnap, 5, 75
KIXSNAPDIR, 76
kixstart, 5, 77
 「unikixmain」も参照
kixstop, 5, 77
kixtran, 5, 78
kixupdateGCT, 5, 79, 113

kixvalfle, 5, 80
kixverify, 5, 81
kixview, 5, 82
KSDS
 FCTでの指定, 129
 キーテンプレート, 169
 キーの長さ, 131

L

Liant Open PL/I。 「PL/I」を参照
LU Type1 プリンタ, 147
LU6.2、トレースの有効化, 151
LU名, 150

M

MCT。 「モニター管理テーブル (MCT)」を参照
mfrcd レコード形式, 93

N

ncd101 キーボード, 105
ncd97 キーボード, 105
ncdvt キーボード, 105
ncd キーボード, 105

P

PCT。 「プログラム制御テーブル (PCT)」を参照
PL/I
 kixpl1 コンパイラ, 59
 拡張子, 27, 59, 60
 指定
 PCTでのプログラム名, 134
 PPTでの共用ライブラリ, 140
 変換, 60
 マップのアセンブル, 23
PL/I コマンド言語トランスレータ。 「kixplt」
 を参照
PLT。 「プログラムリストテーブル (PLT)」を参照

PPT。「処理プログラムテーブル (PPT)」を参照

R

RDBMS、SIT での定義, 117

Remote Destinations 画面

 エントリの挿入, 127

 説明, 126 ~ 127

Reset キー, 9

RRDS, 129

S

SCS プリンタ, 147

Security/Accounting 画面

 フィールド, 160 ~ 162

Server Express ファイルハンドラ, 93

SIT。「システム初期化テーブル (SIT)」を参照

SNA 遠隔システム情報, 150 ~ 151

SNT。「サインオンテーブル (SNT)」を参照

Standard Tables メニュー, 115

START コマンド

 TST, 175

 バックグラウンドタスク, 154

Sun Mainframe Batch Manager。「Sun MBM」を参照

Sun MBM

 ebmsnap ユーティリティ, 76

 ノード, 154

 日付/時刻の構成, 35

Sun MTP テーブル, 107 ~ 176

sununikix, 106

SysID

 PPT のフィールド, 140

 TCT-3270 Devices フィールド, 147

 TCT-System Entries フィールド, 150

 TST フィールド, 176

SYSID オプション

 CICS コマンド, 149

T

Table Manager

 「テーブル」も参照

 CTBL トランザクション, 108

 Extended Tables メニュー, 155

 PF キー, 109 ~ 110

 Standard Tables メニュー, 115

 アクセス, 108

 画面タイプ, 108

 キーボードの規則, 109 ~ 110

 規則, 108

 起動, 108

 データエントリ画面, 109

 テーブルのインポート, 112

 テーブルのエクスポート, 112

 特別メニュー画面, 108

 標準メニュー画面, 108

 メインメニュー, 108

TCP/IP 遠隔システム情報, 150 ~ 151

TCP/IP サーバー, 100

TCP/IP ソケットサポート, 99

TCT。「端末制御テーブル (TCT)」を参照

TCT での文字セット識別子, 150

TDQ。「一時データキュー」を参照

TEMPSTG, 175

TEMPSTGR, 175

TST。「一時記憶領域テーブル (TST)」を参照

TWA。「トランザクション作業領域 (TWA)」を参照

TXC。「トランザクションクラステーブル (TXC)」を参照

U

unikix, 5, 84 ~ 86

unikixbld

 更新モード, 92

 使用上の考慮点, 93

 説明, 5, 86 ~ 91

 大規模ファイルでの mfrcd レコード形式の使用, 93

バッチ統計情報の表示, 91
読み込みモード, 92
unikixi, 3270 クライアントイニシエータ
LU1/LU2 端末のログインシーケンス, 95
TCT でのポート番号の指定, 148
構文, 94
説明, 5
unikixl, 84
unikixmain
kixstart ユーティリティ, 77
VSAM バッファープールの管理, 99
一時記憶領域, 102
回復サーバー, 101
共用メモリーのパディング, 102
構文, 96 ~ 102
システムデバッグオプションの設定, 98
指定
 カスタマイズされた実行可能ファイルの
 場所, 99
 共用メモリー領域, 102
 ソケット接続の数, 99
 ダンプファイル数, 100
 統計情報確認の間隔, 99
 ブロックサイズ, 97
 ポート, 100, 101
説明, 5
セマフォ, 98
代替トランザクションサーバー, 102
端末キューオプション, 101
ログファイルの表示, 98
unikixmain.dbg, 57, 96, 103
unikixmain.err, 57, 96, 98
unikixmain.log, 57, 96
unikixtcp, 100
unikixvsam, 6, 103 ~ 104

V

VCT。「VSAM 構成テーブル (VCT)」を参照

VSAM

アクセス方式, 129
クラスタ, 80
データの修復, 70

データ領域のダンプ, 39
バッファープールオプション, 99
ファイルタイプ, 129
ブロックサイズ, 97
VSAM カタログ、変換, 31
VSAM 構成テーブル (VCT), 7, 153 ~ 154
VSAM ファイル
 構築, 86
 初期化, 86, 88

X

XA リソースマネージャー、回復情報の表示, 64
xtermunikix, 105
xterm キーボード, 105
xxxstart, 6, 105
xxxunikix, 6, 105

あ

アカウンティング
 kixjas, 53
 kixjournal, 56
 デフォルト, 168
 トランザクションに対する動的な指定, 18
フラグ
 MCT, 167
 PCT, 135
 SIT, 117
 SNT, 162
アクセス方式、VSAM, 129
アセンブラ、BMS, 22
宛先制御テーブル (DCT)
 Intrapartition Destinations 画面, 121
 Remote Destinations 画面, 126
 エントリのタイプ, 120
 説明, 6, 120
 パーティション外の宛先画面, 123
アプリケーション統計情報, 39

い

- 一時記憶領域
 - 起動時の指定, 102
- キュー
 - 遠隔, 176
 - 回復, 175
 - ブロックサイズ, 101
- 一時記憶領域テーブル (TST)
 - エントリの挿入, 176
 - 説明, 7, 175 ~ 176
- 一時データキュー
 - 遠隔, 126
 - 回復可能として構成, 123
 - パーティション外, 123
 - パーティション内, 121
- インポート
 - VSAM カタログ, 51
 - テーブル, 52, 112

え

- エクスポート
 - VSAM カタログ, 42
 - テーブル, 43, 112
- エラーファイル。「unikixmain.err」を参照
- 遠隔システム
 - 一時記憶領域キュー名, 176
 - 機能シップ, 176
 - 識別子 (SysID), 149
 - 初期状態, 150
 - 端末識別子, 147
 - 通信プロトコル, 150
 - データセット名, 132
 - トランザクションコード, 140
 - プログラム名, 140
 - ポート名またはポート番号, 151
 - ホスト識別子, 152
- 遠隔システム情報, 150 ~ 151
- 遠隔トランザクション
 - PCT での定義, 136
 - 代替リソース定義による定義, 17
- 遠隔ファイル、定義, 131

遠隔プログラム

- PPT での定義, 140
- 代替リソース定義による定義, 15

お

- 大文字/小文字の変換テーブル、作成, 58
- オペレータ名, 159

か

- 回復
 - 「kixrcvdmp」も参照
 - 一時記憶領域キュー, 175
 - 回復ファイルに対するフラッシュ, 39
 - 回復ファイルの内容の表示, 64
 - 設定
 - 一時データキュー用, 123
 - ファイル用, 129
 - 領域用, 153
 - ファイル
 - ディレクトリ, 153
 - 内容の表示, 4
 - 回復ファイルのディレクトリ, 153
- 拡張トレース機能, 41
- 仮想記憶アクセス方式 (VSAM)。「VSAM」を参照
- カタログ、VSAM
 - インポート, 52
 - エクスポート, 42
 - 変換, 31
- 画面サイズ、設定, 18, 135
- 画面の形式、Sun MTP, 8
- 画面のロギング, 94
- 環境変数
 - COBCPY, 33
 - KIXCISAM, 25
 - kixdump の情報, 39
 - KIXHOST, 94
 - KIXSNAPDIR, 76

き

- キーシーケンスデータセット。「KSDS」を参照
- キー定義, 56
- キーテンプレート、KSDS ファイル変換, 169
- キーボード、デフォルトの上書き, 85
- キーボードのマッピング, 105
- 起動スクリプト, 105
- 起動端末識別子, 118
- 機能シップ
 - 一時記憶領域キュー, 176
 - 遠隔システム, 176
 - 遠隔ファイル, 131
- 基本マッピングサポート。「BMS」を参照
- キュー統計情報, 39
- 共通言語トランスレータ。「kixcslt」を参照
- 共通作業領域 (CWA), 118
- 共用バッファ, 154
- 共用メモリー
 - unikixmain オプション, 102
- 共用ライブラリ, 140

く

- クライアントプロセス
 - 3270 デバイス, 146
 - ローカル, 5, 84
- グループ管理テーブル (GCT)
 - kixupdateGCT, 78
 - 説明, 6
- グループ制御テーブル (GCT)
 - エントリの挿入, 167
 - 説明, 166
 - テーブルエントリのグループ化, 113
 - 内部テーブル
 - \$KIXSYS/rdo.dir, 110
 - \$KIXSYS/unikix.dir, 110

け

- 検索
 - FCT のデータセット, 133
 - PCT でのプログラム用, 138
 - PPT でのプログラム用, 143
 - SNT でのユーザー用, 163
 - テーブル, 114
 - テーブルの条件, 114
- 検索画面
 - FCT, 133
 - PCT, 138
 - PPT, 143
 - SNT, 163
- 検索間隔、バッチ, 154

さ

- サーバープロセス
 - unikixi, 5, 94
 - unikixmain, 5, 96
- サインオンテーブル (SNT)
 - アカウントिंगフラグ, 162
 - エントリの挿入, 162
 - オペレータ ID, 159
 - オペレータ名, 159
 - 検索画面, 163
 - セキュリティ/アカウントिंग, 160
 - 説明, 7, 158 ~ 159
 - ユーザー ID, 159
 - リソースキー, 161
- 索引ファイル、再構築, 86
- サンのキーボード, 105

し

- シェルスクリプト
 - kixasm, 21
 - kixbrw, 24
 - kixcat, 25
 - kixcob, 33
 - kixcopy, 35
 - kixdlt, 36
 - kixecho, 40

- kixed, 40
- kixgrep, 51
- kixjob, 55
- kixjournal, 56
- kixpll, 59
- kixprint, 62, 145
- kixprt, 64
- kixrnm, 70
- kixsgu, 75
- kixsh, 75
- kixsnap, 75
- kixstart, 77, 96
- unikix, 84 ~ 86
- xxxstart, 105
- xxxunikix, 105
- システムエントリ
 - TCT での定義, 149
 - 指定
 - 遠隔システム, 150
 - ホスト名, 151
- システム識別子
 - ASSIGN コマンド, 117
 - PPT, 140
 - TCT, 147, 150
 - TST, 176
- システム初期化テーブル (SIT)
 - 説明, 7, 116 ~ 119
 - パスワードセキュリティ, 117
- システム定義ファイル, 11
- システム定義ファイルの初期化, 13
- システムテーブル, 107
- システムネットワーク体系。「SNA」を参照
- ジャーナル
 - 最大バッファサイズ, 165
 - ファイル識別子, 117, 135, 164
- ジャーナル管理テーブル (JCT)
 - 説明, 6
- ジャーナル制御テーブル (JCT)
 - エントリの挿入, 165
 - 説明, 164 ~ 165
- 順編成ファイル、構築, 86
- 照会ジョブ、最大数, 154
- 照会ジョブの最大数, 154

- 状態
 - 遠隔システム, 150
 - 端末, 147
- 処理プログラムテーブル (PPT)
 - Java Class Details 画面, 141
 - エントリの挿入, 142
 - 共用ライブラリの指定, 140
 - 検索画面, 143
 - 説明, 6, 139 ~ 140

す

- スパンファイル, 89
- スピロック, 98

せ

- セキュリティ
 - TCT, 150
 - 管理、外部, 160
 - キー, 19, 135, 161
 - トランザクション, 19, 135, 161
 - パスワード, 117
- セキュリティ/アカウントングオプション
「サインオンテーブル (SNT)」を参照
- 接続セキュリティ, 150
- 接尾辞、BMS マップ, 147

そ

- 相互排他, 98
- 相互排他ロック (相互排他), 98
- 相対レコードデータセット。「RRDS」を参照
- 即時更新, 86, 92

た

- 大規模ファイル, 93
- 代替索引ファイル
 - FCT での定義, 129
 - 再構築, 86

タイムアウト期間、有効でない端末, 118
対話型プロセス、最大数, 154
ダブルバイト文字セット。「DBCS」を参照
ダンプファイル、数の設定, 100

端末

初期状態, 147
端末所有領域, 119
有効でない、タイムアウト期間, 118

端末キューオプション, 101

端末識別子

DCT, 123
TCT, 144, 146, 148
遠隔システム, 147
起動, 118
プリンタ, 144

端末所有領域 (TOR), 119

端末制御テーブル (TCT)

3270 デバイス, 146
3270 デバイス、ホストおよびポート画面, 148
System Entries, 149
System Entries Host Name 画面, 151
セキュリティ, 150
説明, 7, 144
プリンタ, 144
メインメニュー, 144

て

ディレクトリ

\$KIXBTCH, 104
\$KIXSYS, 110
\$KIXSYS/debugkix, 76
\$UNIKIX/lib/rdo.tbl, 110
\$UNIKIX/lib/unikix.tbl, 110

データエントリ画面, 109

データセット

「ESDS」も参照
「KSDS」も参照
「RRDS」も参照
FCT での定義, 128
FCT の検索, 133
遠隔システム上, 131
別名, 128

ロック, 47

データの検査, 9

データの比較, 173 ~ 174

データ変換テンプレートテーブル (CVT)

DBCS 変換, 174

Detail Table 画面

キー定義, 172
デフォルト定義, 171
フィールド, 172 ~ 174

エントリの挿入, 174

混在化文字列の変換, 174

説明, 6, 168

テンプレート, 169

フィールド, 170 ~ 171

リソースタイプ, 169

テーブル

「Table Manager」も参照

ASCII ファイル形式, 112

\$KIXSYS/rdo.dir, 110

\$KIXSYS/unikix.dir, 110

Sun MTP の形式, 112

\$UNIKIX/lib/rdo.tbl, 110

\$UNIKIX/lib/unikix.tbl, 110

VSAM 構成テーブル (VCT), 153

アカウントインジケータ, 117

宛先制御テーブル (DCT)

遠隔宛先, 126

パーティション外の宛先, 123

パーティション内の宛先, 121

一時記憶領域テーブル (TST), 175

インポート, 112

エクスポート, 112

エントリのグループ化, 113

グループ制御テーブル (GCT), 113, 166

サインオンテーブル (SNT), 158

システム, 107

システム初期化テーブル (SIT), 116

ジャーナル制御テーブル (JCT), 164

処理プログラムテーブル (PPT), 139

ダンプ, 39

端末制御テーブル (TCT)

3270 デバイス, 146

System Entries, 149

プリンタ, 144

- メニュー画面, 144
- データ変換テンプレートテーブル (CVT), 168
- 特別メニュー, 108
- トランザクションクラステーブル (TXC), 156
- ファイル制御テーブル (FCT), 127
- フォーマットされたレポート, 62
- プログラム制御テーブル (PCT), 134
- プログラムリストテーブル (PLT), 157
- 変換, 115
- マージ, 111
- モニター制御テーブル (MCT), 167
- テーブルエントリのグループ化, 113
- テーブルエントリの挿入
 - DCT-遠隔宛先, 127
 - DCT-パーティション外の宛先, 125
 - DCT-パーティション内の宛先, 123
 - FCT, 132
 - GCT, 167
 - JCT, 165
 - PCT, 137
 - PLT, 158
 - PPT, 142
 - SNT, 162
 - TCT-3270 Devices, 149
 - TCT-Printers, 146
 - TCT-System Entries, 152
 - TST, 176
 - TXC, 157
- テーブル変換, 115
- デバッグ
 - システムオプションの設定, 98
 - 有効なセッション数の設定, 154

と

- 同期点
 - kixjob, 55
 - kixprint, 62
- 統計情報
 - 間隔の設定, 99
 - 領域全体, 39
- 統計情報の概要, 39
- 特別メニュー画面, 108

- トランザクション
 - CBCH, 103
 - CEMT, 147
 - CESN, 19, 135, 158
 - CMNU, 108
 - CSPG, 119
 - CSSN, 19, 135, 158, 159
 - CTBL, 108
 - PCT での定義, 134
 - システムサインオン, 158
 - セキュリティレベル, 19, 135, 161
 - デフォルトアカウンティング, 168
 - バックエンドの DTP, 136
- トランザクション ID
 - 3270 デバイスクライアントのデフォルト, 147
 - ローカルクライアントのデフォルト, 84
- トランザクションクラス
 - PCT, 137
 - 定義, 156
 - 統計情報, 39
- トランザクションクラステーブル (TXC)
 - エントリの挿入, 157
 - 説明, 7, 156
- トランザクションコード
 - PCT での経路指定用, 136
 - 遠隔システム, 140
- トランザクションサーバー。「トランザクション処理プログラム」を参照
- トランザクション作業領域 (TWA), 135
- トランザクション処理プログラム
 - VCT での数の指定, 154
 - ユーザー領域のダンプ, 39
- トランザクションのトリガー, 122
- トレース、LU6.2, 151
- トレース機能, 41

な

- 内部テーブルのディレクトリ, 110

に

- 入力順データセット。「ESDS」を参照

ね

ネットワーク修飾パートナー名, 152

の

ノード、Sun MBM, 154

は

パーティション外の宛先画面

 エントリの挿入, 125

 フィールド, 124~125

パーティション内一時データキュー, 100

パートナーコードページ, 150

パスワード

 SITでの指定, 117

 SNTでの指定, 161

 デフォルトユーザー ID, 160

バックエンドのDTPトランザクション, 136

バックグラウンドタスク、最大数, 154

バックグラウンドタスクの最大数, 154

バッチ環境、定義, 154

バッチ検索間隔, 154

バッチ統計情報

 kixfile, 46

 unikixbld, 91

 unikixvsam, 104

バッファサイズ、ジャーナルの最大値, 165

バッファプール, 99

ひ

日付/時刻の構成, 35

日付、デフォルト形式, 118

標準メニュー画面, 108

ふ

ファイル

 ACUCOBOL-GT (.acu), 134

 C (.ccs), 27

 CATALOG, 117

 COBOL II (.cl2), 27

 Java (.class), 134

 OS/VS COBOL (.clt), 27

 PL/I (.pli、.pl1、.plt、.ppl), 27

 Server Express (.int、.gnt), 134

 TEMPSTG, 175

 TEMPSTGR, 175

 unikixmain.dbg, 57, 96, 103

 unikixmain.err, 57, 96, 98

 unikixmain.log, 57, 96

 カタログ, 52

 キーシーケンスデータセット。「KSDS」を参照

 ジャーナル, 117, 135, 164

 スナップショット, 75

 相対レコードデータセット。「RRDS」を参照

 代替索引, 129

 テーブル (.tbl), 30, 112

 統計情報, 39

 入力順データセット。「ESDS」を参照

 表示, 82

 ファイル制御テーブル (FCT)

 遠隔ファイルの特性, 131

 エントリの挿入, 132

 検索画面, 133

 説明, 6, 127~130

 ファイルの印刷, 64

 ファイルハンドラ、Server Express, 93

 ファンクションキー, 9

 プリンタ、定義, 144

 プログラム制御テーブル (PCT)

 エントリの挿入, 137

 検索画面, 138

 説明, 6, 134~136

 トランザクションクラス画面, 137

 プログラム、定義

 PCT, 134

 PLT, 158

 PPT, 139

 遠隔システム上, 140

 動的, 13

プログラムリストテーブル (PLT)
 エントリの挿入, 158
 説明, 7, 157 ~ 158
分散トランザクション処理 (DTP), 136
分散プログラムリンク (DPL), 140

へ

別名, 128
変換
 VSAM カタログ, 31
 データ, 168
 テーブル, 115
変更前イメージの統計情報, 39

ほ

ポート、設定
 TCP/IP 遠隔クライアント, 100
 遠隔 3270 クライアント, 101, 148
 遠隔システム, 151
 ソケットクライアント, 100
ホスト名
 3270 デバイス、ホストおよびポート画面, 148
 TCT での指定, 151

ま

マップ、BMS 位置合わせ, 119
マップセット、PPT での定義, 139
マップ変数名、長い, 24

み

未確定のリソースマネージャー, 68

め

メッセージのロギング, 94

メニュー

Table Manager
 拡張テーブル, 155
 標準テーブル, 115
 メイン, 108
 トレース管理ユーティリティー, 41
 日付/時刻の構成ユーティリティー, 35

も

モード名, 150
モニター管理テーブル (MCT), 6
モニター制御テーブル (MCT), 167 ~ 168

ゆ

有効でない端末、タイムアウト期間, 118
ユーザーの最大数, 154
ユーザーのデフォルトアカウントリング, 168
ユーティリティー
 「シェルスクリプト」も参照
 dfhusdup, 2
 kixasm, 2, 21
 kixbms, 2, 22
 kixbrw, 2, 24
 kixcat, 2, 25
 kixcisam, 2, 25
 kixclean, 2, 26
 kixclt, 2, 27
 kixcnvtbl81, 2, 30, 115
 kixcnvtcat81, 2, 31
 kixcob, 2, 33
 kixcontrol, 3, 34
 kixcopy, 3, 35
 kixdate, 3, 35
 kixdlt, 3, 36
 kixdump, 3, 37
 kixecho, 3, 40
 kixed, 3, 40
 kixetrace, 3, 41
 kixexpcat, 3, 42
 kixexptbl, 3, 43
 kixfile, 3, 45 ~ 50
 kixgrep, 3, 51
 kiximpcat, 3, 51

kiximptbl, 3, 52
kixinstall, 4, 53
kixjas, 4, 54
kixjob, 4, 55, 56
kixjournal, 4, 56
kixkeydef, 4
kixlog, 4, 58
kixmakecnv, 4, 58
kixpl1, 4, 59
kixplt, 4, 60
kixprint, 4, 62
kixprntbl, 4, 62
kixprt, 4, 64
kixrcvdmp, 4, 64
kixrm, 5, 70
kixsalvage, 5, 70
kixsgu, 5, 75
kixsh, 5, 75
kixsnap, 5, 75
kixstart, 5, 77
kixstop, 5, 77
kixtran, 5, 78
kixupdateGCT, 5, 79, 113
kixvalfle, 5, 80
kixverify, 5, 81
kixview, 5, 82
unikixbld, 5, 86 ~ 91
unikixvsam, 6, 103
xxxstart, 6, 105
xxxunikix, 6, 105

り

リソースキー, 161
リソースデータを変換するための
 テンプレート, 169
リソース、変換, 169
リソースマネージャー
 すべて, 69
 未確定, 68
領域の起動, 77
領域の停止, 77

ろ

ログファイル。「名前によるファイル」を参照
論理ユニット名, 150

